

古代東国村落と集落遺跡

— 下総国印旛郡村神郷の様相 —

天 野 努

目 次

1	はじめに	293
2	村神郷内の主な集落遺跡とその概要	294
	(1) 対象とした集落遺跡と分析の方法	294
	(2) 村上込の内遺跡	297
	(3) 名主山遺跡	299
	(4) 白幡前遺跡	300
	(5) 井戸向遺跡	305
	(6) 北海道遺跡	308
	(7) 権現後遺跡	310
	(8) 高津新山遺跡	313
3	集落遺跡の構成とその相互関係	313
	(1) 集落構成からみた遺跡間の様相	313
	(2) 出土遺物からみた遺跡間の様相	317
	(3) 墨(刻)書土器からみた建物群と遺跡間の様相	319
	(4) 集落遺跡と相互関係	323
4	古代村落と集落遺跡	329
	(1) 「草田」の地名墨書土器と「村神郷」	329
	(2) 村落内寺院と集落遺跡	330
	(3) 郷と村と集落遺跡	333
5	おわりに	335

1 はじめに

近年、奈良・平安時代の大規模な集落遺跡の発掘調査が増加しており、その中でも、八千代市村上及び萱田地区に所在する遺跡群からは700軒を超す竪穴住居跡と200棟以上の掘立柱建物跡が検出されている。

筆者は、かつて、この八千代市村上及び萱田地区を中心とする旧平戸川流域の地が、古代にあっては、下総国印幡郡村神郷に比定される地域であること。また、そこに所在する多くの集落遺跡によって、村神郷が構成されていたことを述べたことがある。⁽¹⁾

この下総国印幡郡村神郷とそれを構成する集落遺跡については、鬼頭清明氏により考古学資料である集落遺跡と文献資料からみた郷、村、里との関連等々古代村落史研究を進める上での新しい研究材料の一つとして取り上げられており、その成果は考古学の側から研究を進める上で教えられる点や示唆に富む点が多い⁽²⁾。

その後、調査の進捗に伴って萱田地区遺跡群の中核的存在である白幡前遺跡の内容が明らかになり、平成3年に調査報告書が刊行された。そこでは、予想された通り白幡前遺跡は萱田遺跡群の中心的な遺跡として豊富な内容を持っており、多くの新たな知見が得られている。なかでも、700点を超える墨書土器の出土は、集落遺跡内部の様相や集落遺跡相互の関係など古代の村落を考える上で貴重な情報を提供している。

この点については、白幡前遺跡発掘調査報告書の中で、整理作業を担当した大野康男氏が、萱田地区遺跡群の時期的変遷や墨書土器を中心として各遺跡における主体的な文字と共通文字の分布と変遷等から、遺跡間における人の移動の問題など萱田地区遺跡群の村落構成について概括的なまとめをしている⁽³⁾。筆者もこの頃、調査報告書をまとめていた大野康男氏から白幡前遺跡出土の墨書土器の内容について教示をうけ、墨書土器からみた村神郷の様相について小論を試みたことがある⁽⁴⁾。

また、同じ頃、萱田地区遺跡群の発掘調査に長く携わった藤岡孝司氏は、白幡前遺跡を除く、権現後、北海道、井戸向の各遺跡について、遺跡ごとに集落構成とその変遷を詳細に分析するとともに墨書土器の分布、文字の種類別傾向等々の分析を通して遺跡間の交流の問題等についても検討し、萱田地区の古代村落について論を展開している⁽⁵⁾。

これら三者に共通する点は、古代村落と集落構成という問題意識のなかで、竪穴住居と墨書土器を中心に分析を行い、各遺跡や遺跡内部の建物群ごとに主体となる文字が存在し、それらの内のいくつかは、他の建物群やさらに別の遺跡へも広がること等々、墨書土器の分布やその変遷等にみられる特徴から、遺跡内部の建物群（それを形成した人々、集団）と建物群との相互関係や遺跡間の関係等を読みとろうとしている点である。その成果は、考古学の側から古代

東国村落と集落遺跡の研究を進める上で、一つの方法を示したものと思われる。

しかしながら、三者のうち後二者は、白幡前遺跡発掘調査報告書の刊行前であり、また三者ともに、墨書土器を分析の中心としていたが他の遺構・遺物を含めた遺跡の総合的な把握については、不十分であったことは否めない。

この為、各遺跡の総合的な把握はもとよりそれに基づく遺跡群のトータルな把握が今後の研究にとって必要であるとの理解から、本論では、これまでの研究成果を踏まえ、再度、村神郷における主な集落遺跡の分析を通して、古代東国の村落と集落遺跡について、若干の検討を試みようとするものである。

2 村神郷内の主な集落遺跡とその概要

(1) 対象とした集落遺跡と分析の方法

村神郷を構成した集落遺跡のなかで、検討対象として取上げた遺跡は、遺跡面積の大半が発掘調査され、集落を構成する竪穴住居や掘立柱建物などの建物群が多数検出されている、村上込の内遺跡⁽⁶⁾、名主山遺跡⁽⁷⁾、白幡前遺跡⁽⁸⁾、井戸向遺跡⁽⁹⁾、北海道遺跡⁽¹⁰⁾、権現後遺跡⁽¹¹⁾、高津新山遺跡⁽¹²⁾の7遺跡である。このうち、村上込の内遺跡と名主山遺跡は旧平戸川右岸の郷名遺称地である「村上地区」に、白幡前遺跡・井戸向遺跡・北海道遺跡・権現後遺跡は村上地区とは旧平戸川を挟んで対岸の「萱田地区」に、高津新山遺跡は、萱田地区よりもさらに南側の、村神郷の中でも最も南西部の「高津地区」に各々所在しており、これらは径約3km程の範囲内にある遺跡である(図1)。

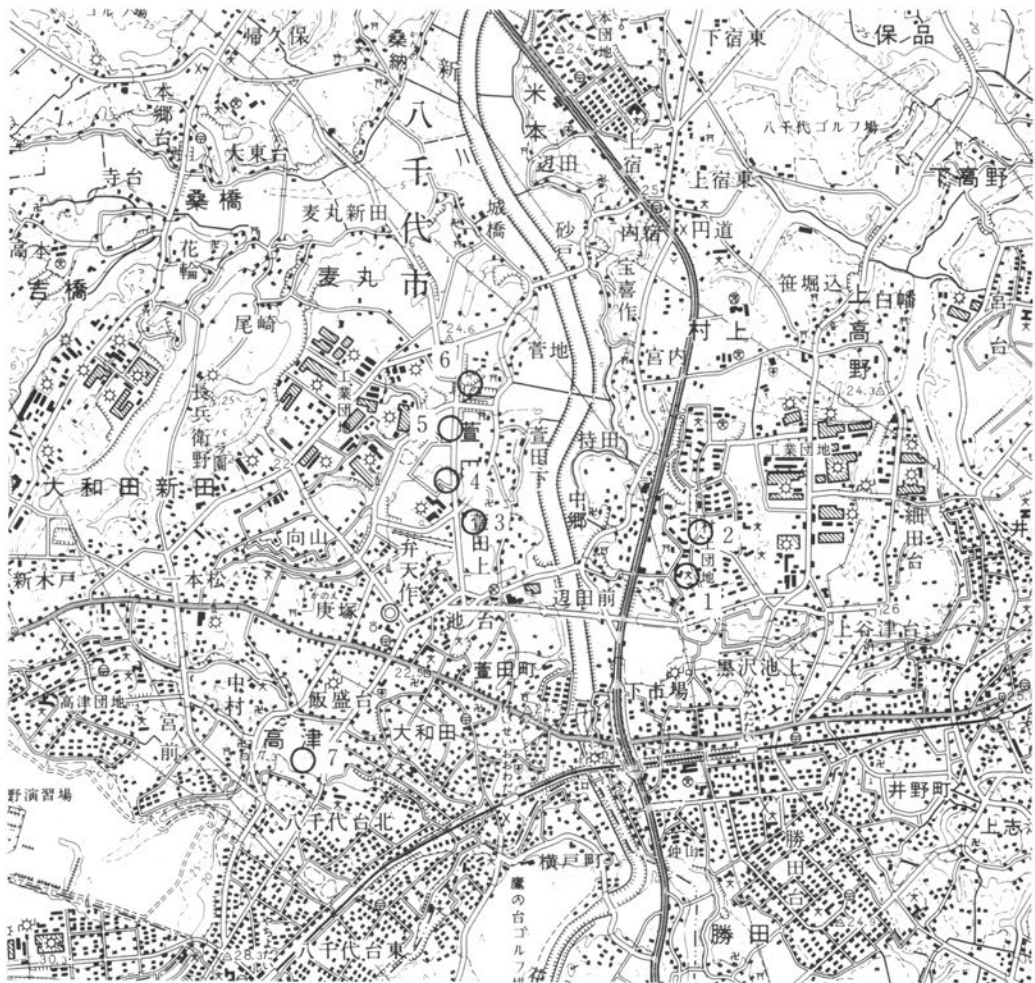
これらの7遺跡のうち、名主山遺跡と報告書が未刊である高津新山遺跡を除く5遺跡の集落構成と変遷については、下記の①～③により各々詳細な分析がなされている。

- ①村上込の内遺跡 — 平川南・天野努・黒田正典「古代集落と墨書土器 — 千葉県八千代市村上込の内遺跡の場合 — 」⁽¹³⁾
- ②白幡前遺跡 — 大野康男「古代集落としての白幡前遺跡」⁽¹⁴⁾
- ③井戸向遺跡・北海道遺跡・権現後遺跡 — 藤岡孝司「古代東国村落の分析(1) — 千葉県八千代市萱田遺跡群と墨書土器 — 」⁽¹⁵⁾

これら三者には、集落変遷の時間軸となる土器編年において多少の違いが見受けられるが、各遺跡の変遷を辿る上での時期区分には大きな相違はないと判断される。この為、ここで採用する時期区分は、主として、現在のところは村神郷内で最大規模の遺跡である白幡前遺跡でのものを基軸に据えている。なお、時期区分した同一時期での竪穴住居等の遺構数は、一定の土器型式の時間幅の中で把握された遺構数であり、すべてが同時存在したわけではない。

また、各遺跡で検出された竪穴住居や掘立柱建物は、ある一定の範囲に纏まって分布する場合が多い。そして、このように纏まった分布を示す竪穴住居や掘立柱建物等の遺構群は、一時期に数軒の竪穴住居と時には掘立柱建物等から構成され、一定の区域を占有して、ある期間継続的に住居群を形成しているものが多い。この為、本論では各遺跡の集落構成とその特徴を把握する上で、分布に纏まりをもつ遺構群を白幡前遺跡と同様に「建物群」と呼称し、この建物群を中心にして論を進めることとした。

さらに、各遺跡や建物群の特徴を把握するために、ア建物群の構成と継続性、イ出土遺物からみた建物群の特徴、ウ墨書土器からみた建物群の特徴の三点に比重を置いた分析を行うこととした。このうち、アでは、建物群ごとの時期別竪穴軒数と規模に焦点をあてている。イでは、



第1図 (1 村上込の内遺跡 2 名主山遺跡 3 白幡前遺跡 4 井戸向遺跡)
(5 北海道遺跡 6 権現後遺跡 7 高津新山遺跡)



第2図 萱田地区遺跡群全体図 (白幡前遺跡発掘調査報告書より転載)

特に建物群ごとの居住人数の増減の推定の手がかりとして、日常雑器のうち最も一般的で出土数の多い坏形土器の数量を、また、建物群の格差等の有無を把握するために、鉄器と帯金具等の出土量を取上げた。なお、坏形土器の数量については、各遺跡ともに実測図として報告書に記載されているもののうち、器形や法量等特徴のわかるものを対象として数えている。この点は、遺跡ごとの比較は難かしい面があるが、同一遺跡内での時期による比較は可能であるとの判断によっている。鉄器については、その再生処理を考慮すれば、出土数の差が必ずしも格差を反映するとは限らないが、建物群の相互関係の把握は可能であると理解される。なお、鉄器の一覧表作成にあたっては、松村恵司「古代集落と鉄器所有」⁽¹⁶⁾を参照した。ウでは、建物群ごとに文字別に墨書土器の出土量を取上げ、建物群の特徴と相互関係の把握を行うこととした。

(2) 村上込の内遺跡

台地上の面積の約3分の2(約60,000㎡)の調査区域から竪穴住居跡155軒、掘立柱建物24棟、井戸跡1基等が検出されている。

ア 建物群の分布と特徴

方墳の所在する集落内のほぼ中央部の住居の営まれない広場を中心として、大きく北側に2群(A・B地区)、南に3群(C・D・E地区)の計5群の

	竪穴住居	掘立柱建物	井戸
A群	42	3	1
B群	12	0	0
C群	37	4	0
D群	40	13	0
E群	24	4	0

建物群として把握されている。その群別、時期別、規模別状況は別表1のとおりである。

竪穴住居は未発掘区の高いB区を除くと、集落が形成されるI期(8C前葉)の時点で、A・C～Eの4群に出現しており、各群ともに各々时期的な消長があるにせよ、9C中葉～後葉頃までは継続的に住居群が形成されている。集落構成の詳細は前掲①文献で報告した通りであり、I～II期、III期、IV～V期の三時期に画期が認められるが、各群の住居数と規模からみると、8C代では、A・C群が優勢であり、9C代に入るとD群が他の群を圧倒している。

なお、本遺跡ではカマド側に白粘土を用いたテラスをもつ竪穴住居がB群(1軒)、C群(1軒)、D群(3軒)に所在しており、これはほとんど他に例を見ない構造のものであるが、白幡前遺跡で3軒検出されている。

次に掘立柱建物については、前掲①文献で3×2間、2×2間の側柱建物を居住施設として把握し、それらが9C代のIV期以降に各群に竪穴住居とセットをなして登場すること

		群(地区)					計
		A	C	D	E		
側柱	掘立柱建物						
	2×1間	1		2		3	
	2×2	1	1	6	2	10	
	3×2	1	3	5	2	11	
計		3	4	13	4	24	

を述べたが、竪穴住居の様相と同じく、9C代に入るとD群に集中する。D群には、さらに、他群にみられない2×1間の倉庫が2棟が所在しており、この点からも、9C代に入るとD群

の他群に対する優位性がうかがわれる。

イ 出土遺物からみた建物群の特徴

(ア) 坏形土器の出土量

食膳具である坏形土器の出土状況は、全般的傾向として8C代(I~III期)と9C代(IV~V期)を比較すると、9C代では竪穴住居数が8C代よりも減少するにもかかわらず1軒当りの平均出土数が増加し、8C代の倍以上となっている(別表2)。

群別にみると、8C代ではI期の段階でA群が、III期ではC群で出土量が多く、9C代では、IV期にC群、V期に入るとD群で圧倒的に多くなっている。特に、D群ではV期に、掘立柱建物群に隣接する大形住居の093号からは、100点を超す坏、皿等の食膳具が出土している。

(イ) 鉄器等の構成と出土量

総点数で150点程が出土しており、村神郷内の主な遺跡の中では、白幡前遺跡について出土量多い。

群別、時期別出土状況は別表3のとおりであり、時期別にみると全般的に9C代に入って出土が多くなる。

群別では、A群、D群からの出土が顕著であるが、A群では8C代、9C代を通して出土量が多いのに対して、D群では9C代に入ってから出土が著るしくなっている。特に、D群の93号住居(V_A期)からは10点、156号住居(V_B期)からは16点とまとまって出土している。この二軒は、ともに大形住居で隣接して掘立柱建物が存在し、前者からは銅製の帯金具の鉈尾が1点、後者からは巡方が2点出土している。また、器種別では、A群(IV期)、D群(V_B期)で鋤鍬が各1点ずつ出土しており、さらに、この両群では、鉄製の紡錘具も顕著である。

紡錘具については、鉄製の他に、石製・土製紡輪のものを含めると、各群で出土しているが、なかでも、A・B・D群が多い。なお本遺跡における紡錘具の出土量は村神郷の遺跡の中では、住居数に比しての出土量が最も多い点、特徴的である。

この他、本遺跡では、スラグがA群(III_A期1点、IV期2点)、D群(IV期17点、V期2点)、E群(V期2点)から出土しているが、A群の1点を除くと総て9C代であり、特にD群ではIV期からV_B期まで出土している。また、A群からは、羽口(IV期)が2点出土している。発掘調査では鍛冶遺構は検出されていないが、スラグの分析結果からは、小鍛冶に伴うものであることが判明している。この点を踏まえるならば、集落内において、A・D・E群で小鍛冶が行われていた可能性が強い。そして、このように紡錘具や小鍛冶が建物群ごとに偏在することは、集落内において建物群における格差やあるいは手工業的な分担が存在した可能性も想起させるものである。

帯金具(鈔帯具)は、C群、D群にみられる。C群ではIII_A期の竪穴住居と掘立柱建物に隣接

するⅣ期の竪穴住居から各1点ずつ出土している。D群では西側の掘立柱建物群から1点、中央部の掘立柱建物に隣接する大型の住居2軒（Ⅴ_A・Ⅴ_B期）から3点出土している。

ウ 墨（刻）書土器からみた建物群の特徴

墨書土器245点、刻書土器47点、ヘラ書土器28点が出土している。文字の判別出来る点数は墨書が36種198点、刻書が24種40点、ヘラ書12種26点である。

これらの群別・時期別出土状況については、別表4の通りであり、その詳細については前掲の①文献で平川南氏が分析しているところであるが、簡単にまとめておきたい。群別にみると、各々出現には時間的な差があるが、A～Eの各群に各々群ごとに固有の文字があり、かつ出土数や時期的な継続性からみて主体となる文字が存在している。すなわち、A群-「利多」、「利」、「林」、C群-「ㄩ」、D群-「毛」「来」、E群-「山」等である。このうちC群の「ㄩ」は群内ではⅡ期からⅣ期まで使用されており、Ⅲ期にはD・E群からも出土している。D群の「毛」は、「来」に次ぐ出土量をもつ文字でC群「ㄩ」とともに本遺跡では最も早く出現する墨書土器であり、D群ではⅡ期からⅤ期まで使用され、Ⅲ期～Ⅴ_A期の間、E群へ、Ⅳ期にはA・C群へと広がっている。また、同じくD群「来」は、Ⅳ期に出現し、D群内で集落の消滅するⅤ期まで続くが、その間、A・C・Eの三群へと広がっており、全体での出土量は文字の判別出来る墨書土器の約2分の1を占めている。E群「山」は、Ⅲ期に出現し、群内ではⅤ期まで続き、半数の6点がB・C・D群へと広がっている。A群「利」「利多」は群内ではⅣ～Ⅴ_A期に使用されるが、Ⅳ期にB群へ、Ⅴ_B期にはE群へと広がっている。なお、A群「林」のように、単一の群での出土のみで、使用される時期は一時期に限定されるが、複数の竪穴住居から出土する文字も、その時期に限定されるものの、群内では主体的な文字の一つとして把握される。

このような墨書土器の建物群ごとの分布からみると、C群、D群は8C中頃のⅡ期から、E群はⅢ期から、A群はⅣ期から各々固有の文字を墨書しており、そこからは建物群を構成した集団の連続性と個性がうかがえる。

平川南氏は、本遺跡の墨書土器を詳細に分析し、そこから「本集落の形成期（8世紀段階）の指導的役割を果たしたのは、「毛」と墨書した集団と考えられ、9世紀前半「来」の墨書の登場とともに本集落の墨書土器の盛行期を迎えた。そして、第Ⅳ期から第Ⅴ期にかけて、集落の中心的役割が「毛」から「来」を表記する集団へと交代したことが読みとれるのではないだろうか。」⁽¹⁷⁾と述べている。筆者もこの見解に同意するものである。

(3) 名主山遺跡

村上込の内遺跡から小支谷を隔てた200m程北側の台地上に所在した遺跡である。竪穴住居跡6軒と掘立柱建物跡6棟が検出されている。

ア 建物群の分布と特徴

竪穴住居 5 軒と掘立柱建物 6 棟が 25×25m ほどの範囲に集中し、他の 1 軒は、その地区から約 18m 程離れた地に所在している。

報告書では、遺構群の集中する地点から南西約 20m 程の地点からも別の竪穴住居跡が検出され、そこから糸切底の土師器と銅製帯金具、須恵器等が出土したことを述べていることから判断すると、建物群の複数の所在も想定される遺跡である。

竪穴住居は 8 C 後半のものとして 9 C 代前半～後半のものが主体と考えられる。

掘立柱建物は、側柱形式の 2×2 間で西側のみ柱間が 3 間となる 1 棟と、3×3 間の 1 棟、総柱形式で 3×2 間のもの 4 種である。総柱のものは高床倉庫と理解されている。

1 区域に所在する 5 軒の竪穴住居と 6 棟の掘立柱建物で構成される建物群は、主軸の方向、互いの距離と配置関係、さらに 3 軒の竪穴住居にカマドの作り替えがあること等から、竪穴住居と掘立柱建物の両者が 2～3 期にわたり各々セット関係で存在したものと考えておきたい。

掘立柱建物		群
側柱	2×2 間 (西側 3 間)	1
	3×3	1
	計	2
総柱	3×2	4
合計		6

イ 出土遺物からみた特徴

主なものとしては、施釉陶器の瓶子 1 点と銅製帯金具 2 点（巡方と鉞尾各 1 点）がある。

ウ 墨書土器とその特徴

23 点出土している。内訳は「加」（18 点）、「真」「梟」、「毛」「困」「俎」（各 1 点）である。いずれも土師器坏に記載されており、土器の時期区分が不明瞭であるが、いずれも 8 C 代後半と 9 C 代後半頃のものと考えられる。なお、墨書土器のうち、「毛」「林」は南側の村上込の内遺跡からも出土している。

(4) 白幡前遺跡

萱田遺跡群のうち最も南に位置する遺跡であり、北側の寺谷津と呼ばれる小支谷を隔てて井戸向遺跡と向い合っている。

台地上の約 86,000m² が発掘調査され、竪穴住居 279 軒、掘立柱建物跡 150 棟、井戸跡 5 基等が検出されている。これらの建物群は、8 世紀前半の一時期と、8 世紀中葉から 10 世紀初頭に及ぶもので

	竪穴住居	掘立柱建物	井戸
1 群 A	21	9	1
1 群 B	56	33	2
2 群 A	37	19	1
2 群 B	30	7	0
2 群 C	43	11	0
2 群 D	18	8	1
2 群 E	23	13	0
2 群 F	21	11	0
3 群	30	39	0

ある。

検出された建物群は、竪穴住居と掘立柱建物が一定の区域にまとまりをもって分布しており、北から南へ1群Aから3群までの9群に把握されている。なお、これら建物群は、調査区域の東側や南西側の未調査区域へも広がりを見せており、村神郷内で最大規模の遺跡である。

ア 建物群の分布と特徴

群別の建物群をまず竪穴住居からみると、その変遷は別表5に示したとおりである。その詳細については調査報告書に述べられているので、ここでは群ごとに2～3の特徴をあげておきたい。

まず、各建物群における竪穴住居数からみると、竪穴住居が一斉に構築される1期から終末期の8期までの集落経営の中で最も竪穴軒数が多いのは1期Bである。また、この1群Bは唯一、1期から8期まで継続的に竪穴住居が構築されている。次に、時期ごとに竪穴軒数をみると、全体的にはすべての群に竪穴住居が構築される3期がピークとなっているが、1群B・2群A・2群Bの三群は1～3期の主に8C代が圧倒的に多く、4a期以降主に9C代は極端に減少し、2群Aでは4b期に一時期断絶がみられる。これに対し、2群D・E・Fは3期（Fは4a期）がピークで、4a期あるいは4b期以降減少する。また、2群C、3群は3期に急増加し、以降2群Cは6期、3群は5期までは数の減少はあまりなく、特に2群Cは7期になってピークとなる。

また、竪穴住居を規模の面からみると、全体的な傾向としては、1群A・B、2群D、3群が平均面積が広い。また、各群ごとに個別的にみると、最大規模(一辺4.5m以上)の竪穴住居が1群Aでは1期から6期までの各時期で計9軒、1群Bでは1期から5期までの各時期で計8軒(但し、両群とも2期は除く)、3群では3期から4b期までの各期で計6軒所在しており、特徴的である。

掘立柱建物については、総数150棟を数え、村神郷内では最大数であり、数、規模の差はあれ、各群ごとに存在している。各群ごとの内訳は右の通りである。側柱形式の2×

群		掘立柱建物									合計
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	
側柱	1×1	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
	2×1	1			1			1			3
	2×2	3	9	8		10	1	8	6	8	53
	3×2	3	18	6	3		2	3	4	22	61
	3×3		1								2
	4×2		1	1							2
	5×2									1	1
	不明	2	3	2	2	1	4			4	18
	計	9	32	17	6	11	7	13	10	36	141
総柱	2×2		1							1	2
	3×2									1	1
	3×3			1							1
	不明								1	1	2
	計		1	1					1	3	6
廂付(身舎)	2×2						1 (東一面)				1
	3×2			1 (西面)	1 (北一面)						2
	計			1	1		1				3
合計		9	33	1	7	11	8	13	11	39	150

2間、3×2間の建物が最も多いが、総柱形式の倉庫が6棟、廂付の建物が3棟存在する。そして、廂付建物のうち、2群Aに所在する周囲を溝で区画された3×2間の身舎に四面廂のつく建物と、その周囲に所在する側柱建物群は、瓦塔の出土と合せ、8C末から9C前葉ないし中葉まで機能していた村落内寺院と付属施設として把握されている。この他、2群Aには溝で区画された四面廂建物の一群とは別に、7棟の側柱建物と1棟の総柱建物が所在する。この総柱建物について報告書では特にふれていないが、本遺跡の総柱建物の中では最も規模の大きいものである。周囲を3期の竪穴住居群が囲む形で所在し、掘立柱建物としては単独で所在することから考えると、村落内寺院の存在と合せ、村落あるいはこの集落全体に係る倉庫としての役割りを果たしていたのではないかと想定される。

さて、2群A以外の群における掘立柱建物については、特に、1群B、3群が最も多い。各建物の主軸方向、位置関係、重複例等からすると、この両群では、建物構成が一般的な3×2間、2×2間の側柱建物だけでなく、さらに3×3間、4×2間、5×2間の側柱建物や総柱建物（倉庫）等を伴った、複数の建物群としてL字形や雁行形などの整然とした配置をもって構築されていたものと把握される。そして、この両群以外の掘立柱建物群が多くて1～2回の建替えと考えられるのに対して、この両群は、1群Bで5～6回、3群で4～5回の建替えが想定され、一定の場所を長期にわたって占有していることからすると、白幡前集落の中では中心的な存在であったことがうかがえる。

また、他の建物群については、1群Aや2群Eで竪穴住居とセットとなるような配置をとっていることが報告書で指摘されているが、1群A、2群E以外の建物群も、竪穴住居とのセット関係で把握すべきものと思われる。

これら掘立柱建物群の時期について、報告書では各建物群とも4b～5期にかけて構築の開始時期を想定しているが、3群で枢鍵が出土しており、3群では3期から4a期には構築が開始されていたことを裏付けていることから、他の建物群でもこの時期に遡る可能性が高いであろうとしている。後述する出土遺物との関係等からも肯首されるところである。

イ 出土遺物からみた建物群の特徴

(ア) 坏形土器の出土量

坏形土器については、別表6に示したように、全体的な傾向としては9C代になると、8C代の2倍近い出土量となる。このような状況は、9C代に入って竪穴住居が増加する建物群だけでなく、逆に2分の1以下に減少する1群B・2群A・Bの三群においても同様である。この点、掘立柱建物の把握の仕方が問題となってくる。1軒当りの平均出土数が最も多いのは、竪穴住居が極端に減少する4b期であり、この4b期は各群ともに最も出土量が多くなってい

る。この頃、掘立柱建物が多く構築されることと関連する現象として把握しておきたい。群別では1群Aが全般を通して多いが、4b期～5期では1群Bからの出土が最も多くなっている。また、個別的にみると、遺物を多く出土する竪穴住居は、1群BのD165(4b期)、D164(5期)のように、掘立柱建物に隣接する竪穴住居からの出土例が多い。

(イ)鉄器等の構成と出土量

鉄器等の出土状況についてみると、別表7に示したように、全般的には8C代と9C代では、坏形土器と同様、9C代での出土が圧倒的に多く、特に4b～5期にかけて顕著である。また、8C代では、大半が3期に集中している。群別にみると、1群Bからの出土が最も多く、8C代では3期、9C代では4b～5期に顕著である。次いで、1群A・3群に多いが、1群Aでは1群B同様8C代では3期、9C代では4b～5期に多く、3群は8C代の3期に各群の中で最も多くなっている。この他、2群Cでは9C代の4b～7期にかけて1群Bに次いで出土量が多い。特に7期の出土数も多い点、この時期2群Cでは竪穴住居が最も多くなることと合せ特徴的である。種類別にみると、枢鍵が1群A(4b期1点)、3群(3期1点、4a期1点)から、門が1群B(5期2点)、2群E(5期1点)から各々出土しており、掘立柱建物との関連がうかがわれる。また、鉄製の紡錘具が12点出土しているが、1群Bと3群に多く、各4点づつ出土している。紡錘具については、土製、石製の紡輪と合せ、総数44点出土しており、村神郷の集落遺跡のなかでは最も多い出土数である。本遺跡では、紡錘具が出土数の多少であれ各群で出土しており、その中でも鉄製の紡錘具を多く出土している1群B(13点)、3群(9点)が顕著である。この掘立柱建物の多い両群を中心にして、麻糸や絹糸の生産(あるいは機織などの織物生産も)が活撥に行われていたことを想定させている。

帯金具については、1群A(4b期)、1群B(4b・5期)、2群F(3期)から出土している。これらの鉄器類や帯金具の個別出土状況を見ると、特に掘立柱建物に隣接する大型の竪穴住居から多量に出土している点、土器の出土量とも合せ、特徴的である

ウ 墨書土器からみた建物群の特徴

墨書土器716点、刻書土器82点、ヘラ書土器14点にのぼる膨大な量の文字資料が出土している。このうち、文字等の判別出来るものは墨書110種類599点、刻書36種類73点、ヘラ書8種類14点である。

群別・文字別出土状況は別表8の通りである。墨(刻)書土器の様相については、報告書で詳細に分析されている。ここでは、建物群ごとに主体となる文字や特徴についてふれておきたい。

まず、全般的にみると時期的には、ほとんどが3期以降である。しかし、最も早く1期に初

見となるものが4点(「〇」「山」「文」「古」)あり、しかもすべて1群Bからの出土である点留意させる。群別には、1群A・B、2群C、3群からの出土が多く、なかでも1群Bはずば抜けている。個別各群の様子は次のとおりである。

1群A—墨書26種93点、刻書13種15点を数える。3期から6期までみられるが、4b～5期がピークとなる。主体的な文字は「生」(4a～6期)であり、一方本群でのみのものとしては3期の「至」「堤至」4b期以降の「堤生」、「生堤」、「𠂔」(3～4a期)が特徴的である。1群B—墨書土器30種146点、刻書土器10種15点と最も多い。これは、竪穴住居や掘立柱建物の多さにも寄因するものと思われる。白幡前遺跡で最も早く墨(刻)書土器が出現するのは、この建物群だけであり、1期に「〇」「山」「文」「古」(刻書)がある。このうち、「〇」は、1期から8期まで、継続的に使用されており、出土数も最も多く、本群を代表する文字の一つであるが、4a期に2群Eで1点出土するものの本群のみの文字とも言って良く、「山」とともに、本群の特徴の一つである。これに対し、「文」は2期以降1群Bではみられず、2期以降4a期まで2群Eで中心となり、3期には2群C～F、3群へと広がっている。「〇」を除いて、3期以降1群Bで主体となるものには「生」「継」「立」がある。「継」は4b期以降、「立」は5～6期に主に本群を中心として広がる文字であるが、「生」は1群Aで主体的な文字であり、本群では5期に多い。なお、3期には種類・点数ともに増加するが、本建物群に限られる。又、4a期以降に継続する文字が少ないことも特徴である。この点について、報告書では「竪穴軒数は3期をピークに減少に転じるが、墨書土器の内容を見る限り、4a期を境に建物群のあり方が二分できる。4b期以降に掘立柱建物群が出現することと無関係ではあるまい」としている。なお、3期に「大寺」がある。

2群A—本建物群を中心として広がる文字はないが、3期に人面墨書・「丈部人足召代」「人足」の人名墨書や「赤山」「提赤山」の他、村落内寺院との関係がうかがえる「佛」「寺坏」等に特徴がある。3期の墨書が多い点、また、「生」「継」「益」等1群Bと共通する点が多いなど1群Bと密接な関係を有した建物群と考えられる。

2群B—墨書土器の出土数は最も少ない。本建物群を中心として広がる文字はない。「草田」(3期)の文字については、現存する地名「萱田」との関係が考えられる。2群Aとともに1群B群との関係が強い建物群と把握される。

2群C—出土数が多く、墨書土器は24種81点、刻書土器は6種10点である。本建物群を中心に広がる文字は「大」「家」があり、特に「大」は本遺跡のほとんどの群へと広がっている。また、本群のみのものとしては「麿」「滴」があり、2群Dを中心とする「廓」、2群Eを中心とする「圓」も多く出土している。

2群D—「廓」が主体的である。この「廓」は3群でも多いが、時間的にも本群での出土が

早い。「文」は2群Eと同数あるが、2群Eの出土が早い。

2群E-2群Bに次いで出土数が少ない。しかし、出土数は少ない中で、2期から4a期に「文」が、4b-5期は「圓」が本群を中心にして2群Cから3群にまで広がっている。

2群F-3-4b期にかけて「++」が主体的であり、2群D・E群を除いた他の群へと広く分布している。他に、「小堤」「子」が特徴的である。

3群-墨書土器20種類108点、刻書土器2種2点である。「饒」「豊」「廓」が主体である。「廓」が2群Dと本群を中心にして他群へと広く分布するのに対して、「饒」「豊」は2群Dへ1点のみの分布であり、その意味では本群に特徴的な文字である。

以上、墨(刻)書土器の出現の時期や継続期間等に相違があるにせよ、2群A・Bを除く各建物群は、各々の群を中心にして他群へと広がる主体的な文字を有している。このような状況は、規模の差はあるが、村上込の内遺跡での分布状況と類似する点が多い。この点を踏えるならば、各建物群ごとの主体的、特徴的な文字の出土は、建物群を経営する集団の個性がそこに表現されていると考えられる。同一文字の他群への広がりについて、大野康男氏は調査報告書の中で、集団内の(一部の)人間の移動を想定しているが、首肯される場所である。

(5) 井戸向遺跡

北海道遺跡と同じ台地上に所在するが、北海道遺跡が北側の谷に面しているのとは反対に、台地南側の谷に面した台地縁辺に広がっており、谷を隔てて白幡前遺跡と対している。

約120,000m²の調査区域から、竪穴住居跡95軒、掘立柱建物跡49棟、井戸跡10基が検出された。これらの建物群は、8世紀中葉の一時期と、8世紀末頃から10世紀初頭頃に及ぶものである。

検出された建物群は、分布にまとまりがみられ、北から南へI群~IV群までの4群に把握されている。

	竪穴住居	掘立柱建物	井戸
I群	36	33	7
II群	11	0	0
III群	8	12	0
IV群	40	4	3

ア 建物群の分布と特徴

群別の建物群をまず竪穴住居からみると、別表9に示したように、1期の段階で台地南側のII~IV群に一斉に構築される。しかし、このII~IV群は2期へと継続せず、一時期空白期をおいて、II・IV群は3期に、III群は4b期に入って各々竪穴住居が構築されてくる。これに対して、台地北側のI群では3期になってから竪穴住居が構築され、II~IV群が3期以降も断続的な居住を示すのに対して、3期以降7期まで継続した居住を示している。また、各群内での様子を見ると、I群には建物群の中央部に31棟の掘立柱建物群が存在するが、竪穴住居は、この掘立柱建物群を中心に3期~4a期は北側に、4b期~5期は南側に片寄って分布しており台

側のⅣ群では、Ⅰ期は台地全面に、3～4 a 期は台地西側に、5～7 期は南側斜面にと住居群の立地に大きな相違がみられる。

このように竪穴住居群の時期別の住居数や分布等の相違から判断すると、本遺跡では、集落構成の上で、人（集団）の移動等を含めかなりの変動があったものと想定される。なお、規模の点からみると、Ⅲ群ではⅠ期と4 b 期の段階に、Ⅳ群ではⅠ期に各々大形の住居が存在するが、他はおしなべて中～小形のものが多。

掘立柱建物については、群別構成は右のとおりである。

Ⅰ群は、建物群の中央部に31棟が群をなし、その東側に2棟が離れて所在している。中央部の31棟は、出土遺物、竪穴住居との関係、主軸方向、位置関係、重複例等から判断すると、L字形や雁行形などの整然として建物配置をとりながら、少なくとも4～5回の建替えを行い、4 b 期以降7期頃

掘立柱建物		群			
		Ⅰ	Ⅲ	Ⅳ	計
側柱	1×1間	1			1
	2×2	10	2	1	13
	3×2	13	8	2	23
	3×3	1	1		2
	4×2			1	1
	不明	2			2
	計	27	11	4	42
総柱	2×2	5	1		6
廂付	2×2 (身舎)	1(東一面)			1
合計		33	12	4	49

までの間構築されていたものと理解される。そして、特に3×2間、2×2間の側柱建物を主体としながらも、廂付建物や総柱建物を含め高床倉庫と考えられる建物も数多く存在し、それらが一定区域をすべて掘立柱建物で長期にわたり占有している姿は、Ⅰ群の建物群のなかでこの地区が当初から掘立柱建物群の存在する場所として意識されていたことを想定させる。これに対しⅢ群の掘立柱建物は、各期の竪穴住居と混在する形で建物群を形成しているが、主軸方向、重複関係等から判断すると、各々Ⅰ・4 b～7期を中心としてⅢ群・Ⅳ群の竪穴住居とセットで存在したものと想定される。また、Ⅳ群では、Ⅰ・Ⅲ群とは全く異なって4棟が3地点に遠く離れて所在している。出土遺物もなく、時期の確定が難しいが、周辺の竪穴住居との関係から、東側の1棟はⅠ期の、中央の1棟は4期の、西側の2棟は3期の竪穴住居に伴うものと把握しておきたい。

イ 出土遺物からみた建物群の特徴

(ア) 坏形土器の出土量

竪穴住居から出土した坏形土器の群別、時期別出土状況（別表10）をみると、全般的には、群別でⅠ群とⅢ群から、時期別では4 b～6期の間の出土量が多い。各群の相違を時期別にみると、Ⅰ期ではⅢ群、3期ではⅠ群、4 a 期にはⅣ群、4 b 期ではⅢ群、5期～7期ではⅠ群での出土が多い。また、個別的にみると、掘立柱建物群に隣接する竪穴住居や周辺の竪穴住居

から多量に出土する例が多くみうけられる。この他特殊遺物としてⅣ群の3期及び4 a期の竪穴住居から三彩小壺（2点）と三彩托（1点）が出土している。

(イ)鉄器等の構成と出土量

鉄器等の出土状況は、別表11の通りである。全般的な傾向としては、8 C代よりも9 C代に入ってから出土が種類、数量ともに増加する。また、出土数の割には8 C代では工具類の出土はなく、鏃の出土が多い点特徴的である。時期別にみると、8 C代ではⅢ期よりもⅠ期の出土量が多く、群別では、Ⅰ期の段階ではⅢ群（12点）とⅣ群（12点）が多い。9 C代では、4 a期にⅣ群（6点）で、4 b期にはⅢ群（8点）が、5期にはⅠ群（21点）が、6～7期は同じくⅠ群（8点）が出土量が多い。また、特殊なものとしては、Ⅰ群から、Ⅲ期に銅製小仏像が、Ⅴ期には釣針と富寿神宝の銅貨が出土している。

この他、帯金具が、Ⅰ期にⅢ群（鉸具1点）から、Ⅴ期にはⅠ群（丸柄、巡方各1点づつ）から、また7期にはⅣ群（巡方1点）から各々出土している。このうち、Ⅰ期のⅢ群、Ⅳ期のⅠ群では、ともに掘立柱建物に隣接する竪穴住居から出土している。

なお、製鉄関係の遺物として羽口がⅠ群で5・6期に各1点、Ⅲ群で4 b期に鉗が1点出土しており、恐らくこの時期に、両群が小鍛冶に係わっていたことを想定させている。

以上のような出土遺物の特徴からすると、各建物群の時期による消長とよく符合する。

ウ 墨（刻）書土器からみた建物群の特徴

墨書土器250点、刻書土器27点の計277点出土している。このうち、文字等の判別出来るものは墨書土器44種類160点、刻書土器14種類25点である。时期的には8 C代には刻書土器が多く、墨書土器は数点を除き、9 C代の4 a期から6期までのものである。

群別、出土状況は、別表12の通りでありⅠ群が全体の半数以上を出土している。Ⅱ～Ⅳ群はⅠ群に比して各々極端に少ない。また、最も出土数の多いのは「冨」の63点、次いで「㊦」の14点、「入」の12点である。各群の主体的な文字はⅠ群が「冨」（52点）で、次いで「㊦」（9点）が多い。この他、Ⅰ群が主体で他群へ広がる文字には「生」「盛」「仁」「十」等がある。Ⅱ群では、Ⅰ群で主体的な「冨」が多く、独自に群を代表するものはない。また、「冨」の他はほとんど1点だけの出土であるが、「㊦」「盛」「寺」「十」等、出土時期の異なるものもあるものⅠ群と共通する文字が多い。Ⅲ群は「入」が主体で、この文字はⅠ群、Ⅳ群へと広がっている。Ⅳ群では、群を代表する主体的な文字はない。ほとんどが1点だけの出土であるが、そのうちの約半数がⅠ群と共通する文字である。

(6) 北海道遺跡

権現後遺跡から小支谷を隔てた300m程南側の台地上に所在する。台地上の約120,000m²の調査区域から竪穴住居跡114軒、掘立柱建物跡10棟が検出されている。

ア 建物群の分布と特徴

I群からVIII群まで8つの建物群に分けられているが、II群・IV群は竪穴住居1軒である。

建物群をまず竪穴住居からみると、表13に示したように各群では時期ごとその変遷に大きな違いがある。まず、最初1期の段階に、III、V、VII、

	竪穴住居	掘立柱建物	井戸
I群	8	0	0
II群	1	0	0
III群	56	1	0
IV群	14	9	0
V群	6	0	0
VI群	1	0	0
VII群	21	0	0
VIII群	7	0	0

VIII群で居住が始まるが、継続的な居住は、VIII群が1期で、V、VII群が3期で終焉を迎える。これに対して、III群は1期から5期、IV群は2期から4b期、I群は3期から5期へと継続的な居住を示しており、竪穴住居数や掘立柱建物の所在と合わせると本遺跡では、2期以降は、III群、IV群が主体的な建物群であったことをうかがわせる。なお、5期に入ると全般的に竪穴住居が少なくなるが、4a期以降居住のなかった北側のV、VII、VIII群の地区へも竪穴住居が構築され、広がっている。このようにみえてくると、本遺跡では、建物群の構成の上で、2期、4a期、5期の3時期に大きな変化があったことがうかがえる。

竪穴住居を規模別にみると、全体的には1～2期が大きく、5期が最も小さい。個別的には、1～2期にVII群で本遺跡で最大の一边5mを超す竪穴住居が所在しており、竪穴住居数と合せ、本遺跡に居住が始まり、開発が行われた段階では、VII群が中核的な位置を占めていたことを想定させる。

掘立柱建物については、いずれも側柱形式のものである。IV群の9棟は、一区域に集中しており、比較的小規模で倉庫と考えられる束柱をもった2×1間の2棟、居住施設と考えられる2×2間の5棟、3×2間の3棟で

掘立柱建物		群		
		III	IV	計
側柱	2×2間		5	5
	3×2	1	2	3
	計	1	7	8
束柱	2×1		2	2
合計		1	9	10

ある。各々の位置関係、主軸方向等からみるとL字形や雁行形を呈する配置の建物群が想定され、周辺の竪穴住居や出土遺物等からみると、2期から3期、さらに4b期から5期にかけての時期に営まれていた可能性が考えられる。

イ 出土遺物からみた建物群の特徴

(7) 坏形土器の出土量

全般的に出土量は多くない。8 C代と9 C代では、他の遺跡と同様9 C代に多くなるが、なかでも、4 b期から5期に増加する（別表14）。

群別にみると、Ⅲ群、Ⅳ群に多い。また、個別的には、掘立柱建物群周辺に位置するⅢ群の069号住居（5期）は一辺3 m強の小形の住居であるが、周辺には同時期の竪穴はなく、カマドの作り替えなど改築が認められ、そこからは坏、皿等の食膳具が35点以上出土している。食膳具の出土数からみた場合、権現後遺跡007号住居と同様の掘立柱建物群の厨房施設としての機能を担っていた可能性も想定させる。なお、Ⅳ群の掘立柱建物群の周辺の竪穴住居からは069号住居ほどでないにせよ平均以上の食膳具を出土する例が多いことも留意される。

(イ)鉄器等の構成と出土量

竪穴住居数の割に出土量は少ない。8 C代と9 C代の比較では、他の遺跡では9 C代での出土が多いのに反して、本遺跡では8 C代での出土数が多い点特徴的である。また、種別的にも、8 C代は農具、工具、生活用具、武器類など多く出土しているが、9 C代では逆に、出土する種類が限定されている（別表15）。

群別にみると、Ⅲ、Ⅳ、Ⅶ群での出土が多く、8 C代ではⅦ群で1～2期に、Ⅲ、Ⅳ群では2～3期での出土数が多い。また、9 C代ではⅢ群では4 a、4 b期に、Ⅳ群では4 b期に集中する。

なお、本遺跡では鉄製紡錘具の出土はないが、Ⅳ群でのみ3期と4 b期に石製紡錘車が5点出土しており、このⅣ群では継続的に布生産に係る糸の生産が行われていた可能性を強くしている。

この他、帯金具については、掘立柱建物群に隣接するⅣ群の2期の竪穴住居から銅製の鉞尾が1点、Ⅲ群の4 b期の竪穴住居2軒からは丸柄と巡方が各1点ずつ出土している。

ウ 墨（刻）書土器からみた特徴

166点出土しており、文字等の判別出来るものは墨書土器41種110点、刻書土器6種6点である。刻書土器はほとんどが記号的なもので、8 C中葉から末頃までのものであり、墨書土器は、8 C中葉には出現し、9 C前葉から後葉にかけて盛行する。文字は41種類にのぼるが、うち26種は1点のみである。

これらの群別、時期別出土状況は別表16に示したが、最も出土数の多いものは「冨」の27点、次いで「㊦」「万」の17点である。

群別にみると、「冨」がⅢ・Ⅳ群を主体にⅠ・Ⅴ群に、「㊦」「万」がⅢ群主体にⅠ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅶ群に各々広がっている。両者ともに8 C後半～末頃（3期）にⅣ群に出現し、「冨」が3期から5期まで出土数に大きな変化がなく広がっていくのに対して、「㊦」「万」は「万」が3期に、

「㊦」が4 a 期に出現するものの、IV b・V 期に盛行し、広がっている。両者はともにその出土量と出土住居数から本遺跡の主体的な墨書土器といえるが、掘立柱建物群の所在するIV 群における「冨」と「㊦」「万」の分布状況や出土点数等から判断すると、「冨」がより主体的な文字と考えられる。

このような墨書土器の分布の特徴からみると、本遺跡の中心であるIII 群とIV 群の建物群は、3 期以降、「冨」「㊦」だけでなく、複数点出土している「へ」「盛」「仁」「八」等の文字も共通して出土しており、なかでも「盛」はIII 群では2 期に出現していること等から、III 群・IV 群は、別個の建物群というより、大きく同一の建物群として把握した方が良いのではないかと思われる。

なお、III 群からは、8 C 後半に「丈部乙刀自女形代」、9 世紀前半に「村神丈□」の墨書土器が出土している。「村神丈□」は「村神郷丈部××」を意味するものと理解されるところからすれば、「丈部」という部姓の集団がIII 群では当初から主体的な存在であったことを示すものと思われる。

(7) 権現後遺跡

萱田地区の遺跡群の中で最も北側に位置している。172,000m²に及ぶ広大な台地上のうち、東側の台地縁辺に竪穴住居跡65軒、掘立柱建物跡17棟、方形周溝遺構2基、土器焼成遺構7基、井戸1基等が検出されている。

ア 建物群の分布と特徴

遺構群は4地区にまとまって分布しており、右表のI～IV 群の建物群に把握されている。このうち、I 群、II 群は東側の調査区域外へ、またIV 群

	竪穴住居	掘立柱建物	土器焼成窯	井戸
I 群	23	7	4	0
II 群	10	5	0	1
III 群	11	3	3	0
IV 群	21	2	0	0

は北側から東側の調査区域外へと住居等が広がるものと考えられる。II 群については、中心部が広範囲にわたって削平されていたが、竪穴住居や掘立柱建物の分布からすると検出された以上の建物が所在した可能性が強い。

竪穴住居は、1 期（8 C 中葉）の段階で、遺跡南側の谷に面した台地縁辺に1軒のみ構築されている。一定の地区を継続して占有する形で竪穴住居や掘立柱建物の建物群が形成され始めるのは、2 期からであるが、この時点ではIV 群のみである。これに対し、I～III 群は4 a 期に入ってから突発的に出現する。竪穴住居は、調査区域内ではI～IV 群ともにV 期になって消滅する。

竪穴住居の群別、時期別、規模別一覧は別表17の通りであり、I 群が最も住居数が多く、4

a～5期を通じて、変動が少ない。IV群ではIII期がピークになるがI～IV群全体ではIV b期にピークとなる。

個別群内の様相は、各々各時期ごとに1～2軒位の小単位が複数で群を構成している。I群の場合、4 a期から5期までを通じて、竪穴住居は環状に近い形をとって分布するが、掘立柱建物群とは離れた場所に位置している。これに対して、II、III群は、掘立柱建物と混在しながら分布し、III群は南北に直線的に並ぶ形である。また、IV群では、4 a期に入ると2～3期の竪穴住居が占地した区域の周辺部に1軒位の単位で所在しており、その分布に異なった様相もっている。

規模別にみると、全般的にみて、I群が平均値に近く、III群は最も大きく、IV群は4 a～5期では最も小さく、かつ各期とも平均的以下のものである。なお、個別の大きさでは、竪穴住居がI～III群に出現する4 a期に一边6 m (34m²) 近くの本遺跡で最大の竪穴住居がII群に所在する。その他4 b期ではIII群 (21.56m²)、5期ではI群 (16.02m²) に各々大形のものが所在している。

掘立柱建物は各群に所在するが、I群南西側の1軒を除いては、竪穴住居と共に、4 a～5期の間に存在したものと理解される。なお、これらの掘立柱建物について、藤岡孝司氏は前掲③文献で「倉庫」として把握しているが、側柱形式の3×2間、2×2間のものは、その規模等からも居住施設として把握しておきたい。

掘立柱建物		群					計
		I	II	III	IV		
側柱	2×2間	4	2	2	2	10	
	3×2	2	2	1		5	
	計	6	4	3	2	15	
束柱	2×2間		1			1	
	3×2間	1				1	
	計	1	1			2	
合計		7	5	3	2	17	

この他、本遺跡からはII群に宙水タイプの井戸 (4 a期) が1基所在するほか、土師器焼成窯がI群に4基、III群に3基所在している。両群の4 a期と5期の竪穴住居 (各2軒) の床面上から水簸した粘土塊が検出されたこと等々から、I群・III群に居住した集団が土器生産に携わっていたことが明らかにされている。

イ 出土遺物からみた建物群の特徴

(7) 坏形土器の出土量

別表18に示したように、全般的には4 b期から5期にかけて出土量が多いが、群別では、II群、III群が多く、IV群が最も少ない。

また、個別的には、I群の掘立柱建物群に隣接する007号住居からは、坏、皿、灰釉陶器などの食膳具が70点近く出土しており、本遺跡では最も多い出土量である。これについて、松村恵司氏は「当竪穴が掘立柱建物群に伴う厨房施設としての機能を担っていたことを想定させる。」⁽¹⁷⁾

としている。この点、II群、III群においても出土量の差はあるが、I群と同様掘立柱建物群と近接する竪穴住居からの出土量が多い傾向にある。

(イ)鉄器等の構成と出土量

別表19に示したように、鉄器類は66点出土している。判別の不明なものが15点あるが、手斧以外の工具類や刀子以外の生活用具等一般的に種類が少ない。

群別の出土状況は、I～III群に比して、IV群が出土量、種類ともに少ない。

個別にみると、食膳具を多量に出土したI群の007号住居から最多出土数の10点出土しており、さらにこの住居からは銅製帯金具の巡方、鉞尾が出土している。そして一般的な傾向としては、食膳具と同様、掘立柱建物群に接近する竪穴住居からの出土が多い傾向にあり、I・II群にあっては、帯金具も同様の傾向を示している。

なお、I群の北東端に位置する4 b期の竪穴住居から羽口が1点出土しているが、「あまり高温での使用の痕跡はない」旨報告されている。

ウ 墨書(刻)土器からみた特徴

墨書土器198点、刻書土器3点の計201点が出土しており、文字等の判別出来る点数は、墨書が32種140点、刻書が2種3点である。

群別、時期別出土数は別表20に示したとおりであるが、2期にIV群で「天人」の墨書が出土した以外はすべて4 a期から5期にかけてのものである。

本遺跡で特徴的なのは、文字等の判別している143点のうち、約57.3%の82点が「生」(生1点、主80点、主1点)であり、この「生」は、II群を筆頭にI～IV群すべてに出土し、かつ、各々の群で最も出土量が多く、長期にわたって(I～III群では4 a～5期、IV群では4 a・4 bの各期)出土していることである。他に複数点が出土している文字は「大」、「𠂔」、「𠂕」、「南」等があるが、「生」には遠く及ばない。

このような本遺跡における「生」の分布状況は、先にみた村上込の内遺跡や白幡前遺跡とは全く異なったあり方を示している。すなわち、4 a期以降に出現するI～IV群の建物群にみられる4つの集団は各々群としての個性はもちながらも、各群の共通文字「生」のもと、全体的には同族集団的な強い結びつきを持った集団として権現後集落を構成していたものと想定される。

なお、各々1点のみであるが、I群から「大伴部」II群から「丈部国依」の人名墨書土器が出土している。この異なる部姓の二者については、各々出土する建物群が違っていることから、①「大伴部」なる者が男性であれば新たな開発に際して、異なる部姓の者をも組込んだ集団が想定され、②女性であれば、同じ部姓の集団の中で、婚姻による人の移動も考えられよう。

(8) 高津新山遺跡

旧平戸川（現新川）本流から西側の高津地区に入る支谷の中程に北面したやや低い段丘上に所在している。この地は、村神郷のなかでは最も南西部にあたる。

約85,000㎡の範囲が発掘調査され、当該期の竪穴住居跡110軒、掘立柱建物23棟、製鉄遺構（小鍛冶跡）1基等が検出されている。これらの遺構群は8世紀前半から10世紀初頭頃までのものと把握されている。

検出された建物群は各々分布にまとまりがみられる。報告書が未刊の為、詳細は不明であるが、竪穴住居の分布のまとまりは、大きく4～5群に把握が可能である。また、掘立柱建物は22棟が竪穴住居とセットをなすように一地区に集中して建物群を形成しており、その主軸方向や配置、重複関係からすると、数回の建替えが考えられる。

出土遺物は、土師器、須恵器の各種土器のほか、特殊なものとしては、小鍛冶に伴う鉄滓の他羽口が10点以上出土している。また、石帯や紡錘具が出土しており、紡錘具は鉄製品が5～6点、石製紡輪のものが10点以上確認されている。

このほか、本遺跡からは墨書土器が多数出土している⁽¹⁸⁾。現在確認されているもので、墨書土器131点、刻書土器98点、総点数229点に及んでいる。このうち、文字等の判別出来るものは、別表21に示したように、墨書土器23種63点、刻書土器21種78点である。特に刻書の多い点注意される。時期・群別出土状況は不明であるが、最も出土量の多いのは「丁」の31点、次いで「丁」の12点である。「丁」は全体の約13%を占め、「丁」ともども本遺跡を代表する墨書土器といえる。また、現在のところ、本遺跡独特のものとしては、「物部」（4点）がある。いずれも刻書であるが、人名が判明するものである。このほか、本遺跡からは、出土数はごくわずかであるが、他の遺跡で主体的な文字が出土している。白幡前遺跡で主体的な「生」「○」「文」「入」「堤」「立」「井」「圓」「+」、村上込の内遺跡の「毛」、「山」、「丈」等である。

3 集落遺跡の構成とその相互関係

(1) 集落構成からみた遺跡間の様相

これまで、主な集落遺跡についてその様相を分析・概観してきた。集落構成の点からみると、各遺跡では竪穴住居と掘立柱建物が主な構成要素となっており、かつそれらが一定の区域にまとまって分布し、その多くは継続的に構築されていることから、このような建物跡の分布のまとまりを「建物群」として把握してきた。これらの建物群は、一時的のみで終わるもの、複数の時期にわたって継続して構築されるもの等その存続期間は様でなく、また、8C代と9C

代では時期によって集落構成の様相が異なるものが多いが、次のように類型化が可能である。

まず、その継続性の点からみると、次のⅠ～Ⅳの4類型に分類される。

Ⅰ類—各遺跡において、居住当初から終末期まで最も長期にわたり継続する建物群（村上込の内遺跡D群、白幡前遺跡1B群、北海道遺跡Ⅲ群、権現後遺跡Ⅰ～Ⅳ群—4a～5期—）

Ⅱ類—Ⅰ類に次いで、複数の時期にわたって長期間継続する建物群（村上込の内遺跡A～C群、白幡前遺跡1A群、2A～2F群、3群、井戸向遺跡Ⅰ群）

Ⅲ類—一定の期間建物の構築があるが、長期にわたる継続性がなく断続的に構築される建物群（井戸向遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群）

Ⅳ類—一時的のみ構築される建物群（北海道遺跡Ⅱ・Ⅵ・Ⅷ群）

これらのうち、Ⅰ・Ⅱ類の建物群で構成される遺跡は、村上込の内遺跡と白幡前遺跡である。集落全体からみれば集落を構成する建物群の安定性を示している。これに対して、Ⅲ・Ⅳ類を含む井戸向遺跡、北海道遺跡は、集落構成に不安定な要素をもっていたことが想定される。

また、その構成要素の点からみると、大きく次のA類・B類に二大別される。

A類—竪穴住居のみで構成される建物群

B類—竪穴住居と掘立柱建物で構成される建物群

さらに、A類は①竪穴住居が一時期に1～2軒あるいは2～3軒で1グループを形成し、建物群を構成するものと、②これらの竪穴住居のグループが複数で建物群を構成するものがある。また、B類は①掘立柱建物に居住施設のほか倉を含む建物群と、②倉を含まない建物群とに分けられる。なお、A類・B類ともに③大形の竪穴住居を伴うものと、④伴わないものがある。以下、各類型によって建物群を分類すると次のように分けられる。

A①類—北海道遺跡Ⅰ・Ⅴ群、井戸向遺跡Ⅱ群、白幡前遺跡2期の2C・2E・2F・3群など

A②類—村上込の内遺跡Ⅰ～Ⅲ期のC・D・E群、白幡前遺跡1～2期の1B群・2A・2B群、北海道遺跡Ⅰ期のⅧ群など

A②+③群—村上込の内遺跡Ⅰ・Ⅲ期のA群、北海道遺跡Ⅰ～Ⅱ期のⅦ群

B①類—村上込の内遺跡D群（Ⅳ～Ⅴ期）、白幡前遺跡1A・1B・2A・2B・2E・2F・3群（3～7期）、井戸向遺跡Ⅰ・Ⅲ群（4b～7期）、北海道遺跡Ⅳ群（4a～5期）、権現後遺跡Ⅰ～Ⅱ群（4a～5期）

B②類—村上込の内遺跡A・C・E群（Ⅳ～Ⅴ期）白幡前遺跡2C・2D群（4b～7期）井戸向遺跡Ⅳ群（1・3・4a期）、北海道遺跡Ⅲ群（2期）、権現後遺跡Ⅲ、Ⅳ群（4a～6期）

B②+③類—村上込の内遺跡D群（Ⅳ～Ⅴ期）、白幡前遺跡1A・1B・3群（3～5期）、

井戸向遺跡Ⅲ群（4b期）、権現後遺跡Ⅱ群（4a期）

これらのうち、A類は、そのほとんどが8C代の建物群である。9C代でもみられるものは、わずかにA①類の北海道遺跡Ⅰ・Ⅴ群、井戸向遺跡Ⅱ群であり、前記のⅢ類の一時的のみ居住のみみられる建物群がⅣ類の断続的に形成される建物群である。なお、A②+③類の大形住居を伴う建物群は、各々の遺跡では、最も早く居住が始まり、かつ住居数も多い建物群であり、居住当初の段階では中核となった建物群である。

B類については、井戸向遺跡Ⅳ群、白幡前遺跡2A群、3群を除いて、すべて9C代に入ってから構築されるものである。なかでも、B①類の建物群のうち、村上込の内遺跡D群、白幡前遺跡1B群・3群、井戸向遺跡Ⅰ群、北海道遺跡Ⅳ群、権現後遺跡Ⅱ群は一定の区域を占有して、長期間にわたり継続的に掘立柱建物が構築されており、建物数や規模の点からみて、各々の遺跡において他の群よりも優位性が認められるものである。

以上のような、建物群の継続性や構成内容からみると、全般的な傾向としては、8C代は竪穴住居で、9C代に入って竪穴住居と掘立柱建物で集落が構成されている状況を示している。そして、特に9C以降は各遺跡とも村上込の内遺跡のD群、白幡前遺跡の1B群のような、中核となる建物群が所在し、また、倉を持つ建物群と持たない建物群、さらに、掘立柱建物を持つ建物群と竪穴住居のみで構成される建物群など、集落内において建物群に格差が生じていることがうかがえる。同様に、村上込の内遺跡、白幡前遺跡、権現後遺跡は9C代にはすべての建物群で竪穴住居と掘立柱建物がセットで存在するが、井戸向遺跡と北海道遺跡では、すべての建物群に掘立柱建物は存在せず、むしろ掘立柱建物は特定の群に集中している。このような、遺跡間における集落構成上の相違は、集落内における建物群の格差と同様、集落間においても、集落の質的な差や経済的な格差があったことを想定させている。なお、この点については、建物群を構成する竪穴住居の規模、平均面積の差からも補足される（別表22）。

また、個別的に竪穴住居をみると、村上込の内遺跡では、カマド側に白粘土や砂質粘土でテラス状の張り出し部を設けたものが5軒ある。内訳は、B群1軒（VA軒）、C群1軒（Ⅱ期）、D群3軒（VA期2軒、VB期1軒）である。これと全く同じ形を示すものが、白幡前遺跡で3軒（1群B-1軒5期、2群E-2軒、5期・6期）所在する。これらは村上込の内遺跡C群のものを除いて、同時期に両遺跡で所在しており、また、両者とも超大形のものがあり、掘立柱建物に隣接して所在し、鉄器や各種土器など遺物を多量に出土するなど、そのあり様が極似している。この形の竪穴住居は、村神郷内では、現在のところ、村上込の内遺跡と白幡前遺跡でのみ検出されており、房総地域の他の遺跡でも類例がない程であるところからすると、村上込の内遺跡のD群・B群と白幡前遺跡の1群B・2群Eとは、何らかの関連性があったのではないかと推測される。

一方、掘立柱建物については、居住施設とした3×2間、2×2間の側柱建物や倉とした2×2間等の総柱建物などのほか、白幡前遺跡から村落内寺院と考えられる建物が検出されている。

この建物は白幡前遺跡2群Aにおいて検出された3×2間の身舎に5×4間の四面廂のつく建物である。そして、この堂宇と考えられる建物の周辺には付属施設と考えられる側柱建物が数棟存在し、その周囲は溝で区画されているものである。中心となる堂宇には瓦塔が安置されていたようであり、この村落内寺院は、8C後半～末から9C前半ないし中葉にかけて機能していたものと考えられている。

ここで注目されるのは、「大寺」「寺」「寺坏」等の寺に関わる墨書土器である。白幡前遺跡では1群A-「寺」(4b期)、1群B-「大寺」(3期)、2群A-「寺坏」「佛」(3期)、「寺」(4a期)、2群C-「寺坏」(4b期)と、この村落内寺院の所在する2群Aを中心として、その周辺の建物群から各々出土しているが、この他、北側の谷を隔てた台地上に所在する井戸向遺跡や北海道遺跡からも寺に関係する墨書土器等の遺物が出土している。すなわち、井戸向遺跡ではI群で「寺」、II群から「信曾」(3期)、「寺」「寺坏」「佛」(4a・b期)の墨書土器のほか、I群で青銅製小仏像(3期)が、又IV群から三彩の小壺と托(3期)が出土しており、また北海道遺跡からは、III群で「勝光寺」(3期)、IV群で「尼」(4b期)の墨書土器が出土している。なお、井戸向遺跡や北海道遺跡では、白幡前遺跡における堂宇のような建物は検出されていない。

このような各遺跡における墨書土器等の出土遺物からみると、白幡前遺跡2群Aに所在した村落内寺院は、「勝光寺」と呼ばれ⁽¹⁹⁾白幡前遺跡の建物群はもとより、井戸向遺跡や北海道遺跡など複数の集落に関係した寺であったのではないかと考えられる。そして、このことは、逆に、複数の集落が一つの寺を中心として、結びつきを持っていたことを想定させている。

なお、各遺跡から井戸が検出されている。いずれも台地上から斜面部にかけて所在しており、宙水タイプのものであるが、近接する建物群に付属する井戸として把握される。以下、遺跡ごとに掲げる。

村上込の内遺跡	A群	1基	(IV期9C前半)
白幡前遺跡	1A群	1基	(4b期9C中葉)
〃	1B群	2基	(2～3期、8C後葉～末)
〃	2D群	1基	
井戸向遺跡	I群	7基	
〃	IV群	3基	
権現後遺跡	II群	1基	(4a期9C前葉)

これらのうち、村上込の内遺跡、白幡前遺跡、権現後遺跡のものは、プランが円錐状を示す

ものであるが、井戸向遺跡のものは、円錐状と円柱状を呈す2種類のものがある。

この他に、井戸としては、名主山遺跡において、遺跡の所在する台地斜面部で湧水井戸が確認されている。

生活する上で最も欠くことの出来ないものの一つである水、そして、その為の井戸（湧水を含めて）が、集落の中で具体的にどのように存在したかは、不明な点が多い。しかし、村上込の内遺跡ほか3遺跡で検出されている宙水タイプの井戸の所在状況から判断すると、「井戸」は各遺跡ごとに所在するが、建物群ごとには必ずしも所在しないようである。

(2) 出土遺物からみた遺跡間の様相

村神郷における鉄器の出土状況とその様相については、すでに松村恵司氏が、白幡前遺跡の報告書刊行前に白幡前遺跡を除く、村上込の内、権現後、北海道、井戸向の4遺跡を対象にして分析を行い、さらに全般的な見地から論を展開されているところである。⁽²⁰⁾

このため、ここで、白幡前遺跡の状況を加えて論じる必要もない程であるが、特に遺跡間での状況や鉄器の個別的な様相など気づいた点、改めて追認することとなった点など2～3を記しておきたい。

白幡前遺跡を加えた村神郷内の主要な集落遺跡の鉄器等出土状況は、別表23の通りである。村神郷内で最大規模の白幡前遺跡が最多の出土量であるが、同様に鉄器出土量の多い村上込の内遺跡と比較すると、鉄器出土率、出土住居率、平均出土数など類似した値を示している。一方、8C代と9C代での出土量をみると、白幡前遺跡と村上込の内遺跡は9C代に多く、これに対し、北海道遺跡の場合、8C代での出土が多い。この点、北海道遺跡については、特に平均出土数は、前記2遺跡と同様、9C代に増加するが、鉄器出土率と出土住居率は逆になり、8C代が高く、9C代に入ると減少する。一般的な傾向はもとより、村神郷内においても全般的に鉄器は9C代に入って増加するが、北海道遺跡におけるこのような現象は、8C代においては北海道遺跡が村上込の内や白幡前遺跡よりも鉄器保有率が高く、鉄器の所有関係上、優位にあったことを想定させている。

次に、別表24に示したように、出土鉄器の様相についてみると、白幡前遺跡を加えても基本的な鉄器構成には大きな変化はない。しかし、遺跡間で個別的にみていくと、まず村上込の内遺跡と白幡前遺跡に鉄製紡錘具はもとより、土製・石製紡輪を含めた紡錘具の出土が集中している点が特徴的である。そして、両者ともに8C、9C代にわたって他の遺跡よりも出土量が多い点、さらに、この出土量は古代の房総地域の他の集落遺跡と比較しても特に多いことを考え合せると、村神郷の中でもこの2集落が特に布生産に関わる糸の生産を担っていたのではないかとさえ想定される。

また、鍛冶に関わる鉄鉗や羽口、スラグが村上込の内遺跡と白幡前遺跡、井戸向遺跡、権現後遺跡、高津新山遺跡から出土している。

このうち、白幡前遺跡での鉄鉗の出土は、1 A群の建物のうち掘立柱建物に隣接する大形の竪穴住居からの出土であり、9 C前葉～中葉にかけてのものである。なお、この住居からは、鎌、手鎌、刀子等と共に帯金具（鉸具、巡方）が出土している。井戸向遺跡ではⅢ群の建物群のうち、掘立柱建物に隣接する9 C中葉の大形の竪穴住居からの出土であり、この住居からは多量の土器類の他、鎌・刀子等の鉄製品も伴に多く出土している。このⅢ群は8 C中葉以後建物群が断絶し、9 C中葉に入ってから再び構築される建物群であるが、先に個別井戸向遺跡の概観や、後述する墨書土器の様相から判断して、白幡前遺跡1群Aからの移住、進出により成立した建物群であると把握されるものである。また、権現後遺跡での羽口は、報文によればほとんど羽口として使用された形跡のないものようであるが、権現後遺跡のⅠ群は、他の群とともに9 C前葉に白幡前1群Aからの分村的移住等により成立した集落である。このように、萱田地区における遺跡は、いずれも白幡前遺跡1群A及びそれに係る建物群からの出土である。この点を考慮するならば、村神郷の中では、〈村上地区〉の村上込の内遺跡、〈萱田地区〉の白幡前遺跡（それと直接関わる遺跡及び建物群）、〈高津地区〉高津新山遺跡の3遺跡など特定の遺跡で小鍛冶が行われていたことを推測される。

なお、村神郷内では現在のところ、萱田地区の西側の八千代市大和田新田字芝山に所在する芝山遺跡から9 C後半代頃の製鉄跡（製鉄炉1基）が検出されているが⁽²¹⁾、製鉄遺跡との関係については今後の検討事項としておきたい。

また、個別鉄器でみると、特殊なものとして白幡前遺跡の1 A群、3群から枢鍵、1 B群、2 E群から門が出土している。これらの鉄器はいずれも掘立柱建物に伴うものであり、特に枢鍵は、各々の時期の掘立柱建物の中に「倉」が存在していたことを想定させるものである。

帯金具については、ここで取上げた遺跡すべてで出土している。しかし、その時期はほとんど9 C前半以降であり、出土数28点のうち、3点が8 C代で、24点が9 C中葉以降である。また、その出土場所をみると、掘立柱建物跡に隣接する竪穴住居や特に大形の住居からのものが多い。この点については、松村氏が村上込の内遺跡の分析を通して指摘しており、大形の住居の居住者が鉄器を集中的に所有した可能性を示唆すること。掘立柱建物に近接する竪穴住居が厨房施設としての機能を担っていたことを想定させること。掘立柱建物の居住者が律令官人機構の末端につらなる有力者層であったことを示していること等明らかにしている。そして、「このように鉄器が、大型竪穴住居や掘立柱建物に近接した住居に偏在する傾向は、北海道集落や井戸向集落でも明瞭な形で看取でき、9世紀中ごろ以降に村神郷の内部で階層分化が進行し、有力農民層が成長する過程を具体的考古学資料から把握することができるのである。井戸向集

落では、掘立柱建物に近接した大型竪穴住居から鍛冶用具である鉄鉋が出土しており、こうした階層が、従来の伝統的な在地の支配関係に基づく一元的な鉄器供給関係を打ち破り、集落への鉄器供給や再生システムに関与し始めたことを物語っている。」⁽²²⁾としている。白幡前遺跡の状況は、こうした見解をさらに裏付けるものである。

(3) 墨（刻）書土器からみた建物群遺跡間の様相

ア 各遺跡・建物群で主体となる墨書土器

これまで概観してきた7遺跡から出土した1,986点のうち、文字等の判別されている墨（刻）書土器数は1,518点あり、その内訳は墨書土器が195種類1,293点、刻書土器が94種類225点である。なお、両者合せた種類別は264種類である。

墨（刻）書土器を種類別にみると、最も出土数の多い文字は、「生」の173点、次いで「来」の97点、「富」の95点、「太」の48点、「入」の45点、「廓」の44点、「継」の43点、「丁」の34点、「++」の34点、「○」の33点、「㊦」の33点、「毛」の32点、「立」の24点、「山」の22点、「大」の22点、「加」の19点、「井」の17点、「饒」の16点、「圓」の16点、「文」の16点、「豊」の14点、「堤」の13点、「生堤」の13点、「丁」の13点、「𠂔」の12点、「+」の11点、「千」の12点、「一千」の10点、「盛」の10点、「仁」の10点などである。このほかは、234種類537点あるが、いずれも一桁台の出土数である。

このうち、最も出土数の多い「生」は、萱田地区の白幡前、井戸向、北海道、権現後の各遺跡と高津地区の高津新山遺跡の5遺跡から出土しているが、白幡前遺跡と権現後遺跡でそのほとんどを占めている。次の「来」は現在のところ、村上地区の村上込の内遺跡だけの出土である。また、「富」は、「生」と同様に萱田地区の白幡前、井戸向、北海道、権現後の4遺跡で出土しているが、「生」とは反対に、井戸向と北海道の両遺跡が主体である。

このほかも、「一千」（高津新山遺跡）を除いて各々複数の遺跡から出土しているが、「立」「太」「継」「入」「○」「++」「井」「饒」「圓」「文」「豊」「生堤」「堤」が白幡前遺跡、「㊦」が北海道遺跡と井戸向遺跡、「毛」「山」は村上込の内遺跡、「大」「𠂔」は権現後遺跡、「丁」「丁」「千」は高津新山遺跡、「加」は名主山遺跡といよ、いずれも出土量が多く、主体的に出土する遺跡が異なっている。このことは、各々遺跡ごとに主体となる文字が存在することを示しているものと理解される。

また、各遺跡の建物群では先にみたように、各建物群ごとに多くの種類の墨書土器（文字）が出土しているが、各々の遺跡の建物群で主体（多数出土し、また長期間継続的に使用され、他群へも広がりをもつもの、あるいは、特定の群だけに一定量が出土するもの）となる文字をあげると次の通りである（なお、（ ）内の数字は、建物群での 出土数／遺跡全体での出土数

を表わす)。

〔村上地区〕

村上込の内遺跡－A群「利」(2/2)・「利多」(3/6)・「林」(6/6)、C群「𠩺」(4/6)、D群「毛」(24/30)、「来」(87/97)、E群「山」(6/12)

名主山遺跡－「加」(18)

〔萱田地区〕

白幡前遺跡－1群A「生」(34/77)、他に特徴的なものとして「至」(8/8)・「堤」(9/12)・「入」(7/27)・「堤至」(3/3)・「堤生」(6/4)・「生堤」(9/9)・「𠩺」(4/4)がある。1群B「〇」(31/32)・「繼」(19/37)・「立」(18/23)、「生」(30/77)、他に特徴的なものとして「益」(3/6)・「牧万」(7/7)・「山」(3/3)である。2群C「太」(33/46)・「家」(3/6)・「井」(5/11)、2群D「廓」(18/43)、2群E「文」(4/16)・「圓」(6/15)、2群F「++」(23/30)、他に特徴的なものとして、「小堤」(6/7)、「子」(5/9)がある。3群「饒」(14/15)・「豊」(8/9)・「廓」(12/43)

井戸向遺跡－I群「富」(52/63)・「㊦」(9/14)・「生」(7/11)、「盛」(6/7)・「仁」(6/7)、III群「入」(7/12)

北海道遺跡－III群「富」(11/27)・「㊦」(9/17)・「大」(5/5)・「入」(4/6)、IV群「富」(12/27)・「新」(7/7)・「㊦」(3/17)

権現後遺跡－I群「生」(17/82)・「大」(4/9)・「繼」(3/4)・「南」(3/5)、II群「生」(41/82)、III群「生」(14/82)・「𠩺」(4/8)、IV群「生」(8/82)・「𠩺」(3/8)・「山」(5/5)・「𠩺」(3/3)

〔高津地区〕

高津新山遺跡－「丁」(31)、「丁」(12)、「一千」(10)・「千」(8)、「米」(10)、「〇」(5)、「キ」(11)

先に、遺跡ごとに主体となる文字が存在することをみてきたが、各遺跡における建物群ごとの出土文字からは、次のような点がうかがわれる。

- (1)各遺跡ともほとんどの建物群で主体となる文字が存在する。
- (2)各遺跡あるいは各建物群で代表的な文字は、その群で長期間継続的に使用され、また、複数の群へ広がるものが多い。
- (3)各建物群の主体的な文字のなかには、建物群どおしで、主体的な文字あるいは複数の文字を共有するものがある。
- (4)各建物群では、出土数が複数点以上あり、その遺跡においては、一定の期間その建物群のみで使用されるが、ほとんどあるいは全く他群へは広がらないものもある。

(5)特に主体となる文字が各々異なる建物群で構成される遺跡と特に主体となる文字を同じくする複数の建物群あるいは主体となる文字をすべて同じくする建物群で構成される遺跡がある。(前者の場合として村上込の内遺跡、白幡前遺跡が、後者の場合としては、北海道遺跡・権現後遺跡が多い。)

イ 遺跡間における共通文字の分布

それでは、次に各遺跡の建物群で主体となっている文字が、他の遺跡ではどのような出土を示すのか、別表25の「共通文字資料一覧」により概観すると、以下に記すいくつかの点が判明する。

- ①複数の遺跡から出土する文字は、他の遺跡から出土する文字が1点のみのものを含めて、7遺跡で出土墨書土器総計195種類のうちわずかに63種類の文字である。このことは、遺跡から出土する文字の大半は、その遺跡でのみ使用されているものが多く、他の遺跡へはほとんど広がらないことを示している。
- ②村上込の内遺跡の「来」、「毛」、名主山遺跡の「加」、白幡前遺跡の「○」、「立」、「廓」「++」「饒」、高津新山遺跡の「丁」など、各遺跡あるいは各遺跡の建物群において代表的又は主体的・特徴的な文字であっても、他の遺跡では全く出土しないか、出土してもわずか数点でしかないものが多い。
- ③これに対し、白幡前遺跡及び権現後遺跡の「生」、井戸向遺跡及び北海道遺跡の「富」、「㊦」など②とは逆に、各々の遺跡あるいは建物群を代表するもので、かつ、他の遺跡においても同様に主体的で代表的な出土をみせるものがある。
- ④白幡前遺跡の「入」、「井」や村上込の内遺跡の「山」、井戸向遺跡や北海道遺跡の「大」など、建物群のなかでは代表的ではないが、広い範囲の複数の遺跡（5～6遺跡）にわたって出土するものがある。

ウ 墨書土器からみた各遺跡の建物群及び遺跡間の様相

以上、各々の遺跡、建物群では、主体となる墨書土器（文字）が存在し、遺跡内部あるいは遺跡間において、一方では独自性と他方では共通性をもって出土していることをみてきた。

集落遺跡における墨書土器については、一般に、主として日常雑器の坏形土器に記されたものであり、他の土器との識別を目的として記したものと把握されているが、一方、平川南氏は、村落における墨書土器について「まず第1点は一定の祭祀や儀礼行為などの際に、土器になかば記号として意識された文字を記す、いいかえれば祭祀形態に付随し、一定の字形が記載されている。第2点は、集団の表示記号としてかなり特定の文字を長期間継続的に使用している事例もある」点を指摘している⁽²³⁾。

いずれにせよ、墨書土器は、そこに居住する集団のもつ意識・観念を文字（あるいは記号化

された文字)として表現しているものと理解することが出来る。そして、この点を踏えるならば、村神郷における集落遺跡から出土した墨書土器、とりわけ、その遺跡・建物群における主体的な文字は、その分布状況や継続的な使用からみて、各々、そこに居住する集団の標識的文字(表示記号)として把握することが可能であり、また、妥当であろうと思われる。

そして、このような観点から村神郷内の各遺跡における出土文字からみた各遺跡の建物群及び遺跡間の様相をみると、次のような関係がうかがわれる。

①村上込の内遺跡のC～E群や白幡前遺跡の1A・1B群、2C～2F群、3群のように、出土数の差はあるものの、各群が独自の文字を主体的な文字として長期間継続的に使用している集団は、1個の独立した自立性の強い集団として集落内に存在していることを示すものと思われる。そして、当然のことながら、集落を構成する各集団は日常的な営みの中では互いに無関係ではあり得ず、各集団の主体的な文字が他の群へと広がっている現象は、とりも直さず、各集団相互の関係、結びつきの度合いを示すものと受取れるものである。

また、逆に、白幡前遺跡2A・2B群のように、墨書土器の出土量も少なく群として主体的な文字を持たず、出土文字の大半が、1B群と共通している文字であることは、もともとこの両群が1B群と同一集団であったか、あるいは集団としての独立性の弱い、1B群のもとに従属した集団であることを示すものともいえる。このような集団としては、他に井戸向遺跡のII群、北海道遺跡のI群などがある。

さらに、集落全体からみると、各建物群の主体的な文字の中でも、群をぬいて最も出土量が多く、かつ、他の建物群へと広範囲に広がっている文字がある。そして、この文字は、その遺跡のなかでは、大形の竪穴住居や数多くの掘立柱建物で構成される主要な建物群(あるいはその地区)から出土しており、このような建物群が、集落の中核的存在であったことを想定させている。

②「生」の文字が主体的である白幡前1A群、1B群と権現後遺跡I～IV群(但し、IV群は9C前葉から)の関係は、結論的には同一集団(より血縁的な意味での)、ないしは、それに近い関係にある集団であり、白幡前遺跡1A群を形成した集団が、9C前葉頃に権現後遺跡I～IV群へと分村的に移住していった結果を反映しているものと推測される。

この「生」について、大野康男氏は、白幡前遺跡1A群で8C後半に出土している「𠄎」・「提𠄎」が「生」・「提生」へと変化し、「生」も次第に草書的な書体となり、さらに「𠄎」へと変化していくこと。白幡前遺跡の「𠄎」→「生」は8C後半から9C前半にかけて1A群を代表する文字であること。それまで無人であった権現後遺跡が9C前半に再興され、「𠄎」だけでなく、白幡前遺跡の1A群でだけ8C後半から9C前半に出土している蕨手様の「𠄎」や1A群で主体的な「堤」が伴に出土すること等から、1A群の人々の強い関与により権現後遺跡の9Cの

前半からの集落が形成されたことを明らかにしている。また、9 C中頃には、白幡前遺跡で「ㄗ」の文字が多数出現してくることから、この「生」(「ㄗ」)を担った権現後遺跡の人々が、今度は1 B群へと移っていることを、「生」(「ㄗ」)の文字の白幡前1 A群→権現後遺跡→白幡前遺跡1 B群という移動から考えている⁽²⁴⁾。

ここで多少付け加えるならば、権現後遺跡では先に概観したようにI群・III群で土師器生産を行っていたことが明らかにされている。そして、白幡前遺跡1 A群の3期(8 C後半～末頃)の竪穴住居(D185)や同じく2 B群の竪穴住居(D048)からは、いわゆる「ロクロピット」が検出されており、土器生産に係わっていたことを明らかにしている。また、白幡前遺跡1 A群の竪穴住居からは、両者に共通の蕨手様の「ㄞ」も出土している。さらに、白幡前1 B群の9 C中頃(4 b期)の竪穴住居(D165)からも「ロクロピット」が検出されており、そこからは「ㄗ」の墨書土器が出土している。このように、白幡前遺跡1 A群、1 B群、権現後遺跡I群、III群は、土師器生産という技術を同じくしているものであり、その点を加味すれば白幡前遺跡1 A群→権現後遺跡→白幡前遺跡1 B群への人の移動もより具体的になるとと思われる。

③「冨」と「㊦」が主体的である北海道遺跡と井戸向遺跡との関係は、3期の段階に北海道遺跡から井戸向遺跡へと集団の一部が移住等行い、その後、中心的な役割を担って、互いに交流を図りながら活発に展開している姿が想起される。

なお、井戸向遺跡のIII群については、9 C中葉(4 b期)に再構築される建物群であるが、谷を隔てて南側に所在する白幡前遺跡1 A群の一部の人々が、この時期に移住をしたものと把握される。この点については、特に、この井戸向遺跡はI群を中心にして3期～4 a期は「冨」を主体とする集団であるが、4 b期以降、「冨」をもつ集団の中心であるI群へ、白幡前遺跡の1 A群で主体的な「生」や「入」が広がっていくこと。そして、8 C末から9 C前半まで無人であったIII群へ4 b期に入り「生」「生提」「入」等白幡前1 A群の文字そのものをもつ竪穴住居と掘立柱建物で構成される建物群が構築されてくることからである。なお、このIII群からは9 C中葉に鉄鉗が出土しているが、白幡前遺跡1 A群の9 C前半から中葉にかけての大型の竪穴住居からも鉄鉗が出土している。恐らく、白幡前1 A群の鍛冶技術を持った者の一部がIII群を拠点として井戸向遺跡へと進出してきたものと理解される。

(4) 集落遺跡と相互関係

これまで、集落構成や出土遺物、墨書土器等の各々の面から村神郷内の主な集落遺跡の様相とその関係についてみてきた。今回分析の対象とした村上地区・萱田地区・高津地区の7遺跡は、基本的には農業生産を主体として8 C前半ないしは8 C中葉に新たに出現した開墾集落である。このうち、村上地区の村上込の内遺跡が最も早く、8 C前半に居住を開始し、次いで8

C中葉頃に萱田地区の白幡前遺跡、井戸向遺跡、北海道遺跡、権現後遺跡で居住が始まり、集落が形成されてくる。なお、高津地区の高津新山遺跡は、報告書が未刊であるが8C前半から中葉の頃に集落形成が始まるようである。

律令社会に入って、8C代の前半あるいは中葉頃に新たに出てくる集落については、計画村落とも呼ばれているが、これら村上地区、萱田地区、高津地区の新たな集落の形成にあたって、それを担った人々が、何処から来たのかという点については現在のところでは明らかにし得ない。しかし、新しく集落が形成されてからの後は、墨書土器等を通して、遺跡（集落）間の様相も少なからず把握されるようになってきている。この為、ここでは、集落遺跡間の相互関係を中心にまとめておきたい。

〈萱田地区遺跡群の相互関係〉

①8C中葉に白幡前遺跡、井戸向遺跡、北海道遺跡、権現後遺跡へと居住が始まり、各々集落が形成されるが、この時点では、各遺跡及び集落を構成する建物群間の相互関係は明らかでない。しかし、I期（8C中葉）の段階で寺谷津に面して向い合う白幡前遺跡1群Bと井戸向遺跡Ⅲ、Ⅳ群からともに「山」「文」の刻書土器が出土していることから、この両者は、血縁的關係を有する同一集団か、あるいはそれに近い関係を有した集団が、寺谷津という共通の谷を利用する為、両遺跡に居住し始めたものと理解される。

②8C後半に入ると集落の再編成が行われている。すなわち、I期に井戸向集落のⅢ、Ⅳ群を形成した集団は、II期には井戸向集落から姿を消し、I期の段階で白幡前遺跡の主体であった1群Bの一部と共に、白幡前2C～F群・3群へと移っているものと思われる。この点については、井戸向遺跡Ⅲ～Ⅳ群の竪穴住居がII期では全く姿を消し、また、白幡前1群Bの竪穴住居もII期には3分の1に減少し、代って2C群、2F群の両群が出現するとともに、3期には2D群が新たに出てくるなどの集落構成の変化と、特に墨書土器にみられる「文」の文字が、2～3期に、これらの建物群にのみ継承されていること等から想定されるものである。

③8C後半～末頃に、それまで無人であった井戸向遺跡の北側に「冨」の墨書土器を出土する竪穴住居が出現し、それ以降、9C末頃まで竪穴住居や掘立柱建物による建物群（I群）が継続的に形成され、井戸向集落の中核となってゆくが、これには、北海道遺跡の「冨」の墨書土器をもつ集団の一部が移住し、そこを拠点にして活発に活動を展開している姿が想定される。北海道遺跡の場合、9C代よりも8C代において、他の遺跡よりも鉄器出土率と出土住居率が高く、さらには村神郷の7遺跡の中でも最も鉄器保有率が高く、鉄器の所有関係上、優位にあったことが考えられること、また、坏形土器の1住居当りの平均出土数も、3期頃（8C末～9C初頃）は、7遺跡の中では最も高い遺跡の一つであること等から判断すると、この頃、北海道集落は全盛期であった可能性が強い。このような背景の中で、井戸向遺跡への移住が考えら

れるわけであるが、さらに北海道遺跡では、鉄器の構成に工具類が存在し、この点、井戸向遺跡のⅠ群が同様の傾向を示すことは、両者の関連性を補足するものとも思われる。なお、先に鉄器出土一覧表に掲げた5遺跡の中で、工具類の出土は、白幡前遺跡と北海道、井戸向の両遺跡に特徴的であり、工具類が特に木工具であることを考えるならば、遺跡間の出土鉄器の構成上の差異は、あるいは、生業や手工業的な面での集落の性格上の差異を反映するものとも思われ、その意味からも、北海道集落と井戸向集落Ⅰ群の結びつきが留意される点である。

④8C後半頃から、白幡前遺跡2群Aに村落内寺院が成立し、9C前半から中葉頃まで機能していくが、それには、白幡前遺跡の各集団だけではなく、「寺」「佛」等の墨書土器や青銅製小仏像、三彩托等の出土遺物にみられるように、この時期、特に、集落として活発であった北海道集落や井戸向集落の各集団の積極的な関わりが想定される。そして、このことは、これらの集落間に、個々の集落を越えた観念的な領域における共同性、結びつきがあったことを示すものと理解される。

⑤この点、白幡前遺跡2群Aの「丈部人足」(3期)、北海道遺跡Ⅲ群の「丈部乙刀自女」(2期)、「村神丈口」(4a期)、権現後遺跡Ⅱ群の「丈部国依」(4a期)の墨書土器にみられる「丈部」という同じ姓をもつ者の複数の集落における存在は、各集落を越えて同族的関係を有していた者がいたことを想定させる。また、その人名墨書には、人面が描かれるなど、病魔退散あるいは招福祈願など呪術に関わるものであることや、その出土場所が北海道遺跡では有力な建物群の一つであるⅢ群の竪穴住居から、白幡前遺跡では村落内寺院のある2群Aの竪穴住居から各々出土していることからすると、その者は、集団内でも有力者ではなかったかと思われること。さらに、そのことは、集落を越えて同族的な関係を有する集団が存在したことをも想定させるものである。

⑥村落内寺院が機能しなくなる9C前半～中頃を境に集落構成や集落間の様相が大きく変化してくる。すなわち、各遺跡を構成する建物群のもつ主体的な墨書土器(文字)がこの時期以降、集落内の各建物群へ、そしてさらに集落を越えて、他の集落の建物群へと広がっていく現象から想定されるところであるが、集落を構成する各集団は、集落内あるいは他の集落の集団と各々結びつきを強めながら、自立的な活動を展開していく姿がうかぶ。この点、特徴的なこととして、土器(土師器)生産や鍛冶に関わる技術集団を含む白幡前1群Aの集団が9C前葉に権現後遺跡の再開発に関与しており、また、9C中葉には、北側の井戸向遺跡の一角に鍛冶技術を伴った集団を移住させていることや、また、9C前半以降、各建物群に掘立柱建物が積極的に導入されてくるが、中頃以降になると例えば白幡前遺跡1A・1B群等のように特定の建物群においては、掘立柱建物に近接する大型の竪穴住居から鉄器や食器類、あるいは律令官人機構の末端につらなる有力者層の存在を想定させる帯金具等が出土することなど、各建物群

を形成した集団間に遺構としての建物規模や出土遺物等の具体的な姿で格差が生じてきていることからもうかがえるところである。この点については、すでに、「階層分化が進行し、有力農民層が成長する過程」を示すものとして指摘されているが⁽²⁵⁾、このような事象が、複数の集落とそれを構成する集団、人々の共同規範あるいはイデオロギー的集約の場である村落内寺院の崩壊と軸を一にしている点重要である。

⑦その後、9C後半になると、権現後集落は、白幡前集落の1B群を中心とする地区へ、又、北海道集落は井戸向集落のI群を中心とする地区へと、人々の移住がみられ、白幡前・井戸向集落も9C末～10C前半には終末を迎えている。

以上、萱田地区における集落間の様相を時間的経過の中で概観した。この結果、白幡前、井戸向、北海道、権現後の各遺跡のうち、特に白幡前遺跡は、集落を構成する建物群の数や規模と長期的な継続性はもとより、村落内寺院の存在に示される、この地域におけるイデオロギー的な中核を担っていた集落であること、さらに、各遺跡に示される集落は、いずれも基本的には農業生産を主体とした集落であるが、出土した鉄器構成からみると、手工業的な要素において、鉄器の再生産に係る小鍛冶、工具類からみた木材の加工、布生産に係わる糸の生産、土師器生産等日常的な経済的活動の面からも白幡前遺跡が中心的役割を担った集落であったことが知られる。

この点に関して、鬼頭清明氏は「このように集落相互に共通性をもった住民が分散していることは、考古学上集落跡とされるものは、それ自体で完結した生活団体なのではなく、複数の集まりが一つの生活圈として存在していたと考えられる。もちろん生活団体としては一つの集落として意味をもっていたであろうから(人々の居住の集合体として)、その上に重層的に複数の集落からなる生活圈が存在したものと考えたほうがよい。」⁽²⁶⁾との見解を示しているが、萱田地区の集落跡の様相は、この見解を具体的に裏付けるものである。そして、拠点集落であった白幡前遺跡を中心にして、萱田地区の複数の集落があるまとまりをもって「時間とともに一つの発展的・動的な変化を行っている」⁽²⁷⁾こと、また同時に集落内部においても、それを構成する各々の集団(建物群として表現した)にも同様の変化があることを具体的に把握出来たものと思われる。

〈村上地区遺跡群の相互関係〉

村上地区においては、村上込の内遺跡、名主山遺跡のほかは、遺跡の内容が判明しているものは少なく、また、名主山遺跡も調査内容に比して遺跡の全容に不明な点が多いため、萱田地区と比較すると遺跡間の相互関係を把握する上での材料に乏しいが、二・三の点を指摘しておきたい。

①村上込の内遺跡は、集落構成の面からみると5地区に所在する建物群によって構成され、

8 C前半の居住当初から9 C末頃の終末期まで継続的に構築されている中核的な建物群が存在し、また、他の建物群も終末期に多少の時期のずれはあれ、長期間継続的に構築されている大規模な集落である。そして、これらの建物群には、8 C後半以降各建物群独自の主体的な墨書土器（文字）が存在していること等からすると、萱田地区の白幡前遺跡と類似した集落構成がみられる。

また、鉄器を主とした出土遺物等からみると、農業生産を主体とした開墾集落であるが、鉄器の再生産に関わる小鍛冶が存在し、特に9 C代では鉄器の出土率・保有率が村神郷内では、最も高くなっていること、さらに、8 C代から9 C代にかけて紡錘具の出土が顕著であり、白幡前遺跡と同じく、布生産に係る糸の生産が集中的に行われていたことを想定させていること等から判断すると、手工業的な生産活動の面においても、集落として自立的な生産手段を備えていた可能性が強い。そして、この面からみると、萱田地区の中心的集落である、白幡前遺跡と同様、村神郷内でも中心的な集落の一つではなかったかと想定される。

②これに対し、名主山遺跡は、竪穴住居5軒と掘立柱建物6棟からなる一地区の建物群を中心に構成されている集落であり、時期的には8 C中頃～後半と9 C中頃～後半の二時期を中心としているように把握され、集落の規模や継続性の面からみると村上込の内遺跡とは大きな格差がある。只、掘立柱建物6棟のうちには倉と考えられている4棟の総柱建物が所在し、9 C後半の竪穴住居からは施釉陶器や銅製帯金具が出土し、また、この建物群から出土する墨書土器は村上込の内遺跡はみられない「加」の文字が主体であること等から判断すると、集落を構成する建物群は小規模であるが村上込の内遺跡の9 C後半のD群に類似するものであり、村上込の内遺跡とは別の集落として存在していたものと考えられる。

③この両者の関係について墨書土器の面からみると、村上込の内遺跡のD群及びA群の主体的な文字の一つである「毛」と「林」が名主山遺跡から各1点出土しているのに対して、名主山遺跡の主体的文字の「加」やその他の「真」「皐」「俎」等は村上込の内遺跡からは全く出土していない。

この点からみると、名主山遺跡の建物群は、村上込の内遺跡の建物群（D群・A群）に対して、（村上込の内遺跡のD群に対するA・B群のように）相互の関係というよりも、むしろ一方的な関係としてあったようにも把握される。只、名主山遺跡と最も近接する、村上地区の北側の現状保存となった区域から、確認調査において竪穴住居と掘立柱建物による建物群の所在が確認されていることを考慮すると、必ずしも、村上込の内遺跡との関係が一方的な関係のなかにあったかどうかは明確ではないが、いずれにせよ建物群の規模や継続性・生業関係、墨書土器等から判断すると、名主山集落は村上込の内集落を中心とした生活圏のなかにあったことは間違いない。

〈萱田地区・村上・高津三地区の遺跡群間の相互関係〉

①萱田地区・村上地区・高津地区の7遺跡はいずれも農業生産を主体とした開墾集落として8C前半及び中葉頃に出現し9C末あるいは10C代まで長期間継続して営まれた集落である。このうち、集落を構成する建物群の数や規模が大きく、長期間継続的に営まれ、さらに、小鍛冶や土師器生産、糸の生産等生活に必要な手工業的な部門をも集落の中に集中的に保有している遺跡としては、萱田地区の白幡前遺跡、次いで村上地区の村上込の内遺跡があげられる。また、高津地区の高津新山遺跡は詳細は不明であるが、小鍛冶遺構の存在や紡錘具の出土が白幡前遺跡、村上込の内遺跡に次いで多い点、さらには、遺跡独自の主体的な墨書土器をもつ点等から判断すると白幡前・村上込の内両遺跡に次ぐ集落のように想定される。

②次に、①の点を踏まえ、集落遺跡の相互関係を把握する上での指標とした墨書土器における各々の遺跡・建物群の主体的な文字の出土状況からみると、別表25に示した通りである。まず、萱田地区の4遺跡と村上地区の2遺跡では、各々の遺跡や建物群を代表する文字は、白幡前遺跡・2F群の「++」が村上込の内遺跡D群から1点、同じく1A・1B・2C群等の「入」が同B群・D群に各1点のほかは名主山遺跡の「加」が白幡前遺跡の2F群から1点、村上込の内遺跡E・D群の「山」が白幡前、井戸向、北海道、権現後の各遺跡から1～2点の出土である。この他同一文字の出土例は、白幡前遺跡に出土例の多い「井」「家」「↑」「古」や井戸向、北海道、権現後遺跡に出土例の多い「大」「十」「木」「朝日」等の他、「丈」「奉」「田」等が1～2点出土している程度であり、萱田地区内の4遺跡における相互関係とは全く異なった状態を呈している。

次に、萱田地区の4遺跡と高津地区の高津新山遺跡では、萱田地区の白幡前遺跡1A・1B群の「生」・「入」、1A群の「堤」、1B群の「立」、2E群の「文」「圓」、2F群の「++」が各1点ずつ、高津新山遺跡より出土し、これに対し、高津新山遺跡の墨書土器は「丁」が白幡前遺跡2A・2D群から各1点、北海道遺跡Ⅲ群から1点出土しているだけであり、出土点数は少ないが、白幡前遺跡との関係が強いように思われる。なお、高津新山遺跡からは、「物部」の人名刻書土器が3点出土している。

また、村上地区の2遺跡と高津新山遺跡では、村上込の内遺跡D群の「毛」が1点、E群の「山」が5点の他、同一文字は「丈」「++」が各1点高津新山遺跡から出土しているのに対して、村上込の内遺跡からは、「千」が3点出土しているだけである。

このような三地区間における各遺跡及び建物群の主体的な文字や出土数は少ないが同一文字の分布状況からみると、萱田地区と村上地区、高津地区の遺跡・建物群の関係は、萱田地区の4遺跡間における相互関係と比べると相互に出土点数が少なく、各々の遺跡を代表する文字の出土例もごくわずかであることなど、また異なった関係を示すものと思われる。そして、萱田

地区と村上地区の各遺跡の関係が、個々の遺跡の関係というよりも、むしろ同一文字を出土する各建物群どおしの関係がうかがわれるのに対して、萱田地区と高津新山遺跡との関係は、白幡前遺跡の4群と高津新山遺跡との結びつきが強いものと思われる。また、このことは、これら7遺跡の集落の日常的な生活領域での関係が反映しているものと考えられる。

4 古代村落と集落遺跡

これまで、萱田地区・村上地区・高津地区に所在する主な集落遺跡を対象に、それらの相互関係についてみてきた。

その結果、萱田地区の遺跡群は、その中でも中核的な存在である白幡前遺跡を中心にして日常的な生活圏が形成されていること。また、村上地区においても村上込の内遺跡が拠点的性格をもっており、墨書土器の分布からみて萱田地区の遺跡群とは別の生活圏を形成している可能性がうかがわれた。

ここでは、それらの遺跡と所在する地域が村神郷の中で、どのように位置づけられるかを別の角度から検討することとしたい。

(1) 「草田」の地名墨書土器と「村神郷」

古代の印幡郡村神郷については、郷名遺称地である村上地区を中心とした旧平戸川(現新川)流域一体の地が比定されること、また、村神郷はこれまでみてきたような多くの集落によって構成されていることを述べたことがある。そして、特に、「村神郷」の郷(里)名の遺号と考えられる「村上」地区が、律令制前夜ともいえる7C後半から末の時期に旧平戸川流域では中心的な位相をもつことから、「村神郷」の前身である「村神里」の成立にあたっては、旧平戸川流域の地において五十戸一里を構成する複数の集落のうち、中心となっていた「村上」地区の集落の名をとって、里名としたことを想定した。一方、「村神郷丈部国依甘魚」と記載された墨書人面土器を出土した権現後遺跡の所在する萱田地区は、古墳の所在件数も僅かであり、7C中頃～末頃は、集落遺跡も数少ない上、小規模な遺跡のみが存在していた地域であり、8C代に入ってから新たに開発が始まり、これまでみてきたように大規模な集落群が形成された地域であった⁽²⁸⁾。

ところで、今度、白幡前遺跡から「草田」と記された墨書土器が出土した。この墨書土器は2群Bの竪穴住居から出土したものであり、8C後半頃の高台付須恵器坏の底部に墨書されている。この「草田」に類するものとして他に1A・1B両群から「草」の墨書土器が各1点出土しているが、「草田」の訓みについて村岡良弼『日本地理志料』が明らかにしているように、美濃国(厚見郡)皆太郷が天平勝宝2年の国司解に「草田郷」と記載されており、この「草」

を「加夜」と訓んでいることからすると「草田」と訓んで間違いないものと思われる。また一方、「草田」の墨書土器を出土した白幡前遺跡の所在地名は、八千代市萱田であり、この「萱田」の地名は、近世では千葉郡萱田村、あるいは葛飾郡萱田町村と呼ばれ、中世では、『香取文書』の建久年間（建久8年—1197年）と考えられる史料をはじめとする香取社の式年造替遷宮にかかる史料に「萱田郷」とみえ、12世紀末以前に遡ることが確認されている⁽²⁹⁾。そして、このような「萱田」の地名の歴史性をみると、墨書土器に記された「草田」は、この地の地名を記したものと理解することが妥当である。

墨書土器に記載された「地名」については、律令制の施行に伴った地方行政組織の行政地名である国・郡・郷（里）名のほか、出土遺跡の所在地やその周辺地域に現存する大字や小字名に該当する「小地名」が少なからず認められており、また、これらの「小地名」には、近世さらには中世資料を介在させ、その時間的変遷を辿ることにより、その連続性が一層明確になるものや、また、現存していないが、中世資料にみられる地名に該当すると判断されるものもあることから、この「草田」の墨書土器もその中の一例として把握出来るものであり、「草田」の地名は少なくとも8C後半まで遡れる地名であることを明らかにしている。そして、房総地域の集落遺跡から出土した墨書土器が記載された「行政地名」とそれ以外の「小地名」を比較した場合、年代的には「小地名」は8C代と9C代のものにみられるが、「行政地名」はそのほとんどが9C代であり、その記載形式からみると、「小地名」は当時の「××村」「××里」と呼ばれた「地名」やあるいはもっと狭い地域の「小字名」等の地名に該当するのではないかと推測されることからすると⁽³⁰⁾、白幡前遺跡を中心とした大規模な集落群が一つの生活圏を形成した8C後半の萱田地区は村神郷内では「草田村」と呼ばれていた可能性が考えられる。

(2) 村落内寺院と集落遺跡

先に、萱田地区の北海道遺跡、白幡前遺跡、権現後遺跡から「丈部」という同じ姓をもつ人名の記載された墨書土器が出土し、それらがいずれも病魔退散や招福除災を祈願したものであること、その出土場所が各々の遺跡の中でも有力な建物群の一つであること等から、集落を越えて同族的な関係を有する集団が存在し、それらは集落内でも有力層であることが想定されることを述べたが、「丈部」の人名記載の墨書土器のうち、北海道遺跡の「丈部乙刀自女形代」と白幡前遺跡の「丈部人足召代」は前者が8C後半、後者が8C末頃のものであること、そして両遺跡ともに8C中頃から集落が形成され継続的に営まれていることからすると、萱田地区の集落群の形成にあたっては、「丈部」の姓をもつ同種的な関係を有する集団がかかわっていたことを推測させるものである。

また、「丈部人足召代」の人面墨書土器の出土した白幡前遺跡2群Aの建物群には、いわゆる

村落内寺院が所在するが、この村落内寺院は8C後半～末頃には成立し、9C中頃まで機能していたこと、さらに、「丈部乙刀自女形代」の墨書土器を出土した北海道遺跡や北海道遺跡と密接な関わり合いのある井戸向遺跡が、出土遺物からみてこの村落内寺院と関係を有していたと想定されることからすると、白幡前2群Aに所在した村落内寺院の成立と運営にあたっては、「丈部」の姓をもつ同族的な関係を有した人々が関与していた可能性が考えられる。

この点に関して、笹生衛氏は房総地域の集落遺跡から検出されている仏教関係の遺構、遺物を検討し、また、直木孝次郎氏が指摘した『日本霊異記』における仏を祭る場所としての「寺」「山寺」「堂」の三種の使いわけとの関連も踏まえながら、従来、一般的に村落内寺院といわれてきた寺のなかにもいろいろなタイプの寺が存在したことを明らかにしているが、その中で、白幡前遺跡の村落内寺院のタイプの建立者については、「富豪の輩」（8C後半から9C代にかけて、村の中で財力を蓄え実力をつけた、村の有力者）を想定している⁽³¹⁾。

ところで、8C代から9C代の集落遺跡にみられる、寺関係の墨書土器を伴った四面廂付掘立柱建物の堂宇とその周辺に配置された側柱式の掘立柱建物（いはゆる村落内寺院）については、高木博彦氏が、いち早く、成田市山口遺跡や郷部遺跡等での出土例をもとに、直木孝次郎氏が指摘し、分類された、『日本霊異記』の中の仏を祭る場所としての「寺」「山寺」「堂」の三種のうち、「堂」との関係を指摘している⁽³²⁾。

『日本霊異記』にみられる「草堂」については、佐々木虔一氏が直木孝次郎氏により提起された「堂」のあり方について、その所在地、建立者、規模と管理、機能等詳細に検討し、「村落内の草堂を中心に、写経、法会、殺牛祭礼などの種々の宗教的行事がおこなわれ、そこに多数の村落民が参集・参加している」こと、「この村落民の集会は、自然発生的な末組織のものではなく、在地の有力農民層を中心にすえたものであり、その集会そのものが出挙の賃借関係の確認や勤農の奨励などの村落における生産・再生産と密接に結びついていたものとして催されていた」ことを明らかにしている。また、草堂の多くが、村落名、地字名を草堂名としていること、建立者については、一般村落民から図抜けた富める家長個人の場合、村落の複数者の場合、巡行僧を中心とした地域＝在地村落民の場合等があったことを述べている⁽³³⁾。

このような『日本霊異記』にみられる草堂の様相を踏まえ、白幡前遺跡の村落内寺院をみた場合、村落内寺院が造営されたと考えられる8C後半から末頃は、まだ白幡前遺跡はもとより北海道遺跡や井戸向遺跡においても特に図抜けた建物群は所在していないことからすると、この村落内寺院は、「丈部」の姓をもつ村落の複数者か、あるいは、巡行僧を中心とした知識＝在地村落民が、その建立に関与したものと考えるのが妥当性があるようである。また、寺名については、北海道遺跡から出土した墨書土器から「勝光寺」という寺名が想定される。房総地域で検出されている村落内寺院の名称については、墨書土器から、地名や嘉名、本尊に由来すると

思われる寺名等々多様な寺名が確認されており、必ずしも寺名に村落名や地字名が付けられているわけではないことからすると、成田市山口遺跡の「延忠寺」や同郷部遺跡の「思保寺」にみられる人名⁽³⁴⁾のように、この村落内寺院の建立に携わった人名が考えられる。

一方、村落内寺院の造営及び経営について、須田勉氏は『日本霊異記』に見られる村人達に見られる寺院の経営も表面的には村人の自主的管理によって維持・運営されているごとくであるが、実際には彼らは在地で直接的に支配する階層のワク内にあり、寺院の造営および経営が村人達によって支えられていたという考えには疑問が残る」とするとともに、また、森田悌氏の指摘を踏まえ、村落内寺院の周辺に建てられた倉庫を、村落を直接的に支配した在地豪族による管理とみなし、「村落共同体内における宗教的活動の場としての意図をもって出現した村落内寺院は、その維持・運営が私出挙によって行われていた可能性を指摘」している⁽³⁵⁾。

白幡前遺跡の村落内寺院の場合、その所在する2群Aの建物群には、高床倉庫と考えられる総柱建物が1棟存在している。この総柱建物は、村落内寺院の北側約40mの地点にあり、周囲を8C後半から9C初頭頃の竪穴住居に囲まれるようにして単独で存在していること、本遺跡の総柱建物の中では最も規模の大きなものであること等から、白幡前集落全体あるいはそれを含む村落に係わる倉庫としての役割りを果していたのではないかと想定したが、須田氏の指摘を考慮すると、あるいはこの倉庫（総柱建物）は私出挙用の倉庫と位置づけることも可能である。そして、この倉庫を囲むようにして所在する8C後半から9C初頭頃の竪穴住居の一つから、「丈部人足召代」の人面墨書土器が出土していることからすると、この倉庫の日常的な管理にあたっては、「丈部」の姓をもつ者が係っていたことが考えられる。

この時期、村神郷の属する印幡郡の郡司には、天応元年（781）『続日本記』に「下総国印幡郡大領外正六位上丈部直牛養……」とみえ、特に「郡司大領丈部直牛養」は軍糧を貢献したことにより外正六位上から外従五位下の位階を付与されている。「印幡郡司丈部直」一族については、天平10年（738）『駿河国正税帳』に「下総国印波郡采女丈部直広成」とみえることから、印幡郡にあつては前代の国造の系譜をひく有力層として存在していたことがうかがわれる。「丈部直牛養」がどれ位の軍糧を貢献したかは不明であるが、このことは、三世一身法（723年）や墾田永世私財法（743年）に具現された国家的な開墾奨励政策に呼応して、印幡郡司である「丈部直」一族が、その指導のもとに郡内各地で開墾集落を出現させ、富を蓄積させていたことを推測させるものである。

この点を踏えて、萱田地区の集落群をみた場合、郡界に近く、それまで（7C末～8C前半）ほとんど集落らしい集落がなかった萱田地区に、8C中葉の時点で、突如、複数の集落が出現し村落が形成されること、また、ほどなく、新しく編成された村落民を種々の宗教的行事を通して精神的・経済的に密接に結びつけるための村落内寺院が造営されること、さらに、それら

の集落形成や村落内寺院の造営・運営にあたって、集落を越えて存在した「丈部」の姓をもつ同族的関係を有した人々が関与していたと想定されること等から考えると、その背後には、須田勉氏もいわれるように、それらよりも上位の階層（この場合、前代に「丈部」の名で呼ばれる部民を同族的に掌握していた印幡郡司の「丈部直」一族）が存在し、その指導の下に、集落が形成され、村落内寺院の造営・運営がなされていたと想定することが妥当なようである。そして、このことは、3章でこれまでみてきたように、9C中頃になると集落内部において階層分化が進行し、有力農民層が成長し、自立的な活動を展開してくるのと軌を一にして、村落内寺院が消滅していくことの説明の一端になるものでもある。

(3) 郷と村と集落遺跡

ここでは、集落を形成した人々が、「郷」について、どのように把握していたか、郷名等記載の墨書土器から検討したい。

白幡前遺跡と同じ萱田地区の権現後遺跡から、「村神郷」の郷名を記載した人面墨書土器（「村神郷丈部国依甘魚」）が、同じく北海道遺跡からも「村神郷」の郷名を記したと考えられる「村神丈□」が出土しており、この両者は、いずれも9C前半～中頃のものである。

このうち、「村神郷丈部国依甘魚」の人面墨書土器は、重い病にかかった村神郷に住む丈部国依が本復を祈り、坏に自らの本貫である郷名と名前を記載し、人面を描き、その坏に御馳走（甘魚）を盛りつけ、疫神に病魔退散を祈願したのも、あるいは、神に御馳走を供献し、招福除災を祈ったものと理解されているが、類似の資料が北海道遺跡と白幡前遺跡から出土している。北海道遺跡のものは坏の外面に「丈部乙刀自女形代」と、白幡前遺跡のものは小形の甕の外表面と「丈部人足召代」と人面が各々墨書されていた。いずれも、人名の前には本貫の記載はなく、前者は8C後半、後者は8C末頃のものである。

このことは、萱田地区の集落の住民に、8C代から疫神あるいは国神に対して坏や甕に自らの人名等を記載して、病回復や招福除災を祈願する信仰形態が存在していたことを示すものであるが、これらの資料をみると、8C代では人名、9C代では本貫と人名という記載方法がとられている。

類似資料を周辺地域にみると、まず印西町船尾（古代では印幡郡船穂郷）に所在する鳴神山遺跡から、「丈尼」・「丈尼／丈部山城方代奉」（8C第3四半期・坏）、「国玉神／上奉／丈部鳥／万呂」（8C末～9C初頭、小形甕）、「同□□ □□□刀自女召代進上」（9C第1四半期・坏、全体では24文字程の記載があったものと考えられている）と各々記載された墨書土器が出土している⁽³⁶⁾。このうち、9C第1四半期の坏に記載された「同□□ □□□刀自女召代進上」は全体で24文字程度の記載があったことが考えられるとすると、「□□刀自女」の女性の名前の前

にはあるいは本貫の記載も想定される。次に、芝山町小原子字庄作に所在する庄作遺跡からは、「上総国□□郡□□郷□□秋人歳神奉進」と記載されていたと想定される墨書土器（坏）と、人面と「丈部真次□代国神奉」とが記載された墨書土器（いずれも9C前半の坏）が各々出土している⁽³⁷⁾。

出土点数は少ないが、これらの記載例からすると、疫神あるいは国玉神・歳神等の在地神に対する祈願に際し、坏や甕に名前を記載する場合、8C代では祈願者については名前だけの記載が一般的であり、9C代では名前のほかに本貫を記載することが多く、その場合は行政組織を用いているように推測される。

一方、この点に関係する資料に、我孫子市新木東台遺跡から出土した「泉久須波良部尼刀女」と記載された墨書土器がある⁽³⁸⁾。この墨書は8C後半の土師器甕の体部外面に記されていたものであるが、「地名十人名」の記載形式をとるものであり、「地名（泉）」は「人名」である「久須波良部尼刀女」の本貫を示していると解釈されるものであった。そして、この場合の地名「泉」は出土した遺跡から約6km程離れた、現在の沼南町泉の地に比定されている。この地名は、近世には「相馬郡泉村」、中世には「みなみそうまいづみのむら」とみえることから、8C後半まで遡れることは間違いないものと考えられるが、古代の郷名にはなく、この地は古代にあっては相馬郡大井郷が想定され、また、出土した遺跡地は同郡意部郷又は布佐郷が想定されることからすると、「泉」の地名は、「久須波良部尼刀女」の住んでいた村名あるいは里（さと）名であった可能性が考えられる。

集落遺跡における日常生活のなかで、人々のこのような、8C代と9C代での本貫記載の相違に加え、集落から出土する「地名」記載の墨書土器のうち、「郷名」をはじめとする行政地名が記されたものは、そのほとんどが9C代のものであることからすると⁽³⁹⁾、五十戸一里を基準として人為的につくられた行政的な組織である「郷」に対する在地の人々の意識・認識が、8C代と9C代では異なっていたのではないかと思われる。すなわち、8C代では各集落の人々にとって自らの本貫に対する認識は、生活領域である村や里（さと）あるいは各々の集落であり、編戸された行政組織である（郷）ではなかった。しかし、9C代に入ってくると、集落内部において階層分化が進行し、まだ共同性の強かった村や個々の集落内においても本貫を異とする人々が居住するなど地域社会の様相が大きく変化するとともに、地方行政が様々な分野で「郷」を中心として、それを構成した村や集落に浸透していき、「郷」が行政区域的に一定の土地の領域を示すようになったのではないかと想定される。そして、在地の人々にとって「郷」が本貫であると認識されるようになり、人名を記した人面墨書土器のような私的な祈願に際しても、本貫が「郷」で記載されるようになったものと思われる。

5 おわりに

印幡郡村神郷について小論を発表してから約10年になる。この間、萱田地区遺跡群の井戸向遺跡やそのなかでも最大規模で中核的な遺跡である白幡前遺跡の発掘調査報告書が刊行され、それらの成果をもとに発掘調査や整理作業を担当された藤岡孝司氏や大野康男氏が、すでに述べたように墨書土器をキーワードとして、考古学の立場から萱田遺跡群の集落構成や古代村落の問題についてまとめられている⁽⁴⁰⁾。また、史学の立場からは、鬼頭清明氏が郷・村・集落の係わり合い等古代村落の研究を進める上で、「村神郷」を取上げるなど⁽⁴¹⁾、古代の集落遺跡と村落の問題を研究する上で、村上込の内遺跡や萱田地区遺跡群等の諸遺跡は恰好の材料を提供することとなった。

本小論は、これらの研究をもとにしながら、特に鬼頭清明氏が論じられた、郷・村・集落群の関係について、考古学の側からどのように迫れるかという問題意識のもとにまとめたものである。各遺跡の把握が大雑把な上、いたずらに長文となってしまい、論証が不十分なまま推論を重ねている点が多く、どれだけ目的が達せられたか、はなはだ心もとない。なかでも、集落構成の分析において取上げた「建物群」（竪穴住居や掘立柱建物の分布のまとめ）を具体的にどのように把握するかという問題や論の中心に据えた墨書土器のうち、各建物群に主体的に分布する文字を集団の表識的文字（表示記号）として把握したが、両者ともそれ以上に踏込んだ解釈は示し得なかった。この点について、例えば墨書土器の場合、津田仁氏は「単字句の墨書土器は集団を表象する文字や家号であったともいわれており、末端官人たる郷長が在地を支配する上で郷戸のような収取単位として一集団をまとめ機能させるなかで、単字句墨書土器を一般に広めていったという解釈も出来るであろう」⁽⁴²⁾としているが、今後さらに検討していくべき課題として残っている。また、集落景観や生産手段・耕地の問題等（なおこの点については、藤岡孝司氏が住居群の立地の面から水田耕作だけでなく畑作についても論及している）についてもふれられなかった。

自らの仕事の一環として、発掘調査に係った一人として、貴重な遺跡が数多く「記録保存」のまま報告書として残されるだけでなく、学問的な研究成果の上に広く活用される為にも、そしてまた、その研究成果が今後の発掘調査に生かされる為にも、浅学を省みず筆をとった次第である。大方のご叱正を賜れば幸いである

最後に、本小論を作成するに当っては朝比奈竹男氏からは未発表資料について提供をうけ御教示を賜った。また、(財)千葉県文化財センターの西山太郎・築比地正治・渡辺智信の各氏には執筆に当って大変御苦労をおかけした。記して感謝申し上げる次第である。

付 表 ・ 註

表1 村上込の内遺跡竪穴住居群別・時期別・規模別一覧

群(地区)	規模	時期								計	I~III期 主に 8C代	IV~V期 9C代
		I 寛田0 8C前葉	II 1 8C中葉	III A 2 8C後葉	III B 3 8C末 ~9C初頭	III C 4 a~4 b 9C前葉	V A 5 9C中葉	V B 6 9C後葉				
A	竪穴住居数	3	5	10	8	3	10	3	0	42	29	13
	4m ² (2×2)以下						1			1		1
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)			1						1	1	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)	1	5	1			2			8	6	2
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)	1		4	5	1	3	1		14	10	4
	12.25m ² ~16m ² (4×4)			2	3	2	2	2		11	7	4
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)											
	20.25m ² (4.5×4.5)以上	1		2			2			5	3	2
B	竪穴住居数	0	2	2	2	0	5	0	1	12	6	6
	4m ² (2×2)以下											
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)				1					1	1	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)		2				1			3	2	1
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)			2	1		3			6	3	3
	12.25m ² ~16m ² (4×4)						1		1	2		2
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)											
	20.25m ² (4.5×4.5)以上											
C	竪穴住居数	8	8	10	5	1	4	1	0	37	32	5
	4m ² (2×2)以下											
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)											
	6.25m ² ~9m ² (3×3)	3	1	3	1	1		1		10	9	1
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)	4	3	4	2		1			14	13	1
	12.25m ² ~16m ² (4×4)		3	2			1			6	5	1
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)	1	1	1	1		2			6	4	2
	20.25m ² (4.5×4.5)以上				1					1	1	
D	竪穴住居数	3	5	^{8/9} (不明1)	5	3	7	4	4	40	^{24/25} (不明1)	15
	4m ² (2×2)以下											
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)					1				1	1	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)	2	1	2	3		1			9	8	1
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)	1	3	4	1	1	2	2	1	15	10	5
	12.25m ² ~16m ² (4×4)			1	1	1			1	4	3	1
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)		1	1			2			4	2	2
	20.25m ² (4.5×4.5)以上						2	2	2	6		6
E	竪穴住居数	2	3	3	2	2	5	3	4	24	12	12
	4m ² (2×2)以下											
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)		1							1	1	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)	1					2	1		4	1	3
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)	1	1	2	1	1	1		2	9	6	3
	12.25m ² ~16m ² (4×4)		1		1	1	2	1	1	7	3	4
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)			1				1		2	1	1
	20.25m ² (4.5×4.5)以上								1	1		1
計	竪穴住居数	16	23	33/34	22	9	31	11	9	154/155	103/104	51
	4m ² (2×2)以下						1			1		1
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)		1	1	1	1				4	4	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)	7	9	6	4	1	6	2		35	27	
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)	7	7	16	10	3	10	3	3	59	43	16
	12.25m ² ~16m ² (4×4)		4	5	5	4	6	3	3	30	18	12
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)	1	2	3	1		4	1		12	7	5
	20.25m ² (4.5×4.5)以上	1			1		4	2	3	11	2	9

表2 村上込の内遺跡出土坏形土器の群別・時期別出土数一覧

(上段：—出土数—
—整穴住居数—
下段：(1住居当り出土数))

群(地区)	時期	I II III a III B III C IV V A V B									計	整穴住居 外出土数		合計	I~III 8C代		IV~V 9C代
		葦田0		1	2	3	4 a・4 b	5	6	1~III		N~V	1		2	1	
A	計	22/3 (7.3)	18/5 (3.6)	30/10 (3.0)	41/8 (5.1)	16/3 (5.3)	96/10 (9.6)	40/3 (13.3)		263/42 (6.3)	2	1	266/42 (6.3)	129/29 (4.4)	137/13 (10.5)		
	B		5/2 (2.5)	9/2 (4.5)	22/2 (11.0)		55/5 (11.0)		8/1 (8.0)	99/12 (8.3)			99/12 (8.3)	36/6 (6.0)	63/6 (10.5)		
C	計	33/8 (4.1)	37/8 (4.6)	86/10 (14.6)	73/5 (14.6)	3/1 (3.0)	73/4 (18.3)	4/1 (4.0)		309/37 (8.4)	15	2	326/37 (8.8)	247/32 (7.7)	79/5 (15.8)		
	D	7/3 (2.3)	14/5 (2.8)	41/9 (4.6)	31/5 (6.2)	7/3 (2.3)	61/7 (8.7)	139/4 (34.8)	56/4 (14.0)	356/40 (8.9)	13	38	407/40 (10.2)	113/25 (4.5)	294/15 (19.6)		
E	計	3/2 (1.5)	2/3 (0.7)	7/3 (2.3)	12/2 (6.0)	12/2 (6.0)	37/5 (7.4)	33/3 (11.0)	36/4 (9.0)	142/24 (5.9)		1	143/24 (6.0)	36/12 (3.0)	107/12 (8.9)		
	計	65/16 (4.1)	76/23 (3.3)	173/34 (5.1)	179/22 (8.1)	38/9 (4.2)	322/31 (10.4)	216/11 (19.6)	100/9 (11.1)	1,169/55 (7.5)	30	42	1,241/155 (8.0)	561/104 (5.4)	680/51 (13.3)		

表3 村上込の内遺跡出土鉄器等の構成

(個別鉄器等出土数：—整穴住居からの出土数(総出土数)—
—出土整穴住居数—)

群(地区)	時期	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	参考				
		農具			工具				紡錘具			刀子	釘	燧鉄	鉄	刀装具	馬具			製鉄	その他			
		鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鋳	鋸	鉗	(鉄製)	(石土製)										新合全体	スラグ	羽口	砥石
A	計	19/42 (2/1)	6/5 (6/5)	4/3 (4/3)	1/1 (1/1)	1/1 (1/1)			3/3 (3/3)	7/7 (7/7)	13/12 (13/12)	1/1 (1/1)			3/3 (3/3)		10/10 (10/6)		44/29 (29/3)	3/2 (2/1)	7/7 (7/7)			
	8C代	10/29	2/2 (2/2)	4/3 (4/3)					2/2 (2/2)	5/5 (5/5)	7/6 (7/6)			1/1 (1/1)		7/7 (7/3)		23/44 (44/2)	1/1 (1/1)		4/4 (4/4)			
	9C代	9/13	2/2 (2/1)	4/3 (4/3)	1/1 (1/1)	1/1 (1/1)			1/1 (1/1)	2/2 (2/2)	6/6 (6/6)	1/1 (1/1)			2/2 (2/2)		3/3 (3/3)		21/22 (22/6)	2/2 (2/1)	2/3 (3/3)			
	不明																							
B	計	6/12	2/2 (2/2)						1/1 (1/1)	5/3 (5/3)	5/5 (5/5)			1/1 (1/1)		1/1 (1/1)		10/6 (6/7)						
	8C代	3/6								2/2 (2/2)				1/1 (1/1)				3/5 (5/7)						
	9C代	3/6	2/2 (2/2)						1/1 (1/1)	4/3 (4/3)	3/2 (3/2)					1/1 (1/1)		7/7 (7/5)						
	不明								1															
C	計	12/37	2/2 (2/2)	2/2 (2/2)	2/2 (2/2)				3/2 (2/2)	14/9 (14/9)	2/2 (2/1)			1/1 (1/1)		2/2 (2/1)		25/16 (16/7)		7/7 (6/5)	2/2 (2/2)	鉋尾1 遺方1		
	8C代	7/31	1/1 (1/1)	2/2 (2/2)	1/1 (1/1)				1/1 (1/1)	6/5 (6/5)				1/1 (1/1)			鉋尾1 (1/1)	11/21 (21/2)		4/4 (4/3)		鉋尾1 遺方1		
	9C代	5/6	1/1 (1/1)		1/1 (1/1)				1/1 (1/1)	8/4 (8/4)	2/2 (2/1)					1/1 (1/1)		13/14 (14/0)		2/2 (2/2)	1/1 (1/1)	遺方1		
	不明							1						1				1						
D	計	14/40	1/1 (1/1)	5/4 (5/4)	1/1 (1/1)	1/1 (1/1)			6/3 (6/3)	2/2 (2/2)	14/9 (14/6)	2/2 (2/1)		7/5 (5/5)	2/2 (2/2)	18/16 (16/7)		57/38 (38/0)		9/9 (9/7)	4/4 (3/2)	遺方3 鉋尾1		
	8C代	7/25		2/2 (2/2)					2/2 (2/2)	2/2 (2/2)				2/2 (2/2)		5/5 (5/2)		11/21 (21/2)						
	9C代	7/15	1/1 (1/1)	3/3 (3/3)	1/1 (1/1)	1/1 (1/1)			6/3 (6/3)		12/4 (12/4)	2/2 (2/1)		3/3 (3/3)	2/2 (2/2)	11/11 (11/5)		42/45 (45/2)	17/15 (17/15)	9/9 (9/7)	4/4 (3/2)	遺方3 鉋尾1		
	不明													2				4						

群(地区)	時期	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	参考									
		農具			工具				紡錘具							製鉄	その他												
		鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鑿	錐	鋸	鉗	(鉄製)	(石土製)	刀子	釘	燧鉄		鉄			鍬	刀装具	馬具	スラック	羽口	砥石	帯金具	鍬・鋤・鉋・鉗・鋸・釘		
E	計	9/24	1 (1/1)	1 (1/1)						1 (1/1)	2 (2/2)	4 (4/4)	1 (1/1)		1 (1/1)				5 (5/4)	14 9.3	2 (2/1)	6 (6/6)							
	8C代	4/12								1 (1/1)	2 (2/2)	1 (1/1)		1 (1/1)					4 7.7			2 (2/2)							
	9C代	5/12	1 (1/1)	1 (1/1)						1 (1/1)	1 (1/1)	2 (2/2)							5 (5/4)	10 10.7	2 (2/1)	4 (4/4)							
	不明																												
計	計	60/155	3 (3/2)	16 16/14	7 (7/6)	4 (4/4)				2 (2/2)			11 (11/8)	19 17/16	50 30/35	5 (5/3)	1 (1/1)		12 10/10	1 (1/1)	2 (2/2)	36 33/19	鋼製品 (1/1)	150 100	22 (22/8)	2 (2/1)	34 33/28	6 (6/4)	鉄具1 遠方4 鉋尾1
	8C代	31/103	5 (5/5)	6 (6/5)	1 (1/1)					2 (2/2)	9 (9/9)	19 19/17	1 (1/1)		5 (5/5)	1 (1/1)			12 (12/5)	鋼製品 (1/1)	51 34.7	1 (1/1)		10 (10/9)	1 (1/1)		1 (1/1)	鉄具1	
	9C代	29/52	3 (3/2)	11 11/1	1 (1/1)	3 (3/3)				2 (2/2)	9 (9/6)	8 (8/7)	31 31/18	5 (5/5)		5 (5/5)	2 (2/2)	21 21/14			94 62.0	21 (21/7)	2 (2/1)	23 23/19	5 (5/3)		5 (5/3)	遠方4 鉋尾1	
	不明										2										5 3.3								
	割合		2.0	10.7	4.7	2.7				1.3			7.3	33.3	3.3	0.7			8.0	0.7	1.3	24.0		100					

表4 村上込の内遺跡墨書土器等群(地区)別出土一覧 (○印: 刻書土器で内数) (総出土数 $\frac{\text{墨書土器からの出土数}}{\text{出土墨書土器数}}$)

群(地区)	文字	出土墨書土器数	利多	利(又は利多)	丈	林	林上	□上	奉	平	凡	前+	千朝	千	家	墨書土器からの出土数		
																墨書土器数	出土墨書土器数	
A		17/42	3(3/2)	2(2/2)	1(1/1)	6(6/3)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)						
			V A	IV~VA	V A	IV	IV	IV	IV		IV	III B						
B	4/12	2(2/1)			1(1/1)								1(1/1)					
			IV		IV							IV				IV		
C	16/37													①(1/1)				
														III A				
D	22/40													1(1/1)				
														IV				
E	13/24	1(1/1)																
			V B															
計		72/155	6(6/4)	2(2/2)	2(2/2)	6(6/3)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	2①(2/2)		3(3/1)		

文字 群 地区 時期	入	市	六 万	止	手		門	卅	毛	来				子 春
					手	卅				来	借来	来・今	来・夕	
A									2(2/1) Ⅳ	4(4/3) Ⅳ~ⅤA				
B	1(1/1) Ⅳ	1(1/1) Ⅳ	①(1/1) Ⅳ											
C		①(1/1) Ⅳ		4(3/3) Ⅱ~Ⅳ	①(1/1) Ⅱ	4(4/1) Ⅳ	1(1/1) ⅢA	①(1/1) ⅢA	1(1/1) Ⅳ	1(1/1) Ⅳ				
D	1(1/1) ⅤA		1(1/1) ⅤB	①(1/1) ⅢA				2(1/1) ⅢA~Ⅳ	24(19/7) Ⅱ~ⅤB	87(67/9) Ⅳ~Ⅴb	2(2/1) ⅤA	1(1/1) ⅤA	1(1/1) ⅤA	3(2/2) Ⅳ~ⅤA
E			2(2/2) ⅤB	1(1/1) ⅢB					3(3/3) ⅢC~ⅤA	5(5/4) Ⅳ~Ⅴb				
計	2(2/2)	2①(2/2)	4①(4/4)	6①(5/5)	①(1/1)	4(4/1)	1(1/1)	3①(2/2)	30(25/12)	97(77/17)	2(2/1)	1(1/1)	1(1/1)	

文字 群 地区 時期	聖	太	辛	↑	山	⊕	古	大	S	本 (刻書)	十 (〃)	八 (〃)	田 (〃)	木 (〃)
B					2①(2/2) Ⅳ									
C					1(1/1) ⅢB							①(1/1) Ⅰ	①(1/1) ⅢC	①(1/1) ⅢA
D	1(1/1) ⅤA	1(1/1) ⅢB	1(1/1) ⅤA	1(1/1) ⅤA	3(3/3) ⅢA~Ⅳ			2①(2/2) ⅤA				①(1/1) Ⅰ		
E					6①(6/5) ⅢC~ⅤB	1(1/1) ⅤB	1(1/1) ⅤB		1(1/1) Ⅳ					
計	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	12① (12/11)	1(1/1)	1(1/1)	3①(2/2)	1(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	④(4/4)	①(1/1)	

文字 群 地区 時期	井 (刻書)	⊖ (〃)	卅 (〃)	今 (〃)	个 (〃)	卍 (〃)	卌 (〃)	卍 (〃)	川 (〃)	𠂔 (〃)	×	計			
												墨書	刻書	計	
A											②(2/2) ⅢB~Ⅳ	②(2/2) ⅢA~Ⅳ	25	8	33
B													10 Ⅳ	2 Ⅳ	12
C	②(2/2) Ⅰ~ⅢB							①(1/1) Ⅰ	①(1/1) ⅢB		③(3/3) Ⅰ~ⅢA~Ⅳ		12	14	26
D	②(2/2) ⅢA	①(1/1)	①(1/1) ⅤB	①(1/1) ⅤB	①(1/1) ⅢB	②(2/2) Ⅱ~ⅢB	①(1/1) ⅢA				②(2/2) Ⅱ~Ⅲ		131	14	145
E	①(1/1) ⅢC												20 ⅢB~ⅤB	2 ⅢC	22
計	⑤(5/5)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	②(2/2)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	②(2/2)	⑦(7/7)		198	40	238

群 地区	文字 時期	字体不明			合計			〔へろ書〕	当 (へろ書)	申 (〃)	中 (〃)	仲 (〃)	人 (〃)	八 (〃)	ム (〃)
		墨書	刻書	計	墨書	刻書	合計								
A	6(6/6)	2(2/2)	8	31	10	41		1(1/1)						2(2/1)	1(1/1)
	ⅢB~ⅤA	ⅢB~Ⅳ						Ⅳ						ⅢA	Ⅳ
B	5(5/4)	1(1/1)	6	15	3	18									
	Ⅳ・ⅤB	Ⅳ													
C	6(6/5)		6	18	14	32									
	Ⅱ~ⅤA														
D	26(26/8)	4(4/4)	30	157	18	175			1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	2(2/2)			
	ⅢB~ⅤB	ⅢB・Ⅴ							Ⅱ	Ⅳ	ⅤA	ⅤA			
E	4(4/4)		4	24	2	26							1(1/1)		
	Ⅳ~ⅤB												Ⅳ		
計	47(47/27)	7(7/7)	54	245	47	292		1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	3(3/3)	2(2/1)	1(1/1)	

群 地区	文字 時期	山	大	ㄣ	ㄣは	ㄣ	計	不字	合計
		(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	(〃)	明体 (〃)	(〃)
A			1(1/1)	2(2/2)			7		7
			ⅢA	Ⅳ・ⅤA					
B									
C			1(1/1)	3(3/3)	1(1/1)	5		5	
			ⅢA	ⅢA・B・Ⅳ	ⅢB				
D	2(2/1)		1(1/1)	2(2/2)		10	2(2/2)	12	
	Ⅳ・ⅤB		Ⅳ	ⅤA・B			ⅤA		
E	1(1/1)		1(1/1)	1(1/1)		4		4	
	ⅤA		ⅢB	Ⅳ					
計	3(3/2)	1(1/1)	5(5/5)	6(6/6)	1(1/1)	26	2(2/2)	28	

表5 白幡前遺跡竪穴住居群別・時期別・規模別一覽

遺跡名	時期 規模	0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明	計	0~3期	4a~8期	
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉				主に 8C代	主に 9C代
1A	竪穴住居数	0	3	0	3	3	1	5	4	0	0	2	21	6	13	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)															
	6.25㎡~9㎡(3×3)							2					2		2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		1		1				1	1			2	6	2	2
	12.25㎡~16㎡ (4×4)								1					1		1
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		1							2				3	1	2
20.25㎡ (4.5×4.5)以上		1		2	3	1	1	1					9	3	6	
1B	竪穴住居数	2	15	5	14	5	2	3	4	2	1	3	56	36	17	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1		1								2	2		
	6.25㎡~9㎡(3×3)		5	2	3	1	1					1	13	10	2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		3	1	4	2			1	2		1	14	8	6	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)	1	2	1	2	1			1	1	1		2	12	6	4
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		2	1	2					1	1			7	5	2
20.25㎡ (4.5×4.5)以上	1	2		2	1	1	1						8	5	3	
2A	竪穴住居数	0	5	4	14	4	0	3	4	0	0	3	37	23	11	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1	1	1				2	1			6	3	3	
	6.25㎡~9㎡(3×3)			1	2	2			1			1	7	3	3	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		2	1	5	1				1		1	11	8	2	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		1		5	1				1		1	9	6	2	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)				1								1	1		
20.25㎡ (4.5×4.5)以上		1	1						1			3	2	1		
2B	竪穴住居数	0	5	5	11	2	2	3	0	1	0	1	30	21	8	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1										1	1		
	6.25㎡~9㎡(3×3)		1		2				2				5	3	2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		1	1	5	1	1						9	7	2	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		1	4	2	1	1	1		1			11	7	4	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		1		1							1	3	2		
20.25㎡ (4.5×4.5)以上				1								1	1			
2C	竪穴住居数	0	0	3	6	7	6	5	4	10	0	2	43	9	32	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)				1				1		1		5	2	2	
	6.25㎡~9㎡(3×3)			1	1	2	1			4			9	2	7	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)				1	3	1	2	2	2	2		11	1	10	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)			1	2	1	2	2	2	3		1	14	3	10	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)			1		1	1						3	1	2	
20.25㎡ (4.5×4.5)以上						1						1		1		

遺跡名	規模	時期											計	0~3期	4a~8期	
		0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明				
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉				上は 8C代	上は 9C代
2D	竪穴住居数	0	0	0	7	3	1	4	2	0	0	1	18	7	10	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)															
	6.25㎡~9㎡(3×3)															
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)				3	2		1	2			1	9	3	5	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)				2	1	1	3					7	2	5	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)															
20.25㎡ (4.5×4.5)以上				2								2	2			
2E	竪穴住居数	0	1	1	4	9	2	3	3	0	0	0	23	6	17	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)															
	6.25㎡~9㎡(3×3)				1			1					2	1	1	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		1		2	2	2	1	1				9	3	6	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)				1	6			1				8	1	7	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)			1		1		1	1				4	1	3	
20.25㎡ (4.5×4.5)以上																
2F	竪穴住居数	0	0	2	7	5	3	4	0	0	0	0	21	9	12	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)							1					1		1	
	6.25㎡~9㎡(3×3)				1	2							3	1	2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)			1	3	2	1	2					9	4	5	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)			1	1	1		1					4	2	2	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)				1		2						3	1	2	
20.25㎡ (4.5×4.5)以上				1								1	1			
3	竪穴住居数	0	1	1	6	7/8	5	5	2	0	0	2	29/30	8	19	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)															
	6.25㎡~9㎡(3×3)				2		1	1				1	5	2	2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)			1	1	1	1	2	1				7	2	5	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		1			3		1	1				6	1	5	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)					1	1	1				1	4		3	
20.25㎡ (4.5×4.5)以上				3	2	2						7	3	4		
計	竪穴住居数	2	30	21	72	45/46	22	35	23	13	1	14	278/279	125	139	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		3	1	4			4	1	1		1	15	8	6	
	6.25㎡~9㎡(3×3)		6	4	12	7	3	7		4		3	46	22	21	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		8	5	25	14	6	10	10	2	1	4	85	38	43	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)	1	5	7	15	15	4	10	6	5		4	72	28	40	
16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		4	3	5	3	4	2	4	1		2	28	12	14		
20.25㎡ (4.5×4.5)以上	1	4	1	11	6	5	2	2				32	17	15		

表6 白幡前遺跡出土土器の群別・時期別出土数一覧

(上段： 出土数
下段： (1住居当り出土数))

群別	時期	出土土器										不明	計	整穴住居 外出土数		合計	0~3期		4a~8期	
		8C初期 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末 9C初期	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初期 ~前葉			9~ 3期	4a ~8期		上に 8C代	上に 9C代	上に 8C代	上に 9C代
1A	計		7/3 (2.3)		43/3 (14.3)	34/3 (11.3)	22/1 (22.0)	38/5 (7.6)	35/4 (8.8)				1/2	180/21 (8.6)	10	190/21 (9.0)	50/6 (8.3)	139/13 (10.7)		
	8C代	5/2 (2.5)	28/15 (1.9)	15/5 (3.0)	63/14 (4.5)	27/5 (5.4)	55/2 (27.5)	37/3 (12.3)	25/4 (6.3)	18/2 (9.0)	3/1 (3.0)	2/3	278/56 (5.0)	26	21	325/56 (5.8)	137/36 (3.8)	186/17 (10.9)		
2A	計		6/5 (1.2)	16/4 (4.0)	35/14 (2.5)	14/4 (3.5)		8/3 (2.7)	23/4 (5.8)				1/3	103/37 (2.8)	15	118/37 (3.2)	57/23 (2.5)	60/11 (5.5)		
	8C代		11/5 (2.2)	15/5 (3.0)	34/11 (3.1)	17/2 (8.5)	28/2 (14.0)	17/3 (5.7)			2/1 (2.0)		0/1	124/30 (4.1)		124/30 (4.1)	60/21 (2.9)	64/8 (8.0)		
2B	計			10/3 (3.3)	33/6 (5.5)	38/7 (5.4)	63/6 (10.5)	29/5 (5.8)	18/4 (4.5)	48/10 (4.8)			0/2	239/43 (5.6)	4	243/43 (5.7)	43/9 (4.8)	200/32 (6.3)		
	8C代			26/7 (3.7)	33/3 (11.0)	16/1 (16.0)	38/4 (9.5)	10/2 (5.0)				0/1	123/18 (6.8)		123/18 (6.8)	26/7 (3.7)	97/10 (9.7)			
2C	計		4/1 (4.0)	9/1 (9.0)	11/4 (2.8)	34/9 (3.8)	17/2 (8.5)	20/3 (6.7)	25/3 (8.3)					120/23 (5.2)	2	122/23 (5.3)	24/6 (4.0)	98/17 (5.8)		
	8C代		10/2 (5.0)	35/7 (5.0)	29/5 (5.8)	49/3 (16.3)	31/4 (7.8)							154/21 (7.3)	2	156/21 (7.4)	45/9 (5.0)	111/12 (9.3)		
3	計		1/1 (1.0)	1/1 (1.0)	51/6 (8.5)	45/8 (5.6)	60/5 (12.0)	20/5 (4.0)	14/2 (7.0)				0/2	192/30 (6.4)	5	197/30 (6.6)	58/8 (7.3)	139/20 (7.0)		
	8C代	5/2 (2.5)	57/30 (1.9)	76/21 (3.6)	331/72 (4.6)	271/46 (5.9)	310/22 (14.1)	238/35 (6.8)	150/23 (6.5)	68/13 (5.2)	3/1 (3.0)	4/14	1,513/279 (5.4)	31	54	1,598/279 (5.7)	500/125 (4.0)	1,094/140 (7.8)		

表7 白幡前遺跡出土鉄器等の構成及び群別出土一覧

(個別鉄器等出土数：総出土数 (整穴住居からの出土数 / 出土整穴住居数))

群	時期	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	参考					
		農具		工具				紡錘具		刀子		釘		燧鉄		鉄				馬具		製鉄	その他		
		鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鑿	錐	鋸	鉗	(鉄製)	(石土製)	刀子	釘	燧鉄	鉄	鎌			刀装具	馬具		スラグ	羽口	砥石
1A	計	13	21	3 (3.3)	3 (3.2)				1 (1.1)	1 (1.1)	4 (4.3)	14 (14.8)	2 (2.1)			7 (7.4)		3 (3.3)	枢鍵1 (1.1)	35 (13.9)			9 (9.9)	3 (3.3)	鍔1 丸鍔1 逆方1
	8C代	3	6								3 (3.2)	5 (5.1)	2 (2.1)			6 (6.3)		1 (1.1)		14 18.7			3 (3.3)		
	9C代	10	13	3 (3.3)	3 (3.2)				1 (1.1)	1 (1.1)		9 (9.7)				1 (1.1)		2 (2.2)	枢鍵1 (1.1)	21 12.4			5 (5.5)	3 (3.2)	鍔1 逆方1
	不明	0	2							1 (1.1)													1 (1.1)		
1B	計	17	56	4 (3.2)	2 (2.2)					4 (4.2)	9 (9.6)	26 (24.1)	1 (1.1)	1 (1.1)		12 (12.6)	1 (1.1)	17 (17.3)	門2 (2.1)	70 27.9			5 (5.5)	4 (4.2)	鍔1 逆方3
	8C代	12	36		2 (2.2)					1 (1.1)	11 (10.7)	1 (1.1)				3 (3.3)		2 (2.2)		19 25.3			1 (1.1)		
	9C代	5	17	3 (3.2)						4 (4.2)	8 (8.5)	14 (14.4)		1 (1.1)		9 (9.3)	1 (1.1)	15 (15.3)	門2 (2.1)	50 29.6			4 (4.4)	4 (4.2)	鍔1 逆方3
	不明	0	3		1																1				
2A	計	8	37	1 (1.1)		1 (1.1)	1 (1.1)			1 (1.1)	2 (2.2)	2 (2.2)				1 (1.1)		2		10 4.0			1 (1.1)		
	8C代	3	23							1 (1.1)		2 (2.2)				1 (1.1)				3 4.0					
	9C代	5	11	1 (1.1)		1 (1.1)	1 (1.1)				2 (2.2)									5 2.9			1 (1.1)		
	不明	0	3																		2				

群	時期	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	参考				
		農具			工具				紡錘具			刀子	釘	燧鉄	鉄	刀装具	馬具			製鉄	その他			
		鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鋳	鋸	鉗	(鉄製)	(石土製)										スラグ	羽口	砥石	帯金具
2B	計	9 30	1 (1 1)	2 (2 2)						4 (4 4)	7 (7 5)				2 (2 2)			1 (1 1)	13 5.2		7 (7 6)			
	8C代	5 21	1 (1 1)							1 (1 1)	4 (4 2)				1 (1 1)			1 (1 1)	7 9.3		4 (4 4)			
	9C代	3 8		1 (1 1)						3 (3 3)	2 (2 2)				1 (1 1)				4 2.4		2 (2 2)			
	不明	1 1		1 (1 1)							1 (1 1)								2		1			
2C	計	15 43	3 (3 2)						2 (2 2)	1 (1 1)	13 (13 11)			1	7 (7 4)		2 (2 2)	28 11.1		1 (1 1)				
	8C代	3 9								1 (1 1)	2 (2 2)						1 (1 1)	3 4.0						
	9C代	12 32	3 (3 2)						2 (2 2)		11 (11 9)			1 (1 1)	7 (7 4)		1 (1 1)	25 14.8		1 (1 1)				
	不明	0 2																						
2D	計	9 18	2 (2 2)	1 (1 1)	1					3 (3 3)	6 (6 5)				3 (3 3)		3 (3 2)	16 6.4		3 (3 2)				
	8C代	3 7								1 (1 1)	2 (2 2)				1 (1 1)			3 4.0		1 (1 1)				
	9C代	6 10	2 (2 2)	1 (1 1)						2 (2 2)	4 (4 3)				2 (2 2)		3 (3 2)	12 7.1		2 (2 1)				
	不明	0 1			1													1						
2E	計	11 23	3 (3 3)						1 (1 1)	1 (1 1)	4 (4 4)	6 (6 5)			1 (1 1)		5 (5 3)	門1 18 7.2		2 (2 2)				
	8C代	1 6								1 (1 1)						2 (2 1)	2 2.7		1 (1 1)					
	9C代	10 17	3 (3 3)						1 (1 1)	1 (1 1)	3 (3 3)	6 (6 5)			1 (1 1)		3 (3 2)	門1 16 9.5		1 (1 1)				
	不明	0 0																						
2F	計	11 21	3 (3 3)	1 (1 1)						1 (1 1)	12 (12 7)				3 (3 3)		7 (7 6)	26 10.4		2 (2 1)	1 (1 1)	運方1		
	8C代	3 9		1 (1 1)							2 (2 1)				2 (2 2)		2 9.3			1 (1 1)		運方1		
	9C代	8 12	3 (3 3)							1 (1 1)	10 (10 6)				1 (1 1)		5 (5 4)	19 11.2		2 (2 1)				
	不明	0 0																						
3	計	12 30	5 (5 4)			1 (1 1)			4 (4 3)	5 (5 5)	9 (8 7)				2 (2 2)	2 (2 1)	10 (10 5)	樞鍵2 35 13.9		3 (3 3)				
	8C代	3 8	3 (3 2)			1 (1 1)			1 (1 1)	3 (3 2)					1 (1 1)	5 (5 1)	樞鍵1 17 22.7		1 (1 1)					
	9C代	9 20	2 (2 2)						3 (3 2)	5 (5 5)	5 (5 5)				1 (1 1)	5 (5 4)	樞鍵1 17 10.1		2 (2 2)					
	不明	0 2								1							1							
計	計	105 279	20 (19 18)	14 (14 12)	2 (1 1)	1 (1 1)	1 (1 1)		1 (1 1)	1 (1 1)	12 (12 9)	32 (32 28)	95 (92 61)	5 (5 4)	1 (1 1)	1 (1 1)	38 (38 26)	3 (3 2)	50 (48 27)	樞鍵3 251 100		33 (33 30)	8 (8 5)	鉋具2 丸鋸1 運方5
	8C代	36 125	1 (1 1)	6 (6 5)		1 (1 1)			1 (1 1)	9 (9 8)	29 (28 17)	5 (5 4)			15 (15 12)	2 (2 1)	14 (14 9)	樞鍵1 75 29.9		11 (11 11)	1 (1 1)		運方1	
	9C代	68 140	18 (18 17)	7 (7 6)	1 (1 1)	1 (1 1)			1 (1 1)	1 (1 1)	11 (11 8)	22 (22 19)	64 (63 43)		1 (1 1)	1 (1 1)	23 (23 14)	1 (1 1)	34 (34 28)	樞鍵2 169 67.3		20 (20 17)	7 (7 4)	鉋具2 丸鋸1 運方4
	不明	1 14	1 (1 1)	1 (1 1)	1				1 (1 1)	2 (2 1)							2	7 2.8		2 (2 2)				
割合			8.0	5.6	0.8	0.4	0.4		0.4	0.4	4.8	37.8	2.0	0.4	0.4	15.1	1.2	19.9	2.4	100				

表8 白幡前遺跡出土墨(刻)書土器群別一覧(1)

(○印:刻書土器で内数) (総出土数(整穴住居からの出土数) / 整穴住居からの出土数)

群 地区 時期	文字 出土整穴 住居数 調査整穴 住居数	至	堤	堤 至	生	堤 生	生 堤	口 堤	入	平	有	貞	土 坑	継
1A	14/21	8(8/2)	9①(9/6)	3(3/1)	$\frac{34^{\text{○}}}{(28^{\text{○}})}$	4(4/1)	9(9/2)	1(1/1)	7(7/4)	4(4/3)	1(1/1)	2(2/1)	1	8①(8/4)
		3	3~6	3	4a~6	5	4b~5	5	4b~5	3~4a	6	5	5	4b~6
1B	34/56		1(1/1)		30(27/5)				5①(5/5)					19(19/4)
			5		4a~6				4a~5					4b~6
2A	14/37		1(1/1)		4(4/1)									6(6/3)
			3		6									6
2B	12/30				3(3/2)	1(1/1)								1(1/1)
					4b~5	4b								4b
2C	26/43		1(1/1)		2(2/2)				6①(6/3)					
			6		6~7				4a~5					
2D	13/18				2(2/1)									
					5									
2E	16/23								5①(5/2)					
									2・5					
2F	17/21					1(1/1)			②(2/1)					
						4a			5					
3	19/30				2(2/2)				2(2/2)					3(3/3)
					4b~5				3・4b					4a~5
計	165/279	8(8/2)	$\frac{12^{\text{○}}}{(12^{\text{○}})}$	3(3/1)	$\frac{77}{(68^{\text{○}})}$	6(6/3)	9(9/2)	1(1/1)	$\frac{27^{\text{○}}}{(27^{\text{○}})}$	4(4/3)	1(1/1)	2(2/1)	1	$\frac{32^{\text{○}}}{(37^{\text{○}})}$

群 地区 時期	文字	○	◎	⊗	×	立	益	牧 方	□ 万	大 井	山	山 口	大 寺	臣	堤 家
1A															
1B	$\frac{31}{(27^{\text{○}})}$	3①(3/3)	1(1/1)	1(1/1)	18(13/4)	3(3/2)	7(5/3)	2(2/2)	3(3/2)	3(3/3)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)
	1・3~5・8	3・6	3	4b	4a・5~6	3	3	3	3・4b	1・3・5	3	3	3	5	
2A					(1)	2(2/2)									
						3									
2B						1(1/1)									
						3									
2C															
2D					1(1/1)										
					6										
2E	1(1/1)														
	4a														
2F															
3					1(1/1)										
					6										
計	$\frac{32}{(28^{\text{○}})}$	3①(3/6)	1(1/1)	1(1/1)	23(15/6)	6(6/5)	7(5/3)	2(2/2)	3(3/2)	2(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)

群 地区 時期	文字													
	財	庄	埒	嶋	寺 坏	寺	佛	上	ㄥ	赤 山	堤 赤 山	召 代 入 面 支 部 人 足	人 足	長
1A						1(1/1)		1(1/1)						
						4b		4b						
1B	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	3(3/1)										
	5	6	3	7										
2A					2(1/1)	1(1/1)	2(2/1)	2(2/1)	2(2/1)	2(2/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)
					3	4a	3	3	4a	3	3	3	3	3
2B														
2C					1(1/1)									
					4b									
2D														
2E								1(1/1)	1(1/1)					
								4a	4a					
2F														
3								1(1/1)	1(1/1)					
								5	4b					
計	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	3(3/1)	3(2/2)	2(2/2)	2(2/1)	5(5/4)	4(4/3)	2(2/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)

群 地区 時期	文字													
	安	生 方	器	草 田	草	乙 山	乙 口	大 (大)	家	大 家	鷹	満	田 生	ㄨ
1A					1			4①(4/2)						
					5			4a・5						
1B			1(1/1)		1(1/1)				2(2/2)					
			3		5				4b・5					
2A	1(1/1)	1	1					1						
	3							4b						
2B			2(2/1)	1(1/1)		1(1/1)		2(2/1)						
			4a	3		3		4b						
2C								^{33③} (33/11)	3(3/2)	1(1/1)	6(6/1)	4(4/2)	2(2/2)	2(1/1)
								3~6	4b	5	4b	4b・6	4b・5	3
2D						1(1/1)		3(3/3)						
						3		4a~5						
2E								①(1/1)						
								5						
2F							1(1/1)	2(2/2)	1(1/1)					
							3	4a・4b	4b					
3			1(1/1)											
			4b											
計	1(1/1)	1	5(4/3)	1(1/1)	2(1/1)	2(2/2)	1(1/1)	^{46⑤} (45/20)	6(6/5)	1(1/1)	6(6/1)	4(4/2)	2(2/2)	2(2/1)

群 [地区] 時期	文字														
	新 家 古	□ 天 □	神 万	厨	酒 真 利	式	廓	又	工	魚	田	得	太	文	
1A							1(1/1) 5	①(1/4) 4b							
1B									①(1/1) 3						1(1/1) 1
2A							1 4a	1(1/1) 5							
2B							1(1/1) 4b								
2C	1(1/1) 3	1(1/1) 3	1(1/1) 4a	1(1/1) 4a	1(1/1) 4b	1(1/1) 5	6(6/4) 4a~5								3(3/2) 3
2D							18(18/6) 4a~5	1(1/1) 4a	1(1/1) 3	1(1/1) 3	1(1/1) 5	1(1/1) 5	1(1/1) 5	1(1/1) 5	4(4/2) 3
2E							4(4/2) 4a・4b								4(4/4) 2~4a
2F									1(1/1) 4b						2(2/2) 3
3							12(12/4) 4a・4b								2(2/2) 3・4a
計	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	⁴³ _(42/18)	4(4/4)	③①(3/3)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	¹⁶ _(16/13)

群 [地区] 時期	文字														
	圓	赤 足	赤 □	赤	上 因	卅	小 堤	小 □	子	善	□ 信	丈	得 足	千 □	
1A							1(1/1) 5								
1B							①(1/1) 3								
2A							1 4b								
2B							①(1/1) 3			③①(3/2) 4a・4b					
2C	3(2/2) 4b・5						②(2/2) 4a・4b								
2D	2(2/2) 4b・5														
2E	6①(5/3) 3・4b・5	1(1/1) 2	1(1/1) 2	1(1/1) 3	1 3										
2F	2①(2/2) 4b・5					²³⁹ _(23/5)	6(6/3) 3・4b	1(1/1) 4a~5	5(5/4) 4a	2(2/2) 3・4a・5	1(1/1) 4a・4b	1(1/1) 4a	1(1/1) 4a	1(1/1) 3	1(1/1) 3
3	2/1 4b						1(1/1) 4a	1(1/1) 5		1(1/1) 4a					
計	¹⁵² _(13/10)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1	³⁰⁹ _(29/11)	7(7/4)	1(1/1)	9(9/7)	2(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)

群 (地区)	文字		千 方	饒	豊	村	古	守	賀 □ □	稗	卯 原	左	富	㊦	万	盛
	時 期															
1A													1(1/1)	2②(2/2)		
													5	4b・5		
1B							①(1/1)						1(1/1)			
							1						5			
2A																
2B														1(1/1)		
														4b		
2C															1(1/1)	1(1/1)
															6	7
2D		1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)									1(1/1)			
		4b	4b	5									4b			
2E	①(1/1)					3②(3/3)										
	5					4b・5										
2F	1(1/1)														1(1/1)	
	5														5	
3		14(14/4)	8(8/2)	2/1	3(3/3)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)			
		4a・4b	4b	4b	3・4a	4a	4a	4b	5			4a				
計	2(2/2)	15(15/5)	9(9/3)	3/2	7③(7/7)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	(1/1)	4(4/4)	3①(3/2)	2(2/2)	1(1/1)		

群 (地区)	文字		大 田	大	へ	成	丁	十	↑	↑	羊	井 □	井	奉	加	山 (刻書)
	時 期															
1A		1(1/1)							①(1/1)				①(1/1)	1(1/1)		①(1/1)
		5							4b				4b	4b		4b
1B		1(1/1)	1		1(1/1)				1(1/1)	②(2/2)	1(1/1)		3②(2/2)			
		4b	3		5				4a	4a・5	5		3・5・6			
2A				1(1/1)		1(1/1)						1(1/1)				
				3		4a						3				
2B																
2C		1(1/1)										1(1/1)	5③(5/4)			
		4a										3	4a・b 6・7			
2D						1(1/1)										
						5										
2E							1(1/1)	①(1/1)			1(1/1)		①(1/1)			
							4b	5			6		5			
2F										1(1/1)	(①)		1(1/1)		1(1/1)	
										5			4a		4b	
3		1(1/1)					①(1/1)	1(1/1)								
							4b	4b								
計	3(3/3)	2(2/1)	1(1/1)	1(1/1)	2(2/1)	2②(2/2)	4②(4/4)	3②(3/3)	3①(2/2)	2(2/2)	1①(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)

群 地区 時期	文字														
	□ 天 刻書	⊕ (〃)	仲 (〃)	中 (〃)	𠂔 (〃)	𠂔 (〃)	𠂔 (〃)	𠂔 (〃)	⊙	𠂔	𠂔	土	𠂔	一	
1A	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)										
	5	4b	4b	4b	5										
1B					②(2/2)	①(1/1)	①(1/1)	②(2/2)							
					3・4b	3	3	3							
2A									①(1/1)	①(1/1)	1(1/1)				
									4b	1	1				
2B															
											1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)		
2C											4b	4b	4b		
															2(2/2)
2D															
															5・6
2E															
2F															
3															
計	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	③(3/3)	①(1/1)	①	②(2/2)	①(1/1)	①(1/1)	②(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	②(2/2)	

群 地区 時期	文字														
	へ	人	𠂔	計			字体不明			合計			へ ラ 書	山	
				墨書	刻書	計	墨書	刻書	計	墨書	刻書	計			
1A				93(91)	15	108(106)	7(7/5)	1(1/1)	8	100(98)	16	116(114)		1(1/1)	
							3~6	3						3	
1B				147(132)	15(14)	162(146)	28(28/16)	1(1/1)	29	176(161)	16(15)	192(176)			
							3~8								
2A				39(32)	3	42(35)	19(19/9)		19	58(51)	3	61(54)		1(1/1)	
							2~6		3						
2B				16	2	18	7(7/5)	2(2/2)	9	23	4	27			
							3・4b								
2C				81(80)	10	91(90)	13(13/10)		13	94(93)	10	104(103)			
							3~6								
2D				42	2	44	8(8/6)		8	50	2	52			
							3~5								
2E	1(1/1)	1(1/1)		28(26)	9	37(35)	10(10/5)	1(1/1)	11	38(36)	10	48(46)			
	6	6					4a~6	3							
2F			1(1/1)	45	15(14)	60(59)	10(10/8)	2(2/1)	12	55	17(16)	72(71)			
			5				3~6	4b							
3				108(104)	2	110(106)	15(15/7)	2(2/1)	17	123(119)	4	127(123)			
							2~8	4a							
計	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	599(568)	73(71)	672(639)	117(117/71)	9(9/7)	126	716(685)	82(80)	798(765)		2(2/2)	

群 [地区] 時期	文字							
	大 生 人	×	×	η	◎	大	一	計
1A								1
1B	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	2(2/1)				5
	3	3	3	3				
2A								1
2B								
2C								
2D	1(1/1)							1
	4 a							
2E	2(2/2)							2
	3・4 a							
2F					1(1/1)	1(1/1)		2
					3	4 b		
3	1(1/1)						1(1/1)	2
	4 b						4 b	
計	1(1/1)	5(5/5)	1(1/1)	2(2/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	14

表9 井戸向遺跡竪穴住居群別・時期別・規模別一覽

遺跡名	時期 規模	0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明	計	0~3期	4a~8期
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉				
I	竪穴住居数	0	0	0	9	4	4	8	6	3	0	2	36	9	25
	4㎡(2×2)以下							1					1		1
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)				1			1	1				3	1	2
	6.25㎡~9㎡(3×3)				4	2	2	1	1	1			11	4	7
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)				4	2	1	3	1	1		1	13	4	8
	12.25㎡~16㎡ (4×4)							2	3	1		1	7		6
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)														
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上							1					1		1
II	竪穴住居数	0	4	0	2	0	2	2	0	0	0	1	11	6	4
	4㎡(2×2)以下														
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1		1			1					3	2	1
	6.25㎡~9㎡(3×3)		1										1	1	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		1				2	1					4	1	3
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		1		1							1	3	2	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)														
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上														
III	竪穴住居数	0	3	0	0	0	2	2	0	0	1	0	8	3	5
	4㎡(2×2)以下														
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)														
	6.25㎡~9㎡(3×3)							1					1		1
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)										1		1		1
	12.25㎡~16㎡ (4×4)						1						1		1
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		1					1					2	1	1
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上		2					1					3	2	1
IV	竪穴住居数	0	12	0	4	16	0	1	1	3	0	3	40	16	21
	4㎡(2×2)以下				1							1	2	1	
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)					1							1		1
	6.25㎡~9㎡(3×3)		1			7		1		1		2	12	1	9
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		3		1	4			1	1			10	4	6
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		3		1	3				1			8	4	4
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		3		1	1							5	4	1
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上		2										2	2	
計	竪穴住居数	0	19	0	15	20	8	13	7	6	1	6	95	34	55
	4㎡(2×2)以下				1			1				1	3	1	1
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1		2	1		2	1				7	3	4
	6.25㎡~9㎡(3×3)		2		4	9	2	3	1	2		2	25	6	17
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		4		5	6	3	4	2	2	1	1	28	9	18
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		4		2	3	1	2	3	2		2	19	6	11
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		4		1	1		1					7	5	2
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上		4			2	2						6	4	2

表10 井戸向遺跡出土土形土器の群別・時期別出土数一覧

(上段：—出土数—
—整穴住居数—)
下段：(1住居当り出土数)

群 (地区)	時期	出土数										不明	計	整穴住居 出土数		合計	0~3期		4a~8期	
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉			0~ 3期	4a ~8期		合計	0~3期	4a~8期	
I					35/9 (3.9)	10/4 (2.5)	19/4 (4.8)	64/8 (8.0)	69/6 (11.5)	18/3 (6.0)		1/2	216/36 (6.0)	3	12	231/36 (6.4)	38/9 (4.2)	192/25 (7.7)		
II			3/4 (0.8)		3/2 (1.5)		13/2 (6.5)	7/2 (3.5)				0/1	26/11 (2.4)	1	27/11 (2.5)	6/6 (1.0)	21/4 (5.3)			
III			13/3 (4.3)				47/2 (23.5)	8/2 (4.0)			2/1 (2.0)		70/8 (8.6)		70/8 (8.6)	13/3 (4.3)	57/5 (11.4)			
IV			36/12 (3.0)		10/4 (2.5)	51/16 (3.2)		7/1 (7.0)	7/1 (7.0)	2/3 (0.7)		0/3	113/40 (2.8)	6	119/40 (3.0)	46/16 (2.9)	73/21 (3.5)			
表探													3	27	30	3	27			
計			52/19 (2.7)		48/15 (3.2)	61/20 (3.1)	79/8 (9.9)	86/13 (6.6)	76/7 (10.9)	20/6 (3.3)	2/1 (2.0)	1/6	425/95 (4.5)	6	46	477/95 (5.0)	106/34 (3.1)	370/55 (6.7)		

表11 井戸向遺跡出土鉄器等の構成

(個別鉄器等出土数：総出土数 (整穴住居からの出土数 / 出土整穴住居数))

群	時期	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	出土 鉄器数 割合 全体	参 考					
		農 具			工 具				紡 錘 具 (石土製)			刀子	釘	燧鉄	鉄	鉄	刀 装 具				馬 具	製 鉄	その他			
		鋤 鎌	摘 鎌	手 斧	鉋	鑿	錐	鋸	鉗	刀子 (鉄製)	ス ラ グ												羽 口	砥 石	帯 金 具	諸 品 類 目 別 出 土 数
I	8C代	3/9		1 (1/1)							2 (2/2)	2 (2/2)							10 (7/7)	約針 (1/1) 富野 神玉	3 10.0		2 (2/2)			
	9C代	12/25	1 (1/1)	1 (1/1)		1 (1/1)	1 (1/1)			5 (5/4)	12 (12/8)				4 (3/2)						31 58.5	2 (2/2)	6 (6/4)	2 (2/2)	丸 廻 方 1	
	不明	0/2		1	1																4		1			
	計	15/36	1 (1/1)	3 (2/2)	1	1 (1/1)	1 (1/1)				7 (7/6)	14 (14/10)			4 (3/2)				12 (7/7)		38 42.7	2 (2/2)	9 (8/6)	2 (2/2)		
II	8C代	2/6								1 (1/1)	1 (1/1)								2 (2/2)		3 10.3		2 (2/1)			
	9C代	2/4									2 (2/1)										2 3.8		1 (1/1)			
	不明	0/1																								
	計	4/11								1 (1/1)	3 (3/2)							2 (2/2)		5 5.6		3 (3/2)				
III	8C代	3/3									4 (4/2)				6 (6/3)				2 (2/2)		12 40.0		6 (6/3)	1 (1/1)	数 具 1	
	9C代	4/5	3 (3/2)						1 (1/1)	2 (2/2)	5 (5/3)			1 (1/1)				3 (3/2)		13 24.5						
	不明																						1 (1/1)			
	計	7/8	3 (3/2)						1 (1/1)	2 (2/2)	9 (9/5)			7 (7/4)				5 (5/4)		25 28.1		7 (7/4)				
IV	8C代	8/16								1 (1/1)	4 (4/2)				8 (8/6)						12 40.0		1 (1/1)			
	9C代	5/21	1 (1/1)	1 (1/1)						1 (1/1)	2 (2/2)				2 (2/2)			1 (1/1)		7 13.2		4 (4/4)	1 (1/1)	巡 方 1		
	不明	0/3																								
	計	13/40	1 (1/1)	1 (1/1)					1 (1/1)	2 (2/2)	6 (6/6)			10 (10/8)				1 (1/1)		19 21.3		5 (5/5)				

群	時期	出土 整穴 住居数	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	出土 器物数 割合/全体	参考										
			農具			工具				紡錘具			刀子	釘	燧鉄	鉄	鉄	馬具				製 スラグ	鉄 羽口	砥石	その他							
			鋤 鉄	鎌	摘 鎌	手 斧	鉋	鑿	錐	鋸	鉗	(鉄製) (石・土製)													丸 金具	遺 目方 土 器 ・ ・						
表採等				1							1	1																2			1	鈍尾1
計	8C代	16/34		1 (1/1)							4 (4/4)	11 (11/7)					14 (14/9)			4 (4/4)	青銅製 小仏像 1 (1/1)	30			11 (11/7)	1 (1/1)	鈍具1					
	9C代	23/55		5 (5/4)	2 (2/2)		1 (1/1)	1 (1/1)		1 (1/1)	8 (8/7)	21 (21/16)					7 (6/4)			14 (11/30)	約針1 (1/1) 富寿 神宝 1 (1/1)	53	2 (2/2)	11 (11/9)	3 (3/3)	丸順1 造方2						
	不明	0/6		1	1	1					1	1								2		6		2 (1/1)	1	鈍尾1						
	計	39/95		6 (5/4)	4 (3/3)	1		1 (1/1)	1 (1/1)		1 (1/1)	13 (12/11)	33 (32/23)				21 (20/13)			20 (15/34)	青銅製 小仏像 1 (1/1) 約針 1 (1/1) 富寿 神宝 1 (1/1)	89	2 (2/2)	24 (23/17)	5 (4/4)	丸順1 造方2 鈍具1 鈍尾1						
割合			6.7	4.5	1.1		1.1	1.1		1.1		37.1				23.6			22.5	1.1	100											

表12 井戸向遺跡墨(刻)書土器等群別出土一覧

(○印：刻書土器で内数) (総出土数 整穴住居からの出土数 / 整穴住居数)

群 (地区)	文字 時期	出土 整穴 住居数	雷	㊟	万	入	盛	仁	生				生堤		口 堤
									生	生	主	主	生堤	主堤	
I		23/36	⁵² (23/30)	9(4/3)		3(2/2)	6(2/2)	6(6/3)	1(1/1)	5(3/2)		1			
			4a~6	4b~5		4b~5	4a~5	4b~5	5	5~6					
II		5/11	6(5/4)	2①(2/1)			1(1/1)								
			4b~5	4b			4b								
III		6/8	2(1/1)			7(7/3)			1(1/1)		1(1/1)	1(1/1)	2(2/1)	1(1/1)	
			5			4b~5			4b		5	4b	4b~5	5	
IV		15/40	1(1/1)	3(3/1)	1(1/1)	1(1/1)			1(1/1)					1(1/1)	
			4a	6	4a	6			4a					5	
表採等			2			①		1							
計		49/95	⁶³ (30/16)	^{14①} (9/5)	1(1/1)	^{12①} (10/6)	7(3/3)	7(6/3)	3(3/3)	5(3/2)	1(1/1)	2(1/1)	2(2/1)	1(1/1)	1(1/1)
			4a~6	4b~6	4a	4b~6	4a~5	4b~5	4a~5	5~6	5	4b	4b~5	5	5

群 地区 時期	文字													
	堤生	十	豊	↑	寺	寺 坏	大	へ	〔部 吉通〕	〔加 一 加 比 家 加 行〕	繼	卒	新	六 (大)
I		2①(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)		1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)
		4b・6	5	6	6		3	4a	4a	4a	4b	4b	4b	5
II	1(1/1)	1(1/1)			1(1/1)	1(1/1)								
	5	5			4b	4b								
III	1(1/1)													
	4b													
IV			1(1/1)	①(1/1)										
			6	3										
表採等			1											
計	2(2/2)	3①(3/3)	3(2/2)	2①(2/2)	2(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)
	4b・5	4b~6	5~6	3・6	4b・6	4b	3	4a	4a	4a	4b	4b	4b	5

群 地区 時期	文字													
	真	禾	禾 原	工	男	大 家	真	疾	士	信 會	佛	口 替	口 厭	惠
I	1(1/1)	1	1	1(1/1)	1	1	1	1	1					
	5	5		6	6				5					
II										1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	
										3	4b	4b	4b	
III														2(2/2)
														4b~5
IV														
表採等		1												
		5												
計	1(1/1)	2	1	1(1/1)	1	1	1	1	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	2(2/2)
	5	5		6	6				5	3	4b	4b	4b	4b~5

群 地区 時期	文字													
	土	朝 日	中	部	大 田	又	成	(刻書 山)	(〃) 井	(〃) 井	(〃) 千	(〃) ◎	(〃) 一	(〃) 文
I								①	①(1/1)	①	①(1/1)	①(1/1)		
									6		6	6		
II													①(1/1)	
													3	
III	1													①(1/1)
	5													1
IV		2(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	②(2/1)						
		4a	1	4a	4a	4a	6	1						
表採等			②											
計	1	2(2/2)	3②(2/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	③(2/1)	①(1/1)	①	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)
	5	4a	1	4a	4a	4a	6	1	6	①	6	6	3	1

群 (地区) 時期	文字			計			字体不明			合計		
	(ㇿ) ㇿ	(ㇿ) ㇿ	(ㇿ) ×	墨書	刻書	計	墨書	刻書	計	墨書	刻書	合計
I			⑤(3/3)	104(55)	11(6)	116(62)	⁴⁶ (31/21)	2(2/2)	⁴⁸ (33/23)	150(86)	13(8)	163(94)
			5~6									
II			①(1/1)	16(15)	3(3)	19(18)	3(3/2)		3(3/2)	19(18)	3(3)	22(21)
			5									
III				19(17)	1(1)	20(18)	19(19/5)		19(19/5)	38(36)	1(1)	39(37)
IV	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	16(16)	6(6)	22(22)	6(6/3)		6(6/3)	22(22)	6(6)	28(28)
	1	3	1									
表採等			1	5	4	9	16		16	21	4	25
計	①(1/1)	①(1/1)	8(5/5)	160(103)	25(17)	185(120)	⁹⁰ (59/22)	2(2/2)	⁹² (61/24)	250(162)	27(19)	277(181)
	1	3	1・5~6									

表13 北海道遺跡竪穴住居群別・時期別・規模別一覽

遺跡名	時期 規模	0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明	計	0~3期	4a~8期
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉				
I	竪穴住居数	0	0	0	3	2	2	1	0	0	0	0	8	3	5
	4m ² (2×2)以下				1								1	1	
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)						1						1		1
	6.25m ² ~9m ² (3×3)				2	1		1					4	2	2
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)					1	1						2		2
	12.25m ² ~16m ² (4×4)														
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)														
	20.25m ² (4.5×4.5)以上														
II	竪穴住居数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	4m ² (2×2)以下														
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)														
	6.25m ² ~9m ² (3×3)														
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)					1							1		1
	12.25m ² ~16m ² (4×4)														
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)														
	20.25m ² (4.5×4.5)以上														
III	竪穴住居数	0	1	7	16	10	10	5	0	0	2	5	56	24	27
	4m ² (2×2)以下														
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)				2							1	3	2	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)			3	6	3	2	3				1	18	9	8
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)			2	4	5	5	2			2	2	22	6	14
	12.25m ² ~16m ² (4×4)			2	3	2	2					1	10	5	4
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)				1								1	1	
	20.25m ² (4.5×4.5)以上		1				1						2	1	1
IV	竪穴住居数	0	0	1	4	4	5	0	0	0	0	0	14	5	9
	4m ² (2×2)以下					1							1		1
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)														
	6.25m ² ~9m ² (3×3)						1						1		1
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)				2	2	1						5	2	3
	12.25m ² ~16m ² (4×4)				1	1	3						5	1	4
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)				1								1	1	
	20.25m ² (4.5×4.5)以上			1									1	1	
V	竪穴住居数	0	1	2	2	0	0	1	0	0	0	0	6	5	1
	4m ² (2×2)以下														
	4m ² ~6.25m ² (2.5×2.5)				1								1	1	
	6.25m ² ~9m ² (3×3)			2									2	2	
	9m ² ~12.25m ² (3.5×3.5)							1					1		1
	12.25m ² ~16m ² (4×4)		1		1								2	2	
	16m ² ~20.25m ² (4.5×4.5)														
	20.25m ² (4.5×4.5)以上														

遺跡名	時期 規模	0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明	計	0~3期	4a~8期
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉				
VI	竪穴住居数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	4㎡(2×2)以下														
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)														
	6.25㎡~9㎡(3×3)														
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)														
	12.25㎡~16㎡ (4×4)														
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)				1										
20.25㎡ (4.5×4.5)以上															
VII	竪穴住居数	0	7	7	1	0	0	2	0	0	0	4	21	15	2
	4㎡(2×2)以下														
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)			1								1	2	1	
	6.25㎡~9㎡(3×3)		2									1	3	2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		1	4	1			1					6	6	2
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		2	1								1	4	3	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		1									1	2	1	
20.25㎡ (4.5×4.5)以上		1	1									2	2		
VIII	竪穴住居数	0	5	0	0	0	0	1	0	0	1	0	7	5	2
	4㎡(2×2)以下														
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)														
	6.25㎡~9㎡(3×3)							1					1		1
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		1								1		2	1	1
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		2										2	2	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		2										2	2	
20.25㎡ (4.5×4.5)以上															
計	竪穴住居数	0	14	18	26	17	17	10	0	0	3	9	114	58	47
	4㎡(2×2)以下				1	1							2	1	1
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)			1	3		1					2	7	4	1
	6.25㎡~9㎡(3×3)		2	5	8	4	3	5				2	29	15	12
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		2	6	7	9	7	5			3	2	41	15	24
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		5	3	5	3	5					2	23	13	8
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		3		2							1	6	5	0
20.25㎡ (4.5×4.5)以上		2	3			1						6	5	1	

表14 北海道遺跡出土坏形土器の群別・時期別出土数一覧

(上段：— 出土数 —
下段：(1住居当り出土数))

群 (地区)	時期	0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明	計	竪穴住居 外出土数		合計	0~3期	4a~8期
		8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉			0~ 3期	4a ~8期			
I					9/3 (3.0)	4/2 (2.0)	3/2 (1.5)	1/1 (1.0)					17/8 (2.1)			17/8 (2.1)	9/3 (3.0)	8/5 (1.6)
II						3/1 (3.0)							3/1 (3.0)			3/1 (3.0)		3/1 (3.0)
III		6/1 (6.0)	32/7 (4.6)	67/16 (4.2)	47/10 (4.7)	77/10 (7.7)	49/5 (9.8)				5/2 (2.5)	0/5	283/56 (5.1)	4		287/56 (5.1)	105/24 (4.4)	182/27 (6.7)
IV			15/1 (15.0)	39/4 (9.8)	10/4 (2.5)	42/5 (8.4)							106/14 (7.6)			106/14 (7.6)	54/5 (10.8)	52/9 (5.8)
V		4/1 (4.0)	4/2 (2.0)	6/2 (3.0)			4/1 (4.0)						18/6 (3.0)			18/6 (3.0)	14/5 (2.8)	4/1 (4.0)

時期 (地区)	0	1	2	3	4 a	4 b	5	6	7	8	不明	計	竪穴住居 外出土数		合計	0~3期	4a~8期	
	8C初葉 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初葉	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初葉 ~前葉			0~ 3期	4a ~8期				
VI			0/1									0/1			0/1	0/1		
VII		15/7 (2.1)	25/8 (3.1)	2/1 (2.0)			10/1 (10.0)				0/4	52/21 (2.5)		52/21 (2.5)	42/16 (2.6)	10/1 (10.0)		
VIII		4/5 (0.8)					2/1 (2.0)					3/1 (3.0)	9/7 (1.3)	9/7 (1.3)	4/5 (0.8)	5/2 (2.5)		
表採													7	7		7		
計		29/14 (2.1)	76/19 (4.0)	123/26 (4.7)	64/17 (3.8)	122/17 (7.2)	66/9 (7.3)					8/3 (2.7)	0/9	488/114 (4.3)	11	499/114 (4.4)	228/59 (3.9)	271/46 (5.9)

表15 北海道遺跡出土鉄器等の構成及び群別一覧 (個別鉄器等出土数:総出土数 (竪穴住居からの出土数 / 出土竪穴住居数))

群	時期	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	参考			
		農具			工具				紡錘具			刀子	釘	燧鉄	鉄	刀装具	馬具			製鉄	その他		
		鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鑿	錐	鋸	鉗	(鉄製)										(石・土製)	スラグ	羽口
I	計	1/8		1 (1/1)														1 1.5		1 (1/1)			
	8C代	0/3																					
	9C代	1/5		1 (1/1)														1 4.0					
	不明																						
II	0/1																						
III	計	16/56	2 (2/2)			1 (1/1)			18 (18/10)	1 (1/1)	2 (2/2)		2 (2/2)	26 38.2		5 (5/5)	2 (2/2)	丸順1 道方1					
	8C代	11/24	2 (2/2)					10 (10/6)	1 (1/1)	1 (1/1)			14 34.2		3 (3/3)								
	9C代	5/27				1 (1/1)		8 (8/4)		1 (1/1)		2 (2/2)	12 48.0		2 (2/2)	2 (2/2)	丸順1 道方1						
	不明	0/5																					
IV	計	7/14	2 (2/2)					5 (5/4)	9 (9/5)		3 (2/2)		3 (3/3)	17 25.0		3 (3/3)	1 (1/1)	鈍尾1					
	8C代	4/5	1 (1/1)					3 (3/2)	7 (7/3)		1 (1/1)		2 (2/2)	11 26.8			1 (1/1)	鈍尾1					
	9C代	3/9	1 (1/1)					2 (2/2)	2 (2/2)		1 (1/1)		1 (1/1)	5 20.0		3 (3/3)							
	不明										1			1									
V	計	3/6	2 (2/1)						2 (2/2)				3 (3/3)	7 10.3									
	8C代	2/5							1 (1/1)				2 (2/2)	3 7.3									
	9C代	1/1	2 (2/1)						1 (1/1)				1 (1/1)	4 16.0									
	不明																						

表16 北海道遺跡墨書土器等群出土一覧

(○印：刻書土器で内数) (総出土数 (竪穴住居からの出土数))

文字 群(地区) 時期	出土竪穴 住居数 調査竪穴 住居数	冨	㊦	万	㊧	へ	大	成	入	朝日	大田	木	盛	井大
I	3/8	2(2/2)	2(2/1)		1(1/1)									
		4 a・b	4 b		3									
II	1/1		1(1/1)											
			4 a											
III	33/56	11(11/7)	9(9/8)			4(4/4)	5①(5/4)	2(2/2)	2(2/1)	2(2/2)	2(2/2)	2(2/2)	1(1/1)	1(1/1)
		4 a~5	4 a~5			4 a・b	3・4 b	2	3	3~4 a	3~4 a	4 b	2	3
IV	10/14	12(12/6)	3(3/3)	1(1/1)		2(2/2)							1(1/1)	
		3~4 b	4 b・5	3		3~4 b							3	
V	2/6	1(1/1)												
		5												
VI	0/1													
VII	2/21		2(2/1)											
			5											
VIII	1/7													
表採等		1						1						
計		27(26/16)	17(17/14)	1(1/1)	1(1/1)	6(6/6)	5①(5/4)	2(2/2)	3(2/1)	2(2/2)	2(2/2)	2(2/2)	2(2/2)	1(1/1)

文字 群(地区) 時期	大井	井	仁	八	生		善	○	廓	豊	器	磯	共	凡足
					生	支								
I														
II														
III	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1	1	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)
	4 b	4 b	4 b	4 b	4 a	4 b	4 b	3	4 a	4 a	4 a	4 a	4 a	4
IV			2(2/2)	1(1/1)										
			4 b	3										
V														
VI														
VII							1(1/1)							
							5							
VIII														
表採等														
計	1(1/1)	1(1/1)	3(3/3)	2(2/2)	1(1/1)	1(1/1)								

群 地区 時期	文字													
	凡	一	丁	丌	繼	女形代 支那之刀自	勝光寺	村神丈 口	新	山	隆	經	十月六日 永和五年二月	天
I														
II														
III	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)					
	4b	4b	4b	4b	4b	2	3	4a						
IV									7(7/3)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	
									4b	4a	4b	4b	4b	
V														1(1/1)
														5
VI														
VII														
VIII														
表採等														
計														

群 地区 時期	文字						計			字体不明 (墨書)	合計		
	尼	止 (刻書)	× (〃)	入 (〃)	止 (〃)	++ (〃)	墨書	刻書	計		墨書	刻書	合計
I							5				5		5
II							1				1		1
III		①(1/1)					62	2		34(34/18)	96	2	98
		3								2~5			
IV			①(1/1)	①(1/1)			33	2		12(12/5)	45	2	47
			3	4b						3~4b			
V					①(1/1)		2	1			2	1	3
VI													
VII	1(1/1)					①(1/1)	4	1		3(3/1)	7	1	8
	5					2				5			
VIII										1(1/1)	1		1
										5			
表採等	1						3				3		3
計	2(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	①(1/1)	110	6	116	50(50/25)	160	6	166

表17 権現後遺跡竪穴住居群別・時期別・規模別一覧

遺跡名	規模	時期										不明	計	0~3期	4a~8期	
		0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8					
		8C初葉 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初葉	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初葉 ~前葉					
I	竪穴住居数	0	1	0	0	6	9	7	0	0	0	0	23	1	22	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1													
	6.25㎡~9㎡(3×3)					2	3	2					7		7	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)					2	4	2					8		8	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)					2	2	2					6		6	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)							1					1		1	
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上															
II	竪穴住居数	0	0	0	0	3	1	6	0	0	0	0	10	0	10	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡(2.5× 2.5)							1					1		1	
	6.25㎡~9㎡(3×3)							2					2		2	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)					2	1	2					5		5	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)							1					1		1	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)															
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上					1							1		1	
III	竪穴住居数	0	0	0	0	2	7	2	0	0	0	0	11	0	11	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)															
	6.25㎡~9㎡(3×3)							1					1		1	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)					1	5	1					7		7	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)						1						1		1	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)					1							1		1	
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上						1						1		1	
IV	竪穴住居数	0	0	2	8	4/5 (不明1)	4	1	0	0	0	0/1 (規模不明)	19/21	10	9/10	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)															
	6.25㎡~9㎡(3×3)				2	2	3	1					8	2	6	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)			1	5	1							7	6	1	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)			1	1	1	1						4	2	2	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)															
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上															
計	竪穴住居数	0	1	2	8	15/16	21	16	0	0	0	0/1	63/65	11	52/54	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1					1					2	1	1	
	6.25㎡~9㎡ (3×3)				2	4	6	6					18	2	16	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)			1	5	6	10	5					27	6	21	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)			1	1	3	4	3					12	2	10	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)					1	1	1					3		3	
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上					1							1		1	

表18 権現後遺跡出土環形土器の群別・時期別出土数一覧

(上段: $\frac{\text{出土数}}{\text{竪穴住居数}}$
下段: (1住居当り出土数))

時期 (地区)	0	1	2	3	4 a	4 b	5	6	7	8	不明	計	竪穴住居 外出土数		合計	0~3期	4a~8期
	8C初頭 ~前葉	8C中葉	8C後葉	8C末~ 9C初頭	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初頭 ~前葉			0~ 3期	4a ~8期			
I		2/1 (2.0)			21/6 (3.5)	67/9 (7.4)	60/7 (8.6)					150/23 (6.5)	19	169/23 (7.3)	2/1 (2.0)	167/22 (7.6)	
II					37/3 (12.3)	12/1 (12.0)	49/6 (8.2)					98/10 (9.8)	3	101/10 (10.1)		101/10 (10.1)	
III					19/2 (9.5)	69/7 (9.9)	16/2 (8.0)					104/11 (9.5)		104/11 (9.5)		104/11 (9.5)	
IV			8/2 (4.0)	15/8 (1.9)	18/5 (3.6)	25/4 (6.3)	5/1 (5.0)				0/1	71/21 (3.4)	4	75/21 (3.6)	23/10 (2.3)	52/11 (4.7)	
計		2/1 (2.0)	8/2 (4.0)	15/8 (1.9)	95/16 (5.9)	173/21 (8.2)	130/16 (8.1)				0/1	423/65 (6.5)	26	449/65 (6.9)	25/11 (2.3)	424/54 (7.9)	

表19 権現後遺跡出土鉄器等の構成

(個別鉄器等出土数: 総出土数 $\left(\frac{\text{竪穴住居からの出土数}}{\text{出土竪穴住居数}} \right)$)

群	時期	出土竪穴 住居数	生産用具												生活用具	武器馬具	不明	その他	参考								
			農具			工具				紡錘具		製鉄	その他	製鉄					その他	製鉄	その他						
			鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鋳	鋸	鉗	(鉄製)											(石製)	刀子	釘	燧鉄	鉄	刀装具
I	8C代	0/1																									
	9C代	9/22		7 (7/6)		1 (1/1)						1 (1/1)	2 (2/2)	11 (11/6)				1 (1/1)	5 (5/4)	1 (1/1)	27 (42.9)	1 (1/1)	4 (4/4)	3 (3/1)	3 (3/1)	1 (1/1)	2 (2/1)
	不明																										
	計	9/23		7 (7/6)		1 (1/1)						1 (1/1)	2 (2/2)	11 (11/6)				1 (1/1)	5 (5/4)	1 (1/1)	27 (40.9)	1 (1/1)	4 (4/4)	3 (3/1)	3 (3/1)	1 (1/1)	2 (2/1)
II	8C代																										
	9C代	5/10		6 (6/4)								1 (1/1)	1 (1/1)	2 (2/2)					3 (2/2)		12 (19.0)					2 (2/1)	
	不明																										
	計	5/10		6 (6/4)								1 (1/1)	1 (1/1)	2 (2/2)					3 (2/2)		12 (18.2)					2 (2/1)	
III	8C代																										
	9C代	5/11		3 (3/2)	1 (1/1)	1 (1/1)							4 (4/3)	8 (8/4)						2 (2/2)		15 (23.8)			3 (3/2)	3 (3/3)	3 (3/3)
	不明																										
	計	5/11		3 (3/2)	1 (1/1)	1 (1/1)							4 (4/3)	8 (8/4)						2 (2/2)		15 (22.7)			3 (3/2)	3 (3/3)	3 (3/3)

群	時期	出土墨穴 住居数	生産用具							生活用具				武器馬具		不明	その他	参考					
			農具			工具				紡錘具		刀子	釘	燧鉄	鉄			刀装具	馬具	製鉄	その他		
			鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鑿	錐	鋸	鉗										(鉄製)	(石・土製)	羽口
IV	8C代	1/10									1 (1/1)						2 (2/1)	3 100			1 (1/1)	鈍尾1	
	9C代	4/11		1 (1/1)							4 (4/2)				1 (1/1)		3 (3/3)	9 14.3			2 (2/2)		
	不明																						
	計	5/21		1 (1/1)							5 (5/3)				1 (1/1)		5 (5/4)	12 18.2			2 (2/2)	1 (1/1)	鈍尾1
計	8C代	1/11									1 (1/1)						2 (2/1)	3 4.5			1 (1/1)	鈍尾1	
	9C代	23/54		17 (17/13)	1 (1/1)	2 (2/2)					2 (2/2)	7 (7/6)	25 (25/14)			2 (2/2)	13 (12/11)	63 95.5		1 (1/1)	11 (11/9)	6 (6/4)	丸形2 透方2 鈍尾2
	不明																						
	計	24/65		17 (17/13)	1 (1/1)	2 (2/2)					2 (2/2)	7 (7/6)	25 (25/15)			2 (2/2)	15 (14/12)	66 100		1 (1/1)	11 (11/9)	7 (7/5)	丸形2 透方2 鈍尾3
割合			25.8	1.5	3.0					3.0	39.4			3.0	22.7	1.5	100						

表20 権現後遺跡墨書土器等群出土一覽

(○印：刻書土器で内数) (総出土数 (墨穴住居からの出土数) / 墨穴住居数)

群 (地区)	文字 時期	出土墨穴 住居数	大	継	南	匡	十	下	時	尾	大 伴部	□ 部	山	饒	豊
I	18/23	4(4/2)	3(3/2)	3(2/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)
		4a・5	4b	5	5	4b	4a	4a	4a	4a	4a	4a	4b	4b	5
II	9/10	2(2/1)	1(1/1)		1(1/1)										
		4b	4b		5										
III	9/11	2(2/2)		1(1/1)											
		4a・b		4b											
IV	8/21			1(1/1)		1(1/1)									
				4b		4a									
表採等		1													
計	44/65	9(8/5)	4(4/3)	5(4/3)	2(2/2)	2(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)

群(地区) 時期	文字	へ	神	清	富	生			器	夫(大)	村 神 部	国 依 官 部 (人部)	奉	主 堤	下	福
						生	主	主								
I	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1		17(16/7)										
	5	5				4a~5										
II					1(1/1)	39(38/7)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	①(1/1)		
					4a	4a~5	4a	4a	4a	4a	4a	5	5	4a		
III						14(14/8)								4①(4/4)	1(1/1)	
						4a~5								4a·b	4b	
IV						8(8/5)								3(3/2)		
						4a·b								4a·b		
表採等						2										
計	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1	1(1/1)	80(78/27)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	8②(8/7)	1(1/1)	

家	止	正(岡)	天人	宣口	円	成	96 (刻書)	計			(墨書) 字体不明	合計			
								墨書	刻書	計		墨書	刻書	合計	
								41(38)		41(38)	18(15/10)	59(51)			
											4a~5				
							①(1/1)	50(49)	2	52(51)	16(16/5)	66(65)	2	68(67)	
							5				4a~5				
1(1/1)								22	1	23	4(4/1)	26	1	27	
5											4b				
	5(5/4)	3(3/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)		25		25	16(16/8)	41			
	4a·b	4a	2	4b	4b	5					4a·b				
								2		2	4	6			
1(1/1)	5(5/4)	3(3/2)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	1(1/1)	①(1/1)	140(134)	3	143(137)	59(54/24)	198(185)	3	201(188)	

表21 高津新山遺跡出土墨(刻)書土器一覽(未完)

文字	丁	下	一	千	千	一	下	大	吉	井	++	中	生	堤
墨(朱)書土器数	17	5	10	6	4	1	2	2	2	1	1	1	1	1
刻書土器数	14	7		2	1					1		1		

文字	立	太	寸	午	毛	一	万	有	入	圓	器	ウ	〇
墨(朱)書土器数	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
刻書土器数						1	1	1					5

文字	米	一	キ	×	川	物	卍	十	丈	七	天
墨(朱)書土器数											
刻書土器数	10	1	11	11	1	3	1	3	1	1	1

文字	計	不 字 明 体	小 計	合 計
墨(朱)書土器数	63	68	131	229
刻書土器数	78	20	98	

表22 村神郷内の主な集落遺跡検出竪穴住居群別・時期別・規模別一覧

遺跡名	時期 規模	0	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	不明	計	0~3期	4a~8期	
		8C初葉 前葉	8C中葉	8C後葉	8C末 9C初葉	9C前葉 (前半)	9C前葉 (後半)	9C中葉	9C後葉	9C末	10C初葉 前葉					
村上込の内	竪穴住居数	16	23	55/56			31	11	9	0	0	0	154/155	103/104	51	
	4㎡(2×2)以下						1						1		1	
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1	2	1									4	4	
	6.25㎡~9㎡(3×3)	7	9	10	1		6	2						35	27	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)	7	7	26	3		10	3	3					59	43	16
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		4	10	4		6	3	3					30	18	12
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)	1	2	4			4	1						12	7	5
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上	1		3			4	2	3					11	2	9
権現後	竪穴住居数	0	1	2	8	15/16	21	16	0	0	0	0/1	63/65	11	52/53	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1					1						2	1	1
	6.25㎡~9㎡(3×3)				2	4	6	6						18	2	16
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)			1	5	6	10	5						27	6	21
	12.25㎡~16㎡ (4×4)			1	1	3	4	3						12	2	10
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)					1	1	1						3		3
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上					1								1		1
北海道	竪穴住居数	0	14	18	26	17	17	10	0	0	3	9	114	58	47	
	4㎡(2×2)以下				1	1								2	1	1
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)			1	3		1					2		7	4	1
	6.25㎡~9㎡(3×3)		2	5	8	4	3	5				2		29	15	12
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		2	6	7	9	7	5			3	2		41	15	24
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		5	3	5	3	5					2		23	13	8
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		3		2							1		6	5	0
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上		2	3			1							6	5	1
井戸向	竪穴住居数	0	19	0	15	20	8	13	7	6	1	6	95	34	55	
	4㎡(2×2)以下				1			1				1	3	1	1	
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		1		2	1		2	1				7	3	4	
	6.25㎡~9㎡(3×3)		2		4	9	2	3	1	2		2	25	6	17	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		4		5	6	3	4	2	2	1	1	28	9	18	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		4		2	3	1	2	3	2		2	19	6	11	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		4		1	1		1					7	5	2	
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上		4				2						6	4	2	
白幡前	竪穴住居数	2	30	21	72	45/46	22	35	23	13	1	14	278/279	125	139/140	
	4㎡(2×2)以下															
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		3	1	4			4	1	1		1	15	8	6	
	6.25㎡~9㎡(3×3)		6	4	12	7	3	7		4		3	46	22	21	
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)		8	5	25	14	6	10	10	2	1	4	85	38	43	
	12.25㎡~16㎡ (4×4)		1	5	7	15	4	10	6	5		4	72	28	40	
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)		4	3	5	3	4	2	4	1		2	28	12	14	
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上		1	4	1	11	6	5	2	2			32	17	15	
計	竪穴住居数	18	87	96/97	130	196/198	85	39	19	5	29/30	704/708	331/332	344/346		
	4㎡(2×2)以下				2	2	1				1	6	2	3		
	4㎡~6.25㎡ (2.5×2.5)		6	4	10		2	7	2	1	3	35	20	12		
	6.25㎡~9㎡(3×3)	7	19	19	27	44	23	1	6		7	153	72	74		
	9㎡~12.25㎡ (3.5×3.5)	7	21	38	45	71	27	15	4	5	7	240	111	122		
	12.25㎡~16㎡ (4×4)	1	18	21	27	44	18	12	7		8	156	67	81		
	16㎡~20.25㎡ (4.5×4.5)	1	13	7	8	14	5	4	1		3	56	29	24		
	20.25㎡ (4.5×4.5)以上	2	10	7	11	19	4	5				58	30	28		

表23 村神郷内の主な集落遺跡鉄器出土状況

遺跡名	時期別	竪穴住居数 (a)	掘立柱建物数 (b)	出土鉄器数 (c)	鉄器出土率 (c/a)	出土住居数 (d)	出土住居率 (d/a)	平均出土点数 (c/d)	掘立柱建物普 及率(b/a)
村上込の内	計	155	24	150	0.97	60	0.39	2.50	0.15
	8C代(～9C初含む)	104		51	0.49	31	0.30	1.65	
	9C代	51		94	1.84	29	0.57	3.24	
	10C代								
	不明	0		5		0			
白幡前	計	279	150	251	0.90	105	0.38	2.39	0.54
	8C代(～9C初含む)	125		74	0.59	36	0.29	2.06	
	9C代	139		168	1.21	68	0.49	2.47	
	10C代	1		0	0	0			
	不明	14		9		1			
井戸向	計	95	49	89	0.94	39	0.41	2.28	0.52
	8C代(～9C初含む)	34		30	0.88	16	0.47	1.86	
	9C代	54		52	0.96	23	0.43	2.26	
	10C代	1		0	0	0			
	不明	6		7		0			
北海道	計	114	10	68	0.60	39	0.34	1.77	0.09
	8C代(～9C初含む)	58		41	0.71	26	0.45	1.58	
	9C代	44		25	0.57	12	0.27	2.08	
	10C代	3		0	0	0			
	不明	9		2		1			
権現後	計	65	17	66	1.01	24	0.37	2.75	0.26
	8C代(～9C初含む)	11		3	0.27	1	0.09	3.00	
	9C代	53		63	1.19	23	0.43	2.74	
	10C代								
	不明	1		0	0	0			
計	計	708	250	624	0.88	267	0.38	2.34	0.35
	8C代(～9C初含む)	332		199	0.60	110	0.33	1.81	
	9C代	341		402	1.18	155	0.45	2.59	
	10C代	5		0	0	0	0		
	不明	30		23	0.77	2	0.07	11.5	

表24 村神郷内の主な集落遺跡出土鉄器等の構成

遺跡	時期	出土型穴 住居数	生産用具										生活用具				武器馬具		不明	その他	出土鉄器 割合/全体	参考							
			農具				工具				紡錘具		刀子	釘	燧鉄	鉄	刀装具	馬具				製鉄	その他						
			鋤	鎌	摘鎌	手斧	鉋	鋳	錐	鋸	鉗	(鉄製)											(石・土製)	スラフ	羽口	砥石	帯金具	環状 目録 鉈 鉈	
村上込の内	計	60/155	3	16	7	4			2			11	19	50	5	1		12	1	2	36	銅製品1	150 24.0	22	2	34	6	鉈具1 鉈尾1 巡方4	
	8C代	31/103		5	6	1						2	9	19					5	1	12	銅製品1	52 25.7	1		10		鉈具1	
	9C代	29/52	3	11	1	3			2			9	8	31	5						21		93 23.1	21	2	23	5	巡方4	
	不明											2									3		5			1		鉈尾1	
白幡前	計	105/279		20	14	2	1	1			1	1	12	32	95	5	1	1	38		3	50	銅製品3 門3	251 40.2			33	8	鉈具2 丸鉈1 巡方5
	8C代	36/125		1	6			1				1	9	29	5				15		2	14	銅製品1	74 37.1			11	1	巡方1
	9C代	68/140		18	7	1	1				1	1	11	22	64			1	1	23	1	34	銅製品2 門3	169 42.0			20	7	鉈具2 丸鉈1 巡方4
	不明	1/14		1	1	1						1	2								2		7			2			
井戸向	計	39/95		6	4	1			1	1			1	13	33					21		20	銅製品1 青銅製 小仏像 1 富寿 神宝 1	89 14.3		2	24	5	鉈具1 丸鉈1 巡方2 鉈尾1
	8C代	16/34			1								4	11					14		4	青銅製 小仏像 1	30 14.9			11	1	鉈具1	
	9C代	23/55		5	2			1	1		1		8	21					7		14	銅製品1 富寿 神宝 1	53 13.2		2	11	3	丸鉈1 巡方2	
	不明	0/6		1	1	1						1	1							2			6			2	1	鉈尾1	
北海道	計	39/114		7	3	2	1		1				5	34				1	7	1	10	銅製品1	68 10.9			11	3	丸鉈1 巡方1 鉈尾1	
	8C代	26/58		4	1	2	1		1				3	22					1	4	4	銅製品1	42 20.8			5	1	鉈尾1	
	9C代	12/47		3	2								2	12					2		5		24 6.0			6	2	丸鉈1 巡方1	
	不明	1/9																	1		1		2						
権現後	計	24/65		17	1	2					2	7	26						2		15	銅製品1	66 10.6		1	11	7	丸鉈2 巡方2 鉈尾3	
	8C代	1/11											1								2		3 1.5				1	鉈尾1	
	9C代	23/54		17	1	2					2	7	25						2		13	銅製品1	63 15.7		1	11	6	丸鉈2 巡方2 鉈尾2	
	不明																												
合計	合計		3	66	29	11	2	4	2	1	2	25	76	238	10	2	2	80	1	6	131	銅製品2 3 銅製品1 青銅製 小仏像 1 富寿 神宝 1	624 100	22	5	113	28	鉈具3 丸鉈5 巡方 15 鉈尾5	
	8C代			10	14	3	1	1	1			3	25	82	5	1	1	38	1	3	36	銅製品1 銅製品1 青銅製 小仏像 1	202 32.4	1		37	3	鉈具1 巡方1 鉈尾1	
	9C代		3	54	13	6	1	3	1	1	2	22	47	153	5	1	1	39		3	87	銅製品2 3 銅製品1 富寿 神宝 1	402 64.4	21	5	71	24	鉈具2 丸鉈5 巡方 14 鉈尾3	
	不明			2	2	2						4	3				3			8		20 3.2			5	1	鉈尾1		
割合			0.5	10.6	4.6	1.8	0.3	0.6	0.3	0.2	0.3	4.0		38.1	1.6	0.3	0.3	12.8	0.2	1.0	21.0	1.5	100						

表25 村神郷内の主な集落遺跡出土共通文学資料等一覧

遺跡名 文字	時期	白 幡 前									井 戸 向					
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計
○ (○)	1		1/1								1/1					
	2															
	3		1(14)/5								10(14)/5					
	4a		3/3					1/1			4/4					
	4b		11/1								11/1					
	5		1/1								1/1					
	6															
	7															
	8		1/1								1/1					
	計		27 (31)/12						1/1		28 (32)/13					
山	1															
	2		1/1								1/1				2/1	2/1
	3															
	4a															
	4b															
	5		1/1								1/1					
	6															
	不明											0(1)/0				0(1)/0
計		2/2								2/2	0(1)/0			2/1	2(3)/1	
文	1		1/1								1/1		1/1		1/1	
	2							1/1			1/1					
	3					3/2	4/2	2/2	2/2	1/1	12/9					
	4a							1/1		1/1	2/2					
	計		1/1			3/2	4/2	4/4	2/2	2/2	16/13			1/1		1/1
入	2							1/1			1/1					
	3									1/1	1/1					
	4a		2/2			3/1					5/3					
	4b	2/1	1/1		1/1					1/1	5/4	1/1	5/2		6/3	
	5	5/3	1/1		2/1		4/1	2/1			14/7	1(2)/1	2/1		3(4)/2	
	6		1/1								1/1			1/1	1/1	
	不明										1/1	0(1)/0				0(1)/1
	計	7/4	5/5			6/3		5/2		2/2	27/17	2(4)/2	7/3	1/1	10(12)/6	
	4a	12/1	1/1								13/2		1/1	1/1	2/2	
生	4b	4/1	3/1		1/1					1/1	9/4		1/1		1/1	
	5	9/5	20/2		2/1		2/1			1/1	34/10	1(3)/1	1/1		2(4)/2	
	6	3/1	3/1	4/1		1/1					11/4	3/2			3/2	
	7					1/1					1/1					
	不明	0(6)/0	0(3)/0								0(9)/0	0(1)/0				
	計	28(34)/8	27(30)/5	4/1	3/2	2/2	2/1			2/2	68 (77)/21	4(7)/3	3/3	1/1	8(11)/7	
	4a															
堤	3	1/1		1/1							2/2					
	4a	3/2									3/2					
	4b	1/1									1/1					
	5	2/1	1/1								3/2					

〈時期別・群(地区)別消長表〉 (文字別出土数: 竪穴住居からの出土数(総出土数)
出土竪穴住居数)

北海道									権現後					高津	村上込の内					名主山	合計	
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計		
		1/1						1/1														
		1/1						1/1														30 (34)/15
																		1/1		1/1		
																	1/1		1/1	2/2		
		1/1						1/1					1/1		2/2		1/1	1/1	4/4			
									1/1				1/1						2/1	2/1		
																		1/1	2/2	3/3		
		1/1						1/1	1/1				1/1		2/2	1/1	3/3	6/5	12/11			18 (19)/16
																						17/14
		2/1						2/1														
																1/1				1/1		
																		1/1		1/1		
		2/1						0(1)/0	2(3)/1					1/1	1/1		1/1		2/2			42 (45)/27
		1/1						1/1	1/1	25(26)/4	2/1	2/2	30(31)/8									
		1/1						1/1	6/3	5/1	11/6	6/3	28/13									
									9/3	10/4	1/1		20/8									
								0(1)/0					その場 0(2)/0							0(3)/0		
		2/2						2/2	16(17)/7	48(41)/9	14/8	8/5 6(2)地 0(2)/0	78 (82)/29	1/1								15 (12)/60

遺跡名 文字	時期	白 幡 前									井 戸 向					
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計
堤	6	2/1				1/1					3/2					
	計	9/6	1/1	1/1		1/1					12/9					
堤生	4a								1/1		1/1					
	4b				1/1						1/1		1/1		1/1	
	5	4/1									4/1		1/1		1/1	
	計		4/1			1/1				1/1		6/3		1/1	1/1	
生堤	4b	3/1									3/1		1/1		1/1	
	5	6/1									6/1		2/2		2/2	
	計	9/2									9/2		3/3		3/3	
下	3	3/2									3/2					
	4a	1/1									1/1					
	4b															
	計	4/3									4/3					
有	6	1/1									1/1					
継	4a								1/1	1/1						
	4b	3/1	12/1	3/1	1/1						27/5	1/1				
	5	4/2	6/2	1/1						1/1	12/6					
	6	1/1	1/1	2/1							4/3					
	計	8/4	19/4	6/3	1/1					3/3	37/15	1/1				1/1
立	4a		1/1								1/1					
	4b															
	5		3/1								3/1					
	6		3/1				1/1			1/1	5/3					
	7		6/1								6/1					
	不明		0(7)/0	0(1)/0							0(8)/0					
	計		13(20)/4	0(1)/0			1/1			1/1	15(23)/6					
大井	3		2/1								2/1					
	4a															
	4b		1/1								1/1					
	計		3/2								3/2					
井	3		0(1)/0								0(1)/0					
	4a					1/1			1/1		2/2					
	4b	1/1				1/1					2/2					
	5		1/1					1/1			2/2					
	6		1/1			2/1					3/2	1/1			1/1	
	7					1/1					1/1					
	計	1/1	2(3)/2			5/4		1/1	1/1		10(11)/9	1/1				1/1
佛	3			2/1							2/1					
	4b											1/1			1/1	
	計			2/1							2/1	1/1			1/1	
寺坏	3			1/1							1/1					
	4a															
	4b					1/1					1/1	1/1			1/1	
	不明			0(1)/0							0(1)/0					
	計			1(2)/1		1/1					2(3)/2	1/1			1/1	

北海道									権現後					高津	村上込の内					名主山	合計	
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計		
														1/1								13/10
2/2																						8/5
										1/1			1/1									
										1/1			1/1									13/6
										1/1	1/1	2/1	4/3									
											3/3	1/1	4/4									
										1/1	4/4	3/2	8/7									12/10
														(2/2)								3/3
		1/1						1/1	3/2	1/1			4/3									
		1/1						1/1	3/2	1/1			4/3									43/20
														1/1								16(24)/7
		1/1						1/1														
		1/1						1/1														4/3
																	②1/1	②2/2	①	⑤		
		1/1						1/1														
		1/1						1/1						2/2			②1/2	③1/1	①	5/5		¹⁹ (20)/18
																						3/2
																						3(4)/3

遺跡名 文字	時期	白 幡 前										井 戸 向					
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計	
寺	4a			1/1								1/1					
	4b	1/1										1/1				1/1	
	5																
	6											1/1				1/1	
	計	1/1		1/1								2/2	1/1	1/1			2/2
又	4a						1/1			1/1	2/2					1/1	1/1
	4b																
	5			1/1								1/1					
	計			1/1			1/1			1/1	3/3					1/1	1/1
器	3		1/1									1/1					
	4a				2/1							2/1					
	4b			0(1)/0						1/1	1(2)/1						
	計		1/1	0(1)/0	2/1					1/1	4(5)/3						
夫 (大)	3					2/2						2/2					
	4a					3/3	1/1		1/1			5/5					
	4b	2/1		0(1)/0	2/1	25/4	1/1		1/1		31(32)/8						
	5	2/1				2/1	1/1	1/1			6/4	1/1					1/1
	6					1/1					1/1						
	計	4/2		0(1)/0	2/1	33/11	3/3	1/1	2/2		45 (46)/20	1/1					
家	4b		1/1			3/2			1/1		5/4						
	5		1/1								1/1						
	計		2/2			3/2			1/1		6/5						
大家	5					1/1					1/1						
	不明											0(1)/0					0(1)/0
	計					1/1					1/1	0(1)/0					0(1)/0
廓	4a			0(1)/0		3/2	8/1	2/1		2/2	15(16)/6						
	4b				1/1	2/1	3/1	2/1		10/2	18/6						
	5	1/1				1/1	7/4				9/6						
	計	1/1		0(1)/0	1/1	6/4	18/6	4/2		12/4	42 (43)/18						
田	3																
	5						1/1				1/1						
	6																
	計							1/1			1/1						
太	3																
	5						1/1				1/1						
	計						1/1				1/1						
工	3		1/1				1/1				2/1						
	4b								1/1		1/1						
	6											1/1					1/1
	計		1/1				1/1		1/1		3/3	1/1					1/1
園	3							1/1			1/1						
	4a																
	4b					1/1	1/1	1/1	1/1	2/1	6/5						
	5					1/1	1/1	3/1	1/1		6/4						
	不明					0(1)/0		0(1)/0			0(2)/0						
	計					2(3)/2	2/2	5(6)/3	2/2	2/1	13 (15)/10						

北海道									権現後					高津	村上込の内						名主山	合計	
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計			
																							4/4
																							4/4
	1/1							1/1		1/1			1/1										
		1/1						1/1		1/1			1/1										6(7)/5
										1/1			1/1										
										1/1			1/1										47 (48)/22
												1/1	1/1			3/1				3/1			
												1/1	1/1										
												1/1	1/1			3/1				3/1			9/6
																							1(2)/1
		0(1)/0						0(1)/0															
		0(1)/0						0(1)/0															42 (44)/18
																1/1				1/1			
																			1/1	1/1			
																	1/1		1/1	2/2			3/3
																		1/1		1/1			
														1/1				1/1		1/1			3/3
																							4/4
														1/1									14 (16)/11

遺跡名 文字	時期	白 罎 前										井 戸 向				
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計
↑	3														1/1	1/1
	4a		1/1								1/1					
	4b	1/1								1/1	2/2					
	5							1/1			1/1					
	6											1/1				1/1
	計	1/1	1/1					1/1		1/1	4/4	1/1			1/1	2/2
↑	5							1/1		1/1						
卍	3		1/1		1/1				3/3	5/5						
	4a					1/1			1/1	2/2						
	4b			0(1)/0		1/1			20/2	21(22)/3						
	5	1/1								1/1						
	6															
	不明											1/1 (續列)				1/1
計	1/1	1/1	0(1)/0	1/1	2/2			23/5	1/1	29 (30)/11	1/1				1/1	
善	4a								1/1	1/1						
	4b								1/1	1/1						
	5															
	計								2/2	2/2						
丈	4a								1/1	1/1						
	4b															
	5															
	計								1/1	1/1						
丈部人足	3			1/1												
丈部乙刀自女	2															
村神丈口	4a															
村神郷丈部国依	4a															
饒	4a									4/2	4/2					
	4b							1/1		10/2	11/3					
	計							1/1		10/4	15/5					
豊	4a															
	4b						1/1			8/2	9/3					
	5											1/1			1/1	
	6														1/1	1/1
	不明														表採 0(1)/0	0(1)/0
計						1/1			8/2	9/3	1/1			1(2)/1	2(3)/2	
古	1		1/1								1/1					
	3									1/1	1/1					
	4a							1/1		2/2	3/3					
	4b							1/1			1/1					
	5							1/1			1/1					
	6															
	計		1/1					3/3		3/3	7/7					
大田	3									1/1	1/1					
	4a														1/1	1/1
	4b		1/1								1/1					
	5	1/1									1/1					
	計	1/1	1/1								2/2					

北海道									権現後					高津	村上込の内						名主山	合計
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計		
																		1/1		1/1		
																		1/1		1/1		7/7
																						2/2
						1/1 (繰別)		1/1														
																		1/1 (繰別)		1/1		
						1/1		1/1						1/1				1/1		1/1		33 (34)/15
								1/1														
		1/1																				
						1/1		1/1														
		1/1				1/1		2/2														4/4
																1/1				1/1		
															1/1					1/1		
														1/1	1/1	1/1				2/2		4/4
																						1/1
		1/1																				1/1
		1/1																				1/1
											1/1											1/1
											1/1											
											1/1		1/1									16/6
		0(1)/0						0(1)/0														
											1/1											
													1/1									
		0(1)/6						0(1)/0	1/1				1/1									12(14)/6
																			1/1	1/1		
																		1/1	1/1		8/8	
		1/1						1/1														
		1/1						1/1														

遺跡名 群(地区)	時期	白 幡 前									井 戸 向						
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計	
奉	文字																
	計	1/1	1/1							1/1	3/3					1/1	1/1
	4a																
	4b	1/1									1/1						
	計	1/1									1/1						
富	3											2/1					2/1
	4a									1/1	1/1					1/1	1(3)/2
	4b						1/1				1/1	3/2	3/3				6/5
	5	1/1	1/1								2/2	14(16)/4	2/1	1/1			17(19)/6
	6											4(7)/3					4(7)/3
	不明											0(22)/0	0(1)/0	0(2)/0	表採 0(2)/0	0(26)/0	
計	1/1	1/1				1/1			1/1	4/4	23 (52)/10	5(6)/4	1(2)/1	1/1 0(2)/0	30 (63)/16		
盛	2																
	3																
	4a										1/1						1/1
	4b												1/1				1/1
	5											1(3)/1					1(3)/1
	7					1/1					1/1						
	不明											0(2)/0					0(2)/0
計					1/1				1/1	2(6)/2	1/1					3(7)/3	
㊦	4a																
	5	1/1								1/1	2/2						2/2
	6														3/1	3/1	
	不明											0(5)/0					0(5)/0
計	2/2			1/1					3/3	4(9)/3	2/1			3/1	9(14)/5		
万	3																
	4a														1/1	1/1	
	4b																
	5							1/1		1/1							
	6					1/1				1/1							
	計					1/1		1/1		2/2					1/1	1/1	
大	3		0(1)/0								0(1)/0	1/1					1/1
	4a					1/1					1/1						
	4b																
	5																
	不明																
計		0(1)/0			1/1				1(2)/1	1/1						1/1	
へ	3			1/1						1/1							
	4a										1/1						1/1
	4b																
	5																
	計			1/1						1/1	1/1						1/1
成	2																
	5		1/1							1/1							
	6														1/1	1/1	

北海道									権現後					高津	村上込の内					名主山	合計	
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計		
		2/2						2/2												6/6		
															1/1				1/1			
										1/1			1/1									
										1/1			1/1		1/1				1/1			3/3
			3/2					3/2														5/3
1/1		3/3	1/1					5/5														6(8)/6
1/1		4/3	8/3					13/7														
		4/1		1/1				5/2														
							表採 0(1)/0	0(1)/0	0(1)/0				0(1)/0									
2/2		11/7	12/6	1/1			0(1)/0	²⁶ (27) 16	0(1)/0				0(1)/0									⁶⁰ (95) 36
		1/1						1/1														
			1/1					1/1														
		1/1	1/1					2/2														6(10) 6
	1/1							1/1														
		3/2	1/1			1/1		5/4														
2/1	1/1	9/8	3/3					16/14														²⁸ (33) 22
				1/1				1/1														
				1/1				1/1						2/2								6/6
		4/3						4/3														
								1/1	1/1			2/2										
		1/1						1/1	2/1	1/1		3/2										
								3/1				3/1						2/2		2/2		
											表採 0(1)/0	0(1)/0		0(1)/0						0(1)/0		
		5/4						5/4	4/2	2/1	2/2	0(1)/0	8(9)/5	2/2	0(1)/0				2/2	2(3)/2		¹⁹ (22) 15
			1/1					1/1														
		2/2						2/2														
		2/2	1/1					3/3														
								1/1				1/1										
		4/4	2/2					6/6	1/1			1/1										9/9
		2/2						2/2														
												1/1	1/1									

遺跡名 群(地区)	時期	白 幡 前										井 戸 向					
		1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計	
十	文字		1/1									1/1				1/1	1/1
	計		1/1									1/1				1/1	1/1
	4a																
	4b							1/1		1/1	2/2	1/1					1/1
	5											1/1	1/1				2/2
山	計							1/1		1/1	2/2	2/2	1/1				3/3
	4a																
	4b	1/1									1/1						
丁	計	1/1									1/1						
	4a			1/1							1/1						
	4b																
	5						1/1				1/1						
丁	計			1/1			1/1				2/2						
	4b																
	4b								1/1		1/1						
加	計								1/1		1/1						
	4b											2/1				2/1	
	5											4/2				4/2	
仁	不明															0(1)/0	0(1)/0
	計											6/3			0(1)/0	6(7)/3	
	1														1(1/1)	1/1	
	不明															2	
中	計														3(1)/1	3/3	
	2																
	4b																
木	計																
	4b																
新	計												1/1				
	4b												1/1				
	5																
天	計																
	3																
朝日	計															2/2	2/2
	4a															2/2	2/2
	計															2/2	2/2
千	2																
	3																
	4a																
	4b																
	5																
	6												1/1(朝)				1/1
	計												1/1				1/1
一千	1																
	2																
	3																
	4a																
	4b																
	5																

北海道									権現後					高津	村上込の内					名主山	合計		
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計			
		2/2				1/1		2/2				1/1	1/1										5/5
												1/1	1/1		1/1						1/1		
									1/1				1/1										
									1/1			1/1	2/2	3/3	1/1						1/1		11/11
												2/2	2/2										
												3/2	3/2										
												5/4	5/4										6/5
		1/1						1/1															
		1/1						1/1						31/15									34/18
		1/1						1/1						12/11									13/12
																						18/	19/
		1/1	2/2					3/3															
		1/1	2/2					3/3															9(10) 6
														2/1									5/4
																	1/1				1/1		
		2/2						2/2															
		2/2						2/2									1/1				1/1		3/3
			7/3																				
				1/1				1/1															
				1/1				1/1					1/1										2/2
		1/1						1/1															
		1/1						1/1									1/1				1/1		5/5
		2/2						2/2															
																	1/1(明)				1/1		
																	1/1		1/1		2/2		
														8/7	1/1	1/1	1/1				3/3		12/11
												10/4											10/4
																		1/1			1/1		
																		2/1			2/1		
																			1/1		1/1		
														2/1	1/1	7(9)/2	1/1				11(13)/5		
																	6(8)/1	1/1			7(9)/2		

遺跡名 文字	群(地区)	時期	白 幡 前										井 戸 向					
			1A	1B	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3	計	I	II	III	IV	計	
毛		6																
		不明																
		計																
卍		2																
		3																
		4a・b																
		計																
林		4a・b																
		計																
真		5											1/1					1/1
		計											1/1					1/1
凡		4b											1/1	1/1				
貞		5	2/1											?				
		不明												0(1)/0				0(1)/0
		計	2/1											2/1	0(1)/0			0(1)/0
益		3		3/2	2/2	1/1								6/5				
六		4a																

註

- (1) 天野努「下総国印幡郡村神郷とその故地」『勸千葉県文化財センター研究紀要10』(勸千葉県文化財センター 1984年)
- (2) ① 鬼頭清明「郷・村・集落」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集 国立歴史民俗博物館 1989年
② 同 「古代」『日本村落史講座9 特論』雄山閣 1993年
- (3) 大野康男「古代集落としての白幡前遺跡」『八千代市白幡前遺跡』(勸千葉県文化財センター 1991年)
- (4) 天野努「古代の集落」『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』八千代市 1991年
- (5) 藤岡孝司「古代東国村落の分析(1)―千葉県八千代市萱田地区遺跡群と墨書土器―」
『相武考古学研究所研究紀要』第2集 相武考古学研究所 1991年
- (6) 天野努・千葉健造他『八千代市村上遺跡群』(勸千葉県都市公社 1974年)
- (7) 『名主山遺跡』名主山遺跡発掘調査団
- (8) 大野康男他『八千代市白幡前遺跡』(勸千葉県文化財センター 1991年)
- (9) 藤岡孝司『八千代市井戸向遺跡』(勸千葉県文化財センター 1987年)
- (10) 阪田正一・藤岡孝司『八千代市北海道遺跡』(勸千葉県文化財センター 1985年)
- (11) 阪田正一『八千代市権現後遺跡』(勸千葉県文化財センター 1984年)
- (12) 朝比奈竹男他『千葉県八千代市高津新山遺跡』・『同II』・『同III』 八千代市教育委員会 1982年・1983年・

北 海 道										権 現 後					高津	村上込の内					名主山	合計		
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計		I	II	III	IV	計		A	B	C	D	E	計			
																				3/2		3/2		
																				0(1)/0		0(1)/0		
																1/1	2/1		1/1	19(24) 7	3/3	25 (30) 12	1/1	27 (32) 14
																				1/1		1/1		
																				1 1(期)		1/1		
																				1/1		1/1		
																1 1(期)				1/1	2/2	3/3		4/4
																	6/3							
																	6/3					6/3	1/1	7/4
																							1/1	2/2
		1/1						1/1									1/1					1/1		32/23
																								2(3)/1
																								6 5
		1/1																						7 6
																								1 1

1984年

「高津新山遺跡出土品展示会」資料、高津新山遺跡調査会 1990年

(13) 平川南・天野努・黒田正典「古代集落と墨書土器－千葉県八千代市村上込の内遺跡の場合－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集 国立歴史民俗博物館 1989年

(14) 註8

(15) 註5

(16) 松村恵司「古代集落と鉄器所有」『日本村落講座4 政治I』雄山閣 1991年

(17) 註16

(18) 本論記載の墨書土器については、調査担当者の朝比奈竹男氏から、整理作業中のものであるが資料の提示をうけ、さらに多大の御教示をうけている。一覧表はそれに基づいて筆者が作成したものであり、内容に誤りがある場合はその責任は筆者にある。

(19) この「勝光寺」(ショウコウジ)について、藤岡孝司氏は、註5論文で木下良氏による、国府やその付近に同音の寺院が複数存在するという指摘と、この墨書土器のタイプが萱田地区遺跡群の中では特異であること、下総国府所在地である東葛地域の土器に類似したタイプがみられることから、下総国府の付属寺院として存在した可能性も想定される「勝光寺」との関連を考えているようである。しかし、「勝光寺」の記載の墨書土器のタイプは、村上込の内遺跡においても類似したものがみられ、その土器のみが他の地域から持込れたとする必要

もないと考えられる。ここでは、存在が不明確な寺よりも、北海道遺跡の目前に存在した白幡前遺跡の村落内寺院の俗称と把握しておきたい。

- (20) 註16
- (21) 落合章雄『八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡』(勸千葉県文化財センター 1989年)
- (22) 註16
- (23) 平川南「土器に記された文字」『月刊文化財11』第1法現版 1993年
- (24) 大野康男「古代の村-村人の移動と広がり-」『房総考古学ライブラリー7 歴史時代(1)』(勸千葉県文化財センター 1993年)
- (25) 註16
- (26) 註2①
- (27) 註2②
- (28) 註1
- (29) 註1
- (30) 天野努「出土文字資料と地名 I 「墨書土器と地名」覚書」『千葉県史研究』第2号 千葉県 1994年
- (31) 笹生衛「国分寺遺構の地方寺院」『房総考古学ライブラリー7 歴史時代(1)』(勸千葉県文化財センター 1993年)
- (32) 高木博彦「墨書土器よりみたる房総古代仏教の一側面」『MOSEUMちば-千葉県博物館協会研究紀要-』第10号 千葉県博物館協会1979年
- (33) 佐々木虔一「八世紀の村落における仏教-特に日本靈異記を中心にして-」『民衆史研究』9号1973年
- (34) 註32
- (35) 須田勉「平安初期における村落内寺院の存在形態」『古代探叢II』早稲田大学考古学会
- (36) 郷堀英司「鳴神山遺跡群出土の文字資料」『研究連絡誌』第40号 (勸千葉県文化財センター 1994年)
- (37) 平川南「庄作遺跡出土の墨書土器について」『山武郡芝山町小原子遺跡群』山武考古学研究所 1989年
- (38) 石田守一「我孫子市新木東台遺跡」『房総における歴史時代土器の研究』房総歴史考古学研究第1集 房総歴史考古学研究会 1987年
- (39) 註30
- (40) 註3・5
- (41) 註2①
- (42) 津田仁「地方官衛の墨書土器」『月刊文化財11』 第一法現出版 1993年

(千葉県立総南博物館)